東京医療保健大学　第３期中期目標・計画（令和４年度～令和８年度）

中　期　目　標	中　期　計　画	年　度　計　画				
		令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度
東京医療保健大学の建学の精神及び教育理念･目的並びにビジョン等を実現するための目標の設定 東京医療保健大学は、「科学技術に基づく正確な医療保健の学問的教育・研究及び臨床活動」、「寛容と温かみのある人間性と生命に対する畏敬の念を尊重する精神」を建学の精神及び教育理念とし、医療分野において特色ある教育研究を実践することで時代の求める高い専門性及び豊かな人間性と幅広い教養並びに高い倫理性を備え、これからの社会が抱える様々な課題に対して新しい視点から総合的に探求し解決することのできる人材の育成を目的としている。さらに、平成29 年 11 月に「10 年先を展望した本学のあるべき姿」を示すため、東京医療保健大学ビジョンを定めている。 今後は、東京医療保健大学の建学の精神及び教育理念･目的並びにビジョンを実現するとともに、コロナウイルス感染症の拡大下における本学の教育研究活動等の対応等、これまでにない様々な経験値を土台として、いわゆるニューノーマルにおける社会の姿とはどうあるべきかを模索しながら、学修者本位の効果的な教育					

中　期　目　標	中　期　計　画	年　度　計　画				
		令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度
実践と学修の実質化等を推進するために、以下のとおり中期目標を定め、集中して大学改革に取り組むこととする。また、不断に点検・評価を行い、その結果を大学の充実・発展につなげるとともに、社会的責任を果たすこととする。 中期目標の期間は、令和 4 年度(令和 4 年 4 月 1 日)～令和 8 年度(令和 9 年 3 月 31 日)(5 年間)とする。						
1.　理念・目的 (1)大学・学部・研究科等の理念・目的について、大学構成員及び社会への周知を図る。	**1.理念・目的** **【計画 1】(企画部)** 大学・学部・研究科等の理念・目的については、学則、履修案内等に明記した上で構成員に対し説明するとともに、本学のウェブサイト等を活用し、大学構成員及び広く社会にも公表する。 **「計画達成のための方策」** 学生に対しては、新入生及び各学年のガイダンスにおける履修説明等において周知を図る。また教職員に対しては採用時のオリエンテーション等や学内LAN、デスクネッツ等で周知を図る。社会に対しては、ホームページにおいて公表する。 **「評価指標」** ・新入生及び各学年のガイダンスの参加者数、アンケートの実施状況 ・各部局毎のオリエンテーションの教職員参加者数、アンケー	**【年度計画 1】** 学生に対しては、新入生及び各学年のガイダンスにおける履修説明等において周知を図る。また教職員に対しては採用時のオリエンテーション等や学内 LAN、デスクネッツ等で周知を図る。社会に対しては、ホームページにおいて公表する。 **「評価指標」** ・新入生及び各学年のガイダンスの参加者数、アンケートの実施状況 ・各部局毎のオリエンテーションの教職員参加者数、アンケー	**【年度計画 1】** 同左 **「評価指標」** ・同左	**【年度計画 1】** 同左 **「評価指標」** ・同左	**【年度計画 1】** 同左 **「評価指標」** ・同左	**【年度計画 1】** 同左 **「評価指標」** ・同左

中　期　目　標	中　期　計　画	年　度　計　画				
		令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度
	トの実施状況 ・ホームページにおける公表状況	トの実施状況 ・ホームページにおける公表状況				
(2)大学・学部・研究科等の理念・目的に基づき適切な教育研究等を行い、有為な人材の育成を図る。	**【計画2】**（学長戦略本部・企画部） 教育の質保証の観点から、毎年度定期的に自己点検・評価及び検証を行い、その結果について外部評価を実施し公表する。また、学長直轄の「学長戦略本部」を中心に、より適切なものとなるよう外部評価結果等を踏まえ、教育研究活動等の改善・充実を図る。 **「計画達成のための方策」** 学長直轄の「学長戦略本部」を中心に、全学的な教学マネジメントシステムを構築するとともに、「教学マネジメントチェックリスト（仮称）」を運用し、「大学全体レベル」、「学位プログラムレベル」、「授業科目レベル」毎に自己点検・評価及び検証等を行いながら、内部質保証システムのＰＤＣＡサイクルを構築する。 **「評価指標」** ・「教学マネジメントチェックリスト（仮称）」の作成及び活用した自己点検・評価及び検証等の実施状況	**【年度計画２】** 学長直轄の「学長戦略本部」を中心に、全学的な教学マネジメントシステムを構築するとともに、「教学マネジメントチェックリスト（仮称）」として、「大学全体レベル」、「学位プログラムレベル」、「授業科目レベル」毎のチェックリストを作成し、試行的に運用する。 **「評価指標」** ・「教学マネジメントチェックリスト（仮称）」の作成及び活用した自己点検・評価及び検証等の実施状況	**【年度計画２】** 学長直轄の「学長戦略本部」を中心に、全学的な教学マネジメントシステムを構築するとともに、「教学マネジメントチェックリスト（仮称）」を完成させ、「大学全体レベル」、「学位プログラムレベル」、「授業科目レベル」毎に活用し、自己点検・評価及び検証を開始する。 **「評価指標」** ・同左	**【年度計画２】** 学長直轄の「学長戦略本部」を中心に、全学的な教学マネジメントシステムを構築するとともに、「教学マネジメントチェックリスト（仮称）」を運用し、「大学全体レベル」、「学位プログラムレベル」、「授業科目レベル」毎に自己点検・評価及び検証等を行いながら、内部質保証システムのＰＤＣＡサイクルを構築する。 **「評価指標」** ・同左	**【年度計画２】** 同左 **「評価指標」** ・同左	**【年度計画２】** 同左 **「評価指標」** ・同左

東京医療保健大学　第３期中期目標・計画（令和４年度～令和８年度）

中　期　目　標	中　期　計　画	年　度　計　画				
		令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度
2. 内部質保証 内部質保証に関する全学的なシステムの下で、教育研究活動等の質の保証とその向上に資する活動を継続して推進するとともに、教育研究活動等に関する社会的責任を積極的に果たす。	**2. 内部質保証** **【計画３】（企画部）** 内部質保証の方針に基づき、本学における内部質保証システムを構築するため、「内部質保証推進会議」の機能強化を図る。 **「計画達成のための方策」** 「内部質保証推進会議」が、全学的な内部質保証システムの要として機能するためにその権限と責任を明確化し、継続的にその機能強化を図る。 **「評価指標」** ・ＩＲ機能強化の状況、各種データの分析状況	**【年度計画３】** 「内部質保証推進会議」の権限と責任を明確化し、その機能強化を図るため、部局の現状等を更にエビデンスに基づき分析・評価できるよう、「学長戦略本部」と連携しIR機能の強化を図る。 **「評価指標」** ・ＩＲ機能強化の状況、各種データの分析状況	**【年度計画３】** 同左 **「評価指標」** ・同左	**【年度計画３】** 同左 **「評価指標」** ・同左	**【年度計画３】** 同左 **「評価指標」** ・同左	**【年度計画３】** 同左 **「評価指標」** ・同左
	【計画4】（学長戦略本部・企画部） 教育の質保証の観点から、年度計画を着実に推進するとともに、自己点検・評価及び外部有識者による評価を行い、その結果を改善・充実に反映させる。また令和７年度に受審する大学基準協会の認証評価に適切に対応する。 **「計画達成のための方策」** 年度計画を着実に推進するとともに、令和７年度に受審する大学基準協会の認証評価に適切に対応するため、計画的に準備作業を進める **「評価指標」** ・令和７年度に受審する大学基準協会の認証評価の準備、評価	**【年度計画４】** 年度計画を着実に推進するとともに、令和７年度に受審する大学基準協会の認証評価に適切に対応するため、計画的に準備作業を進める **「評価指標」** ・令和７年度に受審する大学基準協会の認証評価の準備、評価	**【年度計画４】** 同左 **「評価指標」** ・同左	**【年度計画４】** 同左 大学基準協会の認証評価の事前準備 **「評価指標」** ・同左	**【年度計画４】** 同左 大学基準協会の認証評価を受審 **「評価指標」** ・同左	**【年度計画４】** 同左 **「評価指標」** ・同左

中　期　目　標	中　期　計　画	年　度　計　画				
		令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度
	結果 **【計画５】（企画部）** 内部質保証の状況を、所要の学内会議に報告した上で、外部有識者等の意見等を踏まえ、本学の教育研究活動等の改善・向上を継続して推進するとともに、内部質保証に関する情報を学内外に公表し、大学としての説明責任を果たす。 **「計画達成のための方策」** 毎年度、内部質保証の状況を、外部有識者等が委員を務める外部評価委員会、大学経営会議、理事会・評議員会等の学内会議に報告し、会議での意見・提言等を踏まえて、本学の管理運営及び教育研究活動等の改善・向上を継続して推進する。また、点検・評価の結果等を含め、内部質保証に関する情報をホームページにおいて公表する。 **「評価指標」** ・外部評価委員会等の開催状況及びホームページにおける公表状況	結果 **【年度計画５】** 内部質保証の状況を、外部有識者等が委員を務める外部評価委員会、大学経営会議、理事会・評議員会等の学内会議に報告し、会議での意見・提言等を踏まえて、本学の管理運営及び教育研究活動等の改善・向上を継続して推進する。また、点検・評価の結果等を含め、内部質保証に関する情報をホームページにおいて公表する。 **「評価指標」** ・外部評価委員会等の開催状況及びホームページにおける公表状況	**【年度計画５】** 同左 **「評価指標」** ・同左	**【年度計画５】** 同左 **「評価指標」** ・同左	**【年度計画５】** 同左 **「評価指標」** ・同左	**【年度計画５】** 同左 **「評価指標」** ・同左

東京医療保健大学　第３期中期目標・計画（令和４年度～令和８年度）

中　期　目　標	中　期　計　画	年　度　計　画				
		令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度
3.教育研究組織 本学の建学の精神及び理念･目的並びにビジョンを実現するため､適切な教育研究組織を設置するとともに､社会の要請に応え教育研究組織の一層の充実･発展を図る。 また、本学は平成30年度に東京地域以外に和歌山看護学部等及び千葉看護学部等を新設した事に伴い､大学における看護師養成数について全国的に大規模校となるが､それぞれの学部の教育目的･教育目標における独自性を発揮し先進的な取組を引き続き推進していくとともに､全学横断的な取り組みを加速化させるための教育研究組織を整備し､我が国の大学における看護師養成教育の充実・発展に寄与する。	**3.教育研究組織** **【計画 6】㋐(大学院医療保健学研究科)** 大学院医療保健学研究科修士課程プライマリケア看護学領域を令和５年度に開講するための準備を進めるとともに､開講後適切に運営する。 **「計画達成のための方策」** 大学院医療保健学研究科修士課程プライマリケア看護学領域を令和５年度に開講するため､関係機関との調整等を着実に実施し、開講準備を着実に進めるとともに、開講後適切に運営する。	**【年度計画 6】** 1.大学院医療保健学研究科修士課程プライマリケア看護学領域を開講するための準備を進める。 ①3Pの合意 ②カリキュラム策定 ③講師陣、管理委員会メンバーの確保と大学における位置づけ ④オンライン科目の授業資料の作成（令和５年度分）管理 ⑤実習協力病院（病院・施設・在宅）の確保 ⑥放送大学連携申請 ⑦演習教室の確保 ⑧シミュレータの検討（リースも含め） ⑨予算（物品費、人件費等）の概算 ⑩特定行為に関する厚生局相談と申請 ⑪文部科学省への変更申請 ⑫募集広報の作成と方法の検討 ⑬入試問題等の作成	**【年度計画 6】** 1.大学院医療保健学研究科修士課程プライマリケア看護学領域を開講する。 ①4月開講 ②カリキュラムの進捗管理 ③科目試験の管理 ④入学合格者の実習病院決定と厚生局修正申請 ⑤放送大学（特定行為共通科目）学習の進捗および評価管理 ⑥オンライン科目の授業資料の作成（令和６年度分）管理 ⑦演習（OSCE）物品・シミュレータの搬入と管理 ⑧実習施設、実習指導医、実習指導ＮＰ（病院・施設・在宅）との打ち合わせ ⑨特定行為管理委員会開催 ⑩令和６年学生募集と入試	**【年度計画 6】** 1.大学院医療保健学研究科修士課程プライマリケア看護学領域を開講し適切に運用する。	**【年度計画 6】** 1.大学院医療保健学研究科修士課程プライマリケア看護学領域を開講し適切に運用する。 2.特定行為研修管理委員会を開催する。 3.修了生（3年長期履修）及びＮＰ協議会認定試験合格者を輩出する。 4.ＮＰ修了生、在校生の交流、報告会を実施する。	**【年度計画 6】** 同左

中　期　目　標	中　期　計　画	年　度　計　画				
		令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度
	「評価指標」 ・大学院修士課程プライマリケア看護学領域の開講準備･運営状況 （令和７・８年度） ・入学者数、特定行為管理委員会開催数、修了生の人数、日本 NP 教育大学院協議会における NP 資格認定試験合格者の人数、修了後の就業先と職務の状況、修了後の学会や研究会等の発表件数、在学生と修了生との交流及び研修会の開催状況 **【計画７】（東が丘看護学部・看護学研究科）** 独立行政法人国立病院機構との連携協力により東が丘看護学部及び大学院看護学研究科修士課程･博士課程において設置の趣旨を十分活かし教育研究を着実に履行するとともに､国立病院機構との連携協力を一層強化し教育研究体制の整備・充実を図る **「計画達成のための方策」** 1. 令和 5 年度に看護学研究科に認定看護管理者養成コース､放射線看護専門看護師コースを設置する。 **「評価指標」** ・認定看護管理者養成コース､放射線看護専門看護師コースの設	**「評価指標」** ・大学院修士課程プライマリケア看護学領域の開講準備状況 **【年度計画７】** 1. 設置申請の手続及びカリキュラムの検討を進める。 **［評価指標］** ・カリキュラム完成状況 ・設置申請完了に向けた対応状	**「評価指標」** ・大学院修士課程プライマリケア看護学領域の運営状況 **【年度計画７】** 1. 設置承認取得後、学生募集を開始及び、大学院修士課程定員を現行の 30 名から 40 名程度に増員する。 **［評価指標］** ・新体制での定員確保状況	**「評価指標」** ・大学院修士課程プライマリケア看護学領域の運営状況 **【年度計画７】** 1. 継続的運営を行う。 **［評価指標］** ・新定員での安定的運営	**「評価指標」** ・大学院修士課程プライマリケア看護学領域の運営状況 ・特定行為研修管理委員会　1～2 回/年 ・修了生（3 年長期履修）及びＮＰ協議会認定試験合格者 5～8 名 ・ＮＰ修了生、在校生の交流、報告会　年 1 回程度 ・入学者数、特定行為管理委員会開催数、修了生の人数、日本 NP 教育大学院協議会における NP 資格認定試験合格者の人数、修了後の就業先と職務の状況、修了後の学会や研究会等の発表件数、在学生と修了生との交流及び研修会の開催状況 **【年度計画７】** 1. 同左 **［評価指標］** ・同左	**「評価指標」** ・大学院修士課程プライマリケア看護学領域の運営状況 ・入学者数、特定行為管理委員会開催数、修了生の人数、日本 NP 教育大学院協議会における NP 資格認定試験合格者の人数、修了後の就業先と職務の状況、修了後の学会や研究会等の発表件数、在学生と修了生との交流及び研修会の開催状況 **【年度計画７】** 1. 同左 **［評価指標］** ・同左

中　期　目　標	中　期　計　画	年　度　計　画				
		令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度
	置状況 2. 放射線看護研修センターで行っているがん放射線療法看護認定看護師養成課程は、発展的に終了し、上記看護学研究科における大学院教育に注力する。 **「評価指標」** ・放射線看護研修センターの円滑な終了手続き状況 **【計画８】**（千葉看護学部） 独立行政法人地域医療機能推進機構（ＪＣＨＯ）との連携協力により、千葉看護学部において設置の趣旨を十分活かし教育研究を着実に履行するとともに、ＪＣＨＯとの連携協力を一層強化し教育研究体制の整備・充実を図る。 **「計画達成のための方策」** 1. 全学様式による教員自己評価を継続する。 **「評価指標」** ・全学様式による教員自己評価の継続(1 回/年) 2. ＪＣＨＯとの人事交流を継続する。 **「評価指標」** ・ＪＣＨＯとの人事交流の継続(助手１人/年) 3. ＪＣＨＯとの共同活動に関するグランドデザインをもとに、人材育成と活用を進め、点検評価を行い継続的な発展を図るとと も	況 2. がん放射線療法看護認定看護師養成課程の活動を総括する。 **[評価指標]** ・日本看護協会への届け出の完了手続き状況 **【年度計画８】** 1. 全学様式による教員自己評価を継続する。 **「評価指標」** ・全学様式による教員自己評価の継続(1 回/年) 2. ＪＣＨＯとの人事交流を継続する。 **「評価指標」** ・ＪＣＨＯとの人事交流の継続(助手１人/年) 3. ＪＣＨＯとの共同活動に関するグランドデザインをもとに、人材育成と活用を進め、点検評価を行い継続的な発展を図るとと も	2. — **[評価指標]** — **【年度計画８】** 1. 同左 **「評価指標」** ・同左 2. 同左 **「評価指標」** ・同左 3. 同左	2. — **[評価指標]** —	2. — **[評価指標]** —	2. — **[評価指標]** —
				【年度計画８】 1. 同左 **「評価指標」** ・同左 2. 同左 **「評価指標」** ・同左 3. 同左	**【年度計画８】** 1. 同左 **「評価指標」** ・同左 2. 同左 **「評価指標」** ・同左 3 同左	**【年度計画８】** 1. 同左 **「評価指標」** ・同左 2. 同左 **「評価指標」** ・同左 3. 同左

中　期　目　標	中　期　計　画	年　度　計　画				
		令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度
	に、成果を公開する。 **「評価指標」** ・ＪＣＨＯとの共同活動状況（運営協議会１回/年、未来を語る検討会４回/年、ＪＣＨＯ学会発表１回/年） 4. カリキュラム改定準備を進める。 **「評価指標」** ・カリキュラム改定の準備状況 ・ＤＰと一貫したＡＰを実現するための検討状況 **【計画 9】㋐(和歌山看護学部・和歌山看護学研究科・和歌山看護実践研究センター)** 生涯を通じて自己研鑽するための支援体制をつくり、生涯にわたって成長し続ける医療人の育成を図る。 **「計画達成のための方策」** 日赤和歌山医療センターとの協議のもとに、ニーズの高いものから研修を計画・実施を行い、更に和歌山県下のニーズに対応する。 **［評価指標］** ・研修の実施状況、研修参加者からのニーズの把握状況	に、成果を公開する。 **「評価指標」** ・ＪＣＨＯとの共同活動状況（運営協議会１回/年、未来を語る検討会４回/年、ＪＣＨＯ学会発表１回/年） 4. カリキュラム改定準備を進める。 **「評価指標」** ・カリキュラム改定の準備状況 ・ＤＰと一貫したＡＰを実現するための検討状況 **【年度計画 9】** 日赤和歌山医療センターと本学部のニーズを優先した研修計画を実施する。 **［評価指標］** ・研修の実施状況、研修参加者からのニーズの把握状況	**「評価指標」** ・ＪＣＨＯとの共同活動状況（運営協議会１回/年、未来を語る検討会１回/年、ＪＣＨＯ学会発表１回/年） 4. 同左 **「評価指標」** ・同左 **【年度計画 9】** 日赤和歌山医療センターと本学部のニーズを優先した研修計画を実施する。 ・大学院和歌山看護学研究科での学びの意味を発信し入学者の獲得を図る。 **［評価指標］** ・同左 ・大学院入学生数（日赤から２名以上）	**「評価指標」** ・同左 4. カリキュラム改定準備の一環として、教員配置についての評価を行い、教育・研究分野の適切性を検討する。 **「評価指標」** ・同左 **【年度計画 9】** 日赤和歌山医療センターと本学部のニーズを優先した研修計画を実施する。 県下のニーズに応じた研究について検討する。 ・大学院和歌山看護学研究科での学びの意味を発信し入学者の獲得を図る。 **［評価指標］** ・研修計画　年２回以上 ・大学院入学者　定員（12 名）	**「評価指標」** ・同左 4. ＤＰと一貫したＡＰを実現できる教員配置を長期的な視野のもと設計し、具体的な計画を立案し、一部実施する。 **「評価指標」** ・同左 **【年度計画 9】** 日赤和歌山医療センターと本学部のニーズを優先した研修計画に加え、県下のニーズに応じた研修計画を実施する。 ・大学院和歌山看護学研究科での学びの意味を発信し入学者の獲得を図る。 **［評価指標］** ・同左	**「評価指標」** ・同左 4. 同左 **「評価指標」** ・同左 **【年度計画 9】** 日赤和歌山医療センターと本学部のニーズを優先した研修計画に加え、県下のニーズに応じた研修計画を実施する。 ・大学院和歌山看護学研究科での学びの意味を発信し入学者の獲得を図る。 **［評価指標］** ・同左

東京医療保健大学　第３期中期目標・計画（令和４年度～令和８年度）

中　期　目　標	中　期　計　画	年　度　計　画				
		令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度
4.教育課程・学習成果 (1)本学の理念・目的に基づき、医療分野において特色ある教育研究を実践することで時代の求める高い専門性及び豊かな人間性と幅広い教養を備え、これからの社会が抱える様々な課題に対して、新しい視点から総合的に対応し解決できる人材を育成するため「教育課程編成・実施の方針」に基づき、授業科目を適切に開設し教育課程を体系的に編成するとともに、知識の展開力を重視した教育、学生の主体性を尊重する教育を実施する。また学習意欲を高めるために適切な履修指導を行う。 特に、社会からの信頼に応え、求められる学習成果を確実に達成する学士課程教育の質の向上を図る。	**4.教育課程・学習成果** **○医療保健学部看護学科** **【計画 10-1】㋐** 医療保健学部看護学科の新カリキュラムの運用と評価を実施する。 **「計画達成のための方策」** 1.学年別目標の周知と評価の実施。 2.e ポートフォリオの運用。 3.新カリキュラムのモニタリング・新規科目の準備・改善・評価の実施。 **「評価指標」** ・学年別目標の自己評価実施学生数：90%以上 ・e ポートフォリオの実施学生数：80% ・カリキュラム・教育に関する企画の実施：年２回以上 ・カリキュラム評価に関する会議の開催：年１回以上（令和５年度）	**【年度計画 10-1】** 1.学年別目標の周知と評価：４月履修ガイダンスで説明、2～3 月学年別目標に沿った学生自己評価の実施。 2.e ポートフォリオの運用開始。 3.新カリキュラムのモニタリング・新規科目の準備。 **「評価指標」** ・学年別目標の自己評価実施学生数：全学年 75%以上 ・e ポートフォリオの実施学生数：80%（１年生のみ） ・カリキュラム・教育に関する企画の実施：年２回以上	**【年度計画 10-1】** 1.同左 2.学修ポートフォリオの運用改善。 3.新カリキュラムのモニタリング・新規科目の準備・改善。 4.社会からの要請への対応した学士課程教育（今年度より追加）：大学での学び方支援プログラムの導入、ヘルスデータサイエンスプログラム（保健看護データコース）の普及、教学マネジメントの理解とカリキュラム・教育体制への導入準備。 **「評価指標」** ・学年別目標の自己評価実施学生数：全学年 80%以上 ・学修ポートフォリオの実施学生数：80%(1.2 年生) ・カリキュラム・教育に関する企画の実施：年２回以上 ・カリキュラム評価に関する会議の開催：年１回以上 ・ヘルスデータサイエンスプログラム（保健看護データコース）修了学生数	**【年度計画 10-1】** 1.同左 2.同左 3.「看護研究」科目担当者会議の開催。 4.　社会からの要請への対応した学士課程教育：大学での学び方支援プログラムの導入、ヘルスデータサイエンスプログラム（保健看護データコース）の普及、教学マネジメントのカリキュラム・教育体制への導入。 **「評価指標」** ・学年別目標の自己評価実施学生数：全学年 85%以上 ・学修ポートフォリオの実施学生数：80%(1～3 年生) ・同左 ・同左 ・同左	**【年度計画 10-1】** 1.同左 2.同左 3.新カリキュラムの評価計画立案。 4.　社会からの要請への対応した学士課程教育の実施。 **「評価指標」** ・学年別目標の自己評価実施学生数：全学年 90%以上 ・学修ポートフォリオの実施学生数：80%(1～4 年生) ・同左 ・同左 ・同左	**【年度計画 10-1】** 1.同左 2.同左 3.　新カリキュラムの評価実施。 4.　社会からの要請への対応した学士課程教育の実施。 **「評価指標」** ・同左 ・同左 ・同左 ・同左 ・同左

中　期　目　標	中　期　計　画	年　度　計　画				
		令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度
			・教学マネジメント導入に関するプロジェクト会議：年２回以上 ・教学マネジメントに関する企画の実施：年２回以上 ※2 学年別目標、学年目標が混在しており、学年目標で統一	・同左 ・同左	・同左 ・同左	・同左 ・同左
	【計画 10-2】㋐ グローバル人材の育成のための取組みを推進する。 **「計画達成のための方策」** 1. 看護学科グローバル人材育成に向けた全体構想の検討・実装・評価・改善の実施。 2. 外国人模擬患者を対象としたシミュレーションプログラムの実施。 3. レニック先生の英語クリニックの継続実施と評価の実施。 **「評価指標」** ・外国人模擬患者を対象としたシミュレーションプログラム 10 名以上、アンケート回収率 90%以上 ・レニック先生の英語クリニックの参加者数 10 名以上（年）、アンケート回収率 90%以上 ・グロプロ会議回数 10 回/年 ・活動実績広報件数 3 件以上 **【計画 10-3】**㋐ 学生サポートによるへこたれない心の育成を図る。 **「計画達成のための方策」** 1. 新入生ガイダンスにて、学生生活ガイダンス及びアドバイザー活動を	**【年度計 10-2】** 1. 看護学科グローバル人材育成に向けた全体構想の検討。 2. 外国人模擬患者を対象としたシミュレーションプログラムの実施。 3. レニック先生の英語クリニックの継続実施と評価の実施。 **「評価指標」** ・外国人模擬患者を対象としたシミュレーションプログラム 10 名以上、アンケート回収率 90%以上 ・レニック先生の英語クリニックの参加者数 10 名以上（年）、アンケート回収率　90%以上 ・グロプロ会議回数 10 回/年 ・活動実績広報件数 3 件以上 **【年度計 10-3】** 1. 新入生ガイダンスにて、学生生活ガイダンス及びアドバイザ	**【年度計画 10-2】** 1. 看護学科グローバル人材育成に向けた全体構想の実装。 2. 同左 3.　レニック・ニコラス氏の職場異動に伴い停止中。再開の可能性を検討する。 **「評価指標」** ・同左 ＊レニック先生の英語クリニックは実施する場合のみ評価を行う。 **【年度計画 10-3】** 同左	**【年度計画 10-2】** 1. 看護学科グローバル人材育成に向けた全体構想の実装と評価改善。 2. 同左 3. 同左 **「評価指標」** ・同左 **【年度計画 10-3】** 同左	**【年度計画 10-2】** 1. 同左 2. 同左 3. 同左 **「評価指標」** ・同左 **【年度計画 10-3】** 同左	**【年度計画 10-2】** 1. 同左 2. 同左 3. 同左 **「評価指標」** ・同左 **【年度計画 10-3】** 同左

中　期　目　標	中　期　計　画	年　度　計　画				
		令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度
	実施する。 2. 新入生ガイダンス実施後に、Forms を用いたアンケートを実施し、アドバイザー制度・アドバイザー教員の連絡先・学生相談室・障がい学生支援制度の認知度、及びアドバイザー活動の満足度を評価する。 3.この評価をもとに、次年度のガイダンスに向けて成果と改善点を明らかにする。 **「評価指標」** ・新入生ガイダンス実施後アンケートの実施状況 ・アドバイザー制度、アドバイザー教員の連絡先の認知度 100% ・学生相談室の認知度 100% ・障がい学生支援制度の認知度 100% ・新入生ガイダンス時のアドバイザー活動の満足度　（満足している人）80% **【計画 10-4】**㋐ 臨地実習指導者講習会を実施する。 **「計画達成のための方策」** 1. 臨地実習指導者講習会を、看護学科実習委員会の担当メンバーを中心として実施する。 2.研修会プログラムは令和元年度の内容を踏襲し、9 月に 2 日間の基本知識の講義・演習を実施することとし、講師は学内教員から募集する。 3.対象者の看護師に 10 月～12 月の実習指導のリフレクションシート記載を課し、1 月に各参加者の実習指導体験のリフレクション演習を行	一活動を実施する。 2. 新入生ガイダンス実施後に、Forms を用いたアンケートを実施し、アドバイザー制度・アドバイザー教員の連絡先・学生相談室・障がい学生支援制度の認知度、及びアドバイザー活動の満足度を評価する。 3.この評価をもとに、次年度のガイダンスに向けて成果と改善点を明らかにする。 **「評価指標」** ・新入生ガイダンス実施後アンケートの実施状況 ・アドバイザー制度、アドバイザー教員の連絡先の認知度 100% ・学生相談室の認知度 100% ・障がい学生支援制度の認知度 100% ・新入生ガイダンス時のアドバイザー活動の満足度　（満足している人）80% **【年度計画 10-4】** 1. 臨地実習指導者講習会を、看護学科実習委員会の担当メンバーを中心として実施する。 2.研修会プログラムは令和元年度の内容を踏襲し、9 月に 2 日間の基本知識の講義・演習を実施することとし、講師は学内教員から募集する。 3.対象者の看護師に 10 月～12 月の実習指導のリフレクションシート記載を課し、1 月に各参加者	**「評価指標」** ・同左 **【年度計画 10-4】** 1.同左 2.同左 3.同左	**「評価指標」** ・同左 **【年度計画 10-4】** 1.同左 2.同左 3.同左	**「評価指標」** ・同左 **【年度計画 10-4】** 1.同左 2.同左 3.同左	**「評価指標」** ・同左 **【年度計画 10-4】** 1.令和 3 年度から 5 年間実施し、評価、その後の継続について委員会内で検討する。 2.同左 3.同左

中　期　目　標	中　期　計　画	年　度　計　画				
		令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度	令和 8 年度
	う。 4. 令和 3 年度から 5 年間実施し、評価、その後の継続について委員会内で検討する。 **「評価指標」** ・実習病院・施設の参加者　看護師 30 名、教員 15 名 **【計画 10-5】**㋐ 医療保健学部看護学科卒業生を対象としたホームカミングデイを実施する。 **「計画達成のための方策」** 1. 医療保健学部看護学科卒業生を対象としたホームカミングデイを実施することとし、卒業生によるパネルディスカッション及び運営を教員（看護学科就職対策委員会）と協働して行う。 2. パネルディスカッションのテーマは目的に合わせて年度毎に検討する。 **「評価指標」** ・ホームカミングデイの参加状況 卒業生 30 名、教員 20 名、在校生 10 名 **〇医療保健学部医療栄養学科** **【計画 11-1】**㋐ 専門性の高い心温かい医療人の育成の観点から、ボランティア活動を推進する。 **「計画達成のための方策」** 1. 主に「せたがやハウス」を利用し、国立成育医療研究センター病院にて付き添い入院している家族へ焼き菓	の実習指導体験のリフレクション演習を行う。 4. 令和 3 年度から 5 年間実施し、評価、その後の継続について委員会内で検討する。 **「評価指標」** ・実習病院・施設の参加者　看護師 30 名、教員 15 名 **【年度計画 10-5】** 1. 医療保健学部看護学科卒業生を対象としたホームカミングデイを実施することとし、卒業生によるパネルディスカッション及び運営を教員（看護学科就職対策委員会）と協働して行う。 2. パネルディスカッションのテーマは目的に合わせて年度毎に検討する。 **「評価指標」** ・ホームカミングデイの参加状況 卒業生 30 名、教員 20 名、在校生 10 名 **【年度計画 11-1】** 1. 「せたがやハウス」に滞在する入院中の子どもに付き添う親への食事支援として、焼き菓子	4. 同左 **「評価指標」** ・研修後アンケート評価 ・実習病院・施設の参加者人数 **【年度計画 10-5】** 同左 **「評価指標」** ・同左 **【年度計画 11-1】** —	4. 同左 **「評価指標」** ・同左 **【年度計画 10-5】** 同左 **「評価指標」** ・同左 **【年度計画 11-1】** —	4. 同左 **「評価指標」** ・同左 **【年度計画 10-5】** 同左 **「評価指標」** ・同左 **【年度計画 11-1】** —	4. 同左 **「評価指標」** ・臨地実習指導者講習会の継続の検討状況 **【年度計画 10-5】** 同左 **「評価指標」** ・同左 **【年度計画 11-1】** —

中　期　目　標	中　期　計　画	年　度　計　画				
		令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度
	子等の提供や食育媒体の提供を行う。 **「評価指標」** ・主に「せたがやハウス」を利用し、国立成育医療研究センター病院にて付き添い入院している家族へ焼き菓子等の提供を実施：3回/年 ※COVID-19 感染拡大状況により、「せたがやハウス」での食事支援活動が可能になれば、食事提供を実施：1～2回/年 ・主に「せたがやハウス」を利用し、国立成育医療研究センター病院にて付き添い入院している家族へ食育媒体の提供：3回/年 ・ボランティア学生：4名程度×3回＝12名 **【計画 11-2】**㋐ 幅広い分野で活動している管理栄養士として、必要な知識及びスキルを日々更新していくことが重要であることから、「卒後教育」として知識・スキルアップのための研修会を開催する。 **「計画達成のための方策」** 本学教員及び卒業生が講師となり、各分野での事例・症例紹介や情報共有など、講義、演習、ワークショップを含む様々な学習形態で開催する。	及び食育媒体の作成を行うため、医療栄養学科１年生から４年生の学生にメール等でアナウンスし、ボランティアを募る。2.1グループ４名程度のチームで、焼き菓子の考案、作成（本学）及び提供を行う。また、食育カードを作成する。 **「評価指標」** ・主に「せたがやハウス」を利用し、国立成育医療研究センター病院にて付き添い入院している家族へ焼き菓子等の提供を実施：3回/年 ・主に「せたがやハウス」を利用し、国立成育医療研究センター病院にて付き添い入院している家族へ食育媒体の提供：3回/年 ・ボランティア学生：4名程度×3回＝12名 **【年度計画 11-2】** 疾患別の治療薬や症例検討をテーマとする研修会を開催することとして、卒業生や卒業生の職場の管理栄養士に向けて参加を募集する。また、企業の協力を	**「評価指標」** ― **【年度計画 11-2】** 医療を含めた複数の分野に関する研修会を、講義、演習、ワークショップなど様々な学習形態で実施し、卒業生に向けて参加を募集する。また、企業の協力	**「評価指標」** ― **【年度計画 11-2】** 同左	**「評価指標」** ― **【年度計画 11-2】** 同左	**「評価指標」** ― **【年度計画 11-2】** 同左

中　期　目　標	中　期　計　画	年　度　計　画				
		令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度
		依頼する。講師として管理栄養士以外の他職種にも講師依頼する。	と卒業生に講師の依頼をする。			
	「評価指標」 研修会の実施回数：年３回以上かつ年間の参加者数を卒業生・一般で100名以上	**「評価指標」** 研修会の実施回数：年３回以上かつ年間の参加者数を卒業生・一般で100名以上	**「評価指標」** ・同左	**「評価指標」** ・同左	**「評価指標」** ・同左	**「評価指標」** ・同左
	【計画 11-3】㋐ 卒業時に管理栄養士国家試験合格が叶わなかった卒業生に対し卒業後に管理栄養士免許を取得できるように支援する。					
	「計画達成のための方策」 1.　卒業生向け管理栄養士国家試験対策講座を在校生の特別講義と同時開催する。 2.　卒業後にガイドラインの改訂などがあった場合は、卒業生対象に講座を開講する。この場合、日常業務と並行しての講座は日程調整で困難があるため、講座は動画配信で開講する。	**【年度計画 11-3】** 在校生の特別講座と同時に開催することとし、動画配信の準備・試行、メール配信による情報提供と声掛けを継続する。	**【年度計画 11-3】** —	**【年度計画 11-3】** —	**【年度計画 11-3】** —	**【年度計画 11-3】** —
	「評価指標」 ・参加者の合格率 50%以上	**「評価指標」** ・参加者の合格率 50%以上	**「評価指標」** —	**「評価指標」** —	**「評価指標」** —	**「評価指標」** —
	【計画 11-4】㋐ 既卒であっても本学で栄養教諭一種免許を取得可能とし、学校栄養職員から栄養教諭への任用替えを目指す卒業生への支援策を検討する。					
	「計画達成のための方策」 本学科栄養教諭委員が担当し、科目等履修にて栄養教諭一種に必要な科目（栄養教育実習を含む）を修得できる時間割・組織を構築することが将来的に可能か調査を行う。	**【年度計画 11-4】** 履修規定の作成並びに履修科目の設定を行う。	**【年度計画 11-4】** —	**【年度計画 11-4】** —	**【年度計画 11-4】** —	**【年度計画 11-4】** —

中　期　目　標	中　期　計　画	年　度　計　画				
		令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度
	1.他大学の取組状況から本学で教職科目履修可能な状況を見出し、今後の生涯学習支援がどこまで実施可能か調査研究する。 2.時間割作成について、重点として取り組む。 3.本校勤務者並びに非常勤講師招聘が可能か調査研究する。 **「評価指標」** ・調査研究の実施状況等 **【計画 11-5】**㋐ 古代食の再現研究について、独立行政法人文化財機構奈良文化財研究所・国立歴史民俗博物館との共同研究を引き続き実施し、研究成果を学術雑誌やシンポジウムの開催を通じ、成果発表を行う。 **「計画達成のための方策」** 独立行政法人文化財機構奈良文化財研究所・国立歴史民俗博物館との共同研究（令和５年度）と科学研究費助成金基盤研究Ａ「東ユーラシア東辺における古代食の多角的視点による解明とその栄養価からみた疾病」（令和６年度まで）の研究を通して、古代食研究の成果を今後学術雑誌やシンポジウムなどで報告する。 **「評価指標」** ・共同研究等の取組状況と成果報告 **【計画 11-6】** 学生の主体的な学びを推進するため、学修者の支援体制を構築するとともに教員の教育力を高度化して教育の質の向上を行う。	**「評価指標」** ・調査研究の実施状況 **【年度計画 11-5】** 科研費基盤Ａの国内での古代食研究調査の実施。 ①土器のコゲに関する分析 ②モデル土器での実験 ③国内調査 **「評価指標」** ・共同研究等の取組状況	**「評価指標」** ― **【年度計画 11-5】** 科研費基盤Ａの国内での古代食研究国内調査の実施。 ①奈良を中心として発酵食品の研究 ②静岡県沼津市・西伊豆町を中心とする遺跡・遺物の調査と古代堅魚製品の再現 **「評価指標」** ・共同研究等の取組状況と成果報告	**「評価指標」** ― **【年度計画 11-5】** 1.科研費基盤Ａの国内調査の実施（科研費最終年度）。古代の堅魚製品に関する調査を行う。 2.最終年度に当たるため、成果報告のシンポジウムを静岡県で市民を取り組んで行う計画。 **「評価指標」** ・同左	**「評価指標」** ― **【年度計画 11-5】** 科研費基盤Ａの成果報告の整理と次期科研費への申請。 **「評価指標」** ・同左	**「評価指標」** ― **【年度計画 11-5】** 科研費が採択された場合 COVID-19 の影響で出来なかった海外調査を何年かに分けて実施する。 **「評価指標」** ・同左

中　期　目　標	中　期　計　画	年　度　計　画				
		令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度
	「計画達成のための方策」 ・学修ポートフォリオを用いることで、卒業時に目指すべき能力等をどこまで習熟したか、学生自身に振り返りと自己評価を促す。 ・管理栄養士国家試験合格に向け、自身の能力を客観的に分析し計画的に学修できるよう、ガイダンス・学修環境整備・学修指導を行う。 ・教員にアクティブ・ラーニング等の能動的授業の実施を促す。 ・教育内容の充実や教授方法の高度化のため、教員にFD研修会への参加を促す。 **「評価指標」** ・学修ポートフォリオにより学修の振り返りと自己評価を行った学生の割合　95%（令和８年度） ・管理栄養士国家試験合格率　全国平均以上 ・アクティブ・ラーニングを取り入れている講義・演習の割合　55%（令和８年度） ・FD 研修会に参加した教員の割合96%（令和８年度）、授業評価アンケート学科平均値が前年比で2%増 **【計画11-7】** 専門性を高めるための基盤となる基礎学力を向上させるため、リメディアル教育を充実させ、その教育を継続する。 **「計画達成のための方策」** ・新入生の学力把握とその結果に基		**【年度計画11-6】** ・各セメスターの終了時に、学修ポートフォリオを用いた振り返りと自己評価を学生に指導する。 ・能動的・計画的に国家試験対策を実行できるよう、自習室の確保、ガイダンスや模擬試験の実施、ICT利活用による個別最適化された教材や対策講座の提供などを行う。 ・教員にアクティブ・ラーニング等の能動的授業の実施を促す。 ・教育内容や教授方法の高度化のため、教員にFD研修会への参加を促す。 **「評価指標」** ・学修ポートフォリオにより学修の振り返りと自己評価を行った学生の割合　80% ・管理栄養士国家試験合格率　全国平均以上 ・アクティブ・ラーニングを取り入れている講義・演習の割合45% ・FD研修会に参加した教員の割合　90%、授業評価アンケート学科平均値が前年比で2%増 **【年度計画11-7】** ・新入生の学力把握とその結果	**【年度計画11-6】** 同左 **「評価指標」** ・学修ポートフォリオにより学修の振り返りと自己評価を行った学生の割合　85% ・同左 ・アクティブ・ラーニングを取り入れている講義・演習の割合48% ・FD 研修会に参加した教員の割合　92%、授業評価アンケート学科平均値が前年比で2%増 **【年度計画11-7】** ・同左	**【年度計画11-6】** 同左 **「評価指標」** ・学修ポートフォリオにより学修の振り返りと自己評価を行った学生の割合　90% ・同左 ・アクティブ・ラーニングを取り入れている講義・演習の割合51% ・FD 研修会に参加した教員の割合　94%、授業評価アンケート学科平均値が前年比で2%増 **【年度計画11-7】** ・同左	**【年度計画11-6】** 同左 **「評価指標」** ・学修ポートフォリオにより学修の振り返りと自己評価を行った学生の割合　95% ・同左 ・アクティブ・ラーニングを取り入れている講義・演習の割合55% ・FD 研修会に参加した教員の割合　96%、授業評価アンケート学科平均値が前年比で2%増 **【年度計画11-7】** ・同左

中　期　目　標	中　期　計　画	年　度　計　画				
		令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度
	づくリメディアル教育の実施 ・リメディアル教育の継続的な改善 **「評価指標」** ・リメディアル関連科目受講推奨者の履修率 100% ・令和５年度リメディアル国語開設 ・リメディアル教育の改善実施 **〇医療保健学部医療情報学科** **【計画 12-1】㋐** Socity5.0 に基づくヘルスケア情報人材像を確立し、高等学校、実習先、就職先・進学先など社会におけるステークホルダーからの信頼を勝ち取る。 **「計画達成のための方策」** Socity5.0 におけるヘルスケア人材像やその背景の書籍化及びカリキュラムの見直し・実装等を推進する。 **「評価指標」** ・入学定員に占める学生の割合 100% ・実習先の実習系科目における肯定的な指導者評価 75%超 ・就職先における肯定的な上司評価 75%超 **【計画 12-2】㋐** 卒業生への生涯学習支援として、卒業後の資格試験取得に向けた学習サポートを実施する。 **「計画達成のための方策」** 卒業生向けの医療情報技師等の資格試験講座を開講する。	**【年度計画 12-1】** 1.Socity5.0 におけるヘルスケア人材像やその背景の書籍化。 2.カリキュラムの見直し・実装。 **「評価指標」** ・入学定員に占める学生の割合 100% ・実習先の実習系科目における肯定的な指導者評価 75%超 ・就職先における肯定的な上司評価 75%超 **【年度計画 12-2】** 就職先企業向け資格試験対策講座のより効果的な実施方法を検	に基づくリメディアル教育の実施 ・リメディアル国語開設に向けた準備と教育実施 **「評価指標」** ・リメディアル関連科目受講推奨者の履修率 100% ・リメディアル国語開設 **【年度計画 12-1】** ・アドミッションポリシーの見直し・実装。 **「評価指標」** ・同左 **【年度計画 12-2】** 左記以外の卒業生にも資格取得ニーズがないか把握する。	・リメディアル教育の継続的な改善 **「評価指標」** ・同左 ・リメディアル教育の改善実施 **【年度計画 12-1】** 令和５年度新カリキュラム適用学生におけるインターンシップの見直し・実装。 **「評価指標」** ・同左 **【年度計画 12-2】** 左記以外の卒業生向けの学修支援方法を検討する。	・同左 **「評価指標」** ・同左 ・同左 **【年度計画 12-1】** 令和５年度新カリキュラム適用学生における卒業時評価システムの見直し・実装。 **「評価指標」** ・同左 **【年度計画 12-2】** 左記以外の卒業生にも拡大した学修支援を実施する。	・同左 **「評価指標」** ・同左 ・同左 **【年度計画 12-1】** 令和５年度年度新カリキュラム全般の見直し。 **「評価指標」** ・同左 **【年度計画 12-2】** 本プログラム全体の評価･見直しを行う。

中　期　目　標	中　期　計　画	年　度　計　画				
		令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度	令和 8 年度
	「評価指標」 ・卒業後 3 年以内の推奨資格（医療情報技師等）取得者 15 名以上 **【計画 12-3】**㋐ 紀要・学会誌への投稿を推進する。 **「計画達成のための方策」** 紀要・学会誌への投稿がスムーズにできるための問題点を抽出し、今後のアクションとスケジュールを決定する。 **「評価指標」** ・学科全体として、英語論文を 3 本/年以上公表 **○東が丘看護学部** **【計画 13-1】**㋐ 全領域で「自ら考え判断し行動できる自律した看護師」の育成を目指し、学生が主体性を発揮できる学習活動（アクティブラーニング）を取り入れた授業（講義・演習）を実施（導入・継続）する。 　また、“tomorrow's Nurse” が目指す看護実践能力の基盤となる知識・技術の修得に向けて、毎年 20%ずつの演習科目の内容・方法を検討し、令和 8 年度には全ての演習科目の見直しを行う。 **「計画達成のための方策」** 1.各領域で新たに取り組むテーマを 1 つ以上決定し、それに対する行動計画および実施・評価を報告する。令和 8 年度までには全領域、全科目において検討する。 2.領域間で情報を共有し、看護過程	討する。 **「評価指標」** ・卒業後 3 年以内の推奨資格（医療情報技師等）取得者 15 名以上 **【年度計画 12-3】** 英語論文を 1 本以上投稿する 。 **「評価指標」** ・英語論文の投稿状況 **【年度計 13-1】** 1.各領域の特性や各科目の学習目標に合わせ、アクティブラーニングを取り入れた効果的な授業計画・展開する。また、各領域で実施しているアクティブラーニングに関する情報を共有する。	**「評価指標」** ・同左 **【年度計画 12-3】** 英語論文を 2 本以上投稿する。 **「評価指標」** ・同左 **【年度計画 13-1】** 同左	**「評価指標」** ・同左 **【年度計画 12-3】** 英語論文を 3 本以上投稿する。 **「評価指標」** ・同左 **【年度計画 13-1】** 1.同左	**「評価指標」** ・同左 **【年度計画 12-3】** インパクトファクターを考慮して、英語論文を 3 本以上投稿する。 **「評価指標」** ・同左 **【年度計画 13-1】** 同左	**「評価指標」** ・同左 **【年度計画 12-3】** インパクトファクターを考慮して、英語論文を 4 本以上投稿する。 **「評価指標」** ・同左 **【年度計画 13-1】** 同左 総括評価を行う。

中　期　目　標	中　期　計　画	年　度　計　画				
		令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度
	展開の事例や看護技術項目等の効果的かつ効率的な配置に関する検討を毎年１回ずつ行い、令和８年度の完了を目指す。 3.学生自身が学修ポートフォリオを活用し、学修状況の自己評価、今後の学修目標の設定を促進する。 4.ヘルスデータサイエンスプログラムの履修により、発展・進化する看護の知識・技術を積極的に探究し、データサイエンスの活用を通じて自らも看護・看護学の発展に創造的にかかわる能力を高める。	2.看護実践能力の基盤となる知識・技術の修得に向け、各領域で年度内で検討する演習科目および技術項目を決定し、演習内容・方法を見直す。また、各領域での検討内容をカリキュラム委員会で共有し、全体での調整を図る。		2.同左 3.学生自身が学修ポートフォリオを活用し、学修状況の自己評価、今後の学修目標の設定を促進する。 4.ヘルスデータサイエンスプログラムの履修により、発展・進化する看護の知識・技術を積極的に探究し、データサイエンスの活用を通じて自らも看護・看護学の発展に創造的にかかわる能力を高める。 中間評価を行い、今後の改善点を検討する。		
	「評価指標」 ・アクティブラーニングを取り入れた授業（講義・演習）の実施状況及び演習科目の見直し状況 ・各科目の学生からのフィードバック、授業評価アンケート結果、学修ポートフォリオの活用率、プログラム（該当科目）の履修率および修了認定率	**「評価指標」** ・アクティブラーニングを取り入れた授業（講義・演習）の実施状況及び演習科目の見直し状況	**「評価指標」** ・同左	**「評価指標」** ・アクティブラーニングを取り入れた授業（講義・演習）の実施状況及び演習科目の見直し状況 ・各科目の学生からのフィードバック、授業評価アンケート結果、学修ポートフォリオの活用率、プログラム（該当科目）の履修率および修了認定率	**「評価指標」** ・同左	**「評価指標」** ・同左
	【計画 13-2】㋐ ボランティア活動やボランティアサークルが定着し、4 年間を通じて学生一人が最低１回はボランティア活動に参加する。 **「計画達成のための方策」** 1.　学友会や学生サークルと連携し、学生のリクルートを積極的に行う。 2.コンタクトグループの前後に学生に連絡を行い、情報を周知する。 3.　学生サークルの活動が円滑に行えるようにサポートする。 4.ボランティア活動・ボランティア	**【年度計画 13-2】** 1.学友会や学生サークルと連携し、学生のリクルートを積極的に行う。 2.コンタクトグループの前後に学生に連絡を行い、情報を周知する。 3.　学生サークルの活動が円滑に	**【年度計画 13-2】** 同左	**【年度計画 13-2】** 1.同左 2.同左 3.同左	**【年度計画 13-2】** 同左	**【年度計画 13-2】** 同左 総括評価を行う。

中　期　目　標	中　期　計　画	年　度　計　画				
		令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度
	サークルの推進について、学友会と連携を取り支援していく。 5.目黒区と連携し、区民対象のイベントに救護活動等のボランティアとして活動する。 6.実習施設の災害訓練に患者役のボランティアとして参加する。 7.管弦楽クラブのダカーポに所属するメンバーは、病院の患者向けミニコンサートにボランティアとして参加する。 8.アロマセラピークラブのひいりんぐぽっとに所属するメンバーは、病院や老人施設、医愛祭などでアロマトリートメントのボランティアの活動を行う。 9.目黒区消防団に入会し、防災活動や災害時の拠点確認を行い、地域住民に対して貢献する。 **「評価指標」** ・各種ボランティア活動の参加状況、参加率、サークルやクラブの入会率 **【計画 13-3】(令和６年度より新規)** 学生生活の充実を図る。 **「計画達成のための方策」** 1.学生生活ガイダンス及び担任制における学生への支援活動を実施する。 2.コンタクトミーティングの実施により、学生に学年を超えた縦のつながりを提供し、担任以外の教員からのサポートも提供する。 3.看護技術経験表のデジタル化によ	行えるようにサポートする。 4.ボランティア活動・ボランティアサークルの推進について、学友会と連携を取り支援していく。 **「評価指標」** ・各種ボランティア活動の参加状況	**「評価指標」** ・同左	4.同左 5.目黒区と連携し、区民対象のイベントに救護活動等のボランティアとして活動する。 6.実習施設の災害訓練に患者役のボランティアとして参加する。 7.管弦楽クラブのダカーポに所属するメンバーは、病院の患者向けミニコンサートにボランティアとして参加する。 8.アロマセラピークラブのひいりんぐぽっとに所属するメンバーは、病院や老人施設、医愛祭などでアロマトリートメントのボランティアの活動を行う。 9.目黒区消防団に入会し、防災活動や災害時の拠点確認を行い、地域住民に対して貢献する。 中間評価を行い、今後の改善点を検討する。 **「評価指標」** ・各種ボランティア活動の参加状況、参加率、サークルやクラブの入会率 **【年度計画 13-3】** 1.学生生活ガイダンス及び担任制における学生への支援活動を実施する。 2.コンタクトミーティングの実施により、学生に学年を超えた縦のつながりを提供し、担任以外の教員からのサポートも提供する。	**「評価指標」** ・同左 **【年度計画 13-3】** ・同左	**「評価指標」** ・同左 **【年度計画 13-3】** ・同左

中　期　目　標	中　期　計　画	年　度　計　画				
		令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度
	り、学生自身が自ら技術の到達度を確認しながら学習や実習を進めていくことを促す。 ・各実習後の面談にて、看護技術経験表の確認を教員と実施する。 ・各実習の開始前には、学生自身で看護技術達成度を確認するように教員が促す。 ・未達成項目を確認し、実習の中で受け持ち患者のニーズに合わせて学生が自ら達成できるように指導する。 **「評価指標」** 1)新入生ガイダンス実施後アンケートの実施状況の確認 2)コンタクトミーティングへの参加率、アンケートの確認 3)看護技術経験表の各学年の更新状況・看護技術経験表の各学年の目標達成率 **【計画 13-4】(令和６年度より新規)** 学びの機会を拡大し、学際的視野を身につけることを促進する。 **「計画達成のための方策」** 1.単独の学問だけでは解決が難しい課題に対して、複数の学問を連携・融合させ学修することで学際的視野を身に着けることができるように、情報提供や学習支援に努めていく。 2.前期後期開始時に学部長、主担任により学生へのカリキュラムや学習に関するガイダンスが行われることで、一層学ぶことの意義や学際的視野につながる。			3.看護技術経験表のデジタル化により、学生自身が自ら技術の到達度を確認しながら学習や実習を進めていくことを促す。 ・各実習後の面談にて、看護技術経験表の確認を教員と実施する。 ・各実習の開始前には、学生自身で看護技術達成度を確認するように教員が促す。 ・未達成項目を確認し、実習の中で受け持ち患者のニーズに合わせて学生が自ら達成できるように指導する。 **「評価指標」** 1）新入生ガイダンス実施後アンケートの実施状況の確認 2）コンタクトミーティングへの参加率、アンケートの確認 3）看護技術経験表の各学年の更新状況・看護技術経験表の各学年の目標達成率 **【年度計画 13-4】** 1.単独の学問だけでは解決が難しい課題に対して、複数の学問を連携・融合させ学修することで学際的視野を身に着けることができるように、情報提供や学習支援に努めていく。 2.前期後期開始時に学部長、主担任により学生へのカリキュラムや学習に関するガイダンスが行われることで、一層学ぶことの意	**「評価指標」** ・同左 **【年度計画 13-4】** ・同左	**「評価指標」** ・同左 **【年度計画 13-4】** ・同左

中　期　目　標	中　期　計　画	年　度　計　画				
		令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度
	3.学生が自己の看護に関連する分野だけでなく、他領域の知識、知見、手法を融合しながら、問題解決に取り組む姿勢とスキルを身につけることを目指すことができるような学修の場を提供する。 4.グローバルな健康課題に対し、一人ひとりが主体的に興味関心のある分野を学修できる副専攻「国際看護学」を設置し、国際看護を担う人材を育成する。 **「評価指標」** ・出席率・参加率・授業評価アンケート **【計画 13-5】(令和６年度より新規)** 学生に継続的な教育支援を行い満足度を高める。 **「計画達成のための方策」** 1. 学修ポートフォリオ(電子版看護技術経験表)の活用:演習や実習を学生と一緒に振り返り、できるようになった看護技術を確認し、学生自身が成長を感じられるように促す。 2. OH の開催：各教員が OH の開催について学生に伝え（シラバスに記載する)、授業や演習、実習での学生の疑問にタイムリーに対応するようにする。 3. 授業評価アンケートを実施し、学生にフィードバックする。 **「評価指標」** ・学修ポートフォリオ(看護技術経験表)の記載状況を確認し、目標到達			義や学際的視野につながる。 3.学生が自己の看護に関連する分野だけでなく、他領域の知識、知見、手法を融合しながら、問題解決に取り組む姿勢とスキルを身につけることを目指すことができるような学修の場を提供する。 4.グローバルな健康課題に対し、一人ひとりが主体的に興味関心のある分野を学修できる副専攻「国際看護学」を設置し、国際看護を担う人材を育成する。 **「評価指標」** ・出席率・参加率・授業評価アンケート **【年度計画 13-5】** 1. 学修ポートフォリオ(電子版看護技術経験表)の活用：演習や実習を学生と一緒に振り返り、できるようになった看護技術を確認し、学生自身が成長を感じられるように促す。 2. OH の開催：各教員が OH の開催について学生に伝え（シラバスに記載する)、授業や演習、実習での学生の疑問にタイムリーに対応するようにする。 3. 授業評価アンケートを実施し、学生にフィードバックする。 **「評価指標」** ・学修ポートフォリオ(看護技術経験表)の記載状況を確認し、目	**「評価指標」** ・同左 **【年度計画 13-5】** ・同左 **「評価指標」** ・同左	**「評価指標」** ・同左 **【年度計画 13-5】** ・同左 **「評価指標」** ・同左

中　期　目　標	中　期　計　画	年　度　計　画				
		令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度
	レベルの推移をみる。 ・OH の利用状況を集計する。 ・授業評価アンケートを集計する。回答率や回答内容の確認をする。 **【計画 13-6】(令和６年度より新規)** 書籍を利用しやすいレイアウトや検察対応を工夫し、図書利用の促進および満足度を高める。 **「計画達成のための方策」** 1.図書館利用方法の説明や検索対応を行う。 2.データベース利用方法の説明を十分に行い、英論文クリティークや看護研究の基礎といった講義においても繰り返し説明し、各自がスムーズに利用できるまで支援する。 3.授業や実習に必要な書籍および DVD に関して、前期・後期で購入リクエストを受け付けるとともに、リアルタイムでリクエストも受付、ニーズに対応する。 4.目黒区、目黒区内の病院図書館における地域連携を促進する。「緩和ケア」「就業継続しながらの治療」といったテーマでコラボレーション展示を行い、学生の興味関心を促すとともに大学図書館と地域の連携による社会活動を学ぶ。 **「評価指標」** 入館者数、資料貸出冊数、ILL 申込件数、データベースログイン回数と Session 数、看護師国試 WEB ﾛｸﾞｲﾝ回数			標到達レベルの推移をみる。 ・OH の利用状況を集計する。 ・授業評価アンケートを集計する。回答率や回答内容の確認をする。 **【年度計画 13-6】** 1.図書館利用方法の説明や検索対応を行う。 2.データベース利用方法の説明を十分に行い、英論文クリティークや看護研究の基礎といった講義においても繰り返し説明し、各自がスムーズに利用できるまで支援する。 3.授業や実習に必要な書籍および DVD に関して、前期・後期で購入リクエストを受け付けるとともに、リアルタイムでリクエストも受付、ニーズに対応する。 4.目黒区、目黒区内の病院図書館における地域連携を促進する。「緩和ケア」「就業継続しながらの治療」といったテーマでコラボレーション展示を行い、学生の興味関心を促すとともに大学図書館と地域の連携による社会活動を学ぶ。 **「評価指標」** 入館者数、資料貸出冊数、ILL 申込件数、データベースログイン回数と Session 数、看護師国試 WEB ﾛｸﾞｲﾝ回数	**【年度計画 13-6】** ・同左 **「評価指標」** ・同左	**【年度計画 13-6】** ・同左 **「評価指標」** ・同左

中　期　目　標	中　期　計　画	年　度　計　画				
		令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度
	【計画 13-7】(令和６年度より新規) 異文化コミュニケーションの充実と学生の満足度を高める。 **「計画達成のための方策」** 1.ハワイの NP による特別講演を設定し受講できるよう時間割を調整する。 2.国際看護学Ⅱのフィールドワークを通して、グローバル化の実態および、外国人の健康問題について探求する。 3.TOEIC®の受験を推奨、セッティングし、英語能力、日常やオフィスなど実際のコミュニケーション能力を高める。 4.ネイティブスピーカーと交流する English café の定期的な開催により、英語能力、コミュニケーション能力を高める。 5.海外現地研修参加による現地の学生やホストファミリーとの交流により、英語能力、コミュニケーション能力を高める。 6.海外オンライン研修の参加を促し、英語能力、コミュニケーション能力を高める。 **「評価指標」** 特別講演の出席率、ヒアリング参加率、TOEIC®の受験率、English café の参加率、海外研修の参加率および満足度、オンライン交流の参加率および満足度 **【計画 13-8】(令和６年度より新規)** 卒業後の支援体制を構築する。 **「計画達成のための方策」** 1. 卒業生との懇談会を企画し、学生			**【年度計画 13-7】** 1.ハワイの NP による特別講演を設定し受講できるよう時間割を調整する。 2.国際看護学Ⅱのフィールドワークを通して、グローバル化の実態および、外国人の健康問題について探求する。 3.TOEIC®の受験を推奨、セッティングし、英語能力、日常やオフィスなど実際のコミュニケーション能力を高める。 4.ネイティブスピーカーと交流する English café の定期的な開催により、英語能力、コミュニケーション能力を高める。 5.海外現地研修参加による現地の学生やホストファミリーとの交流により、英語能力、コミュニケーション能力を高める。 6.海外オンライン研修の参加を促し、英語能力、コミュニケーション能力を高める。 **「評価指標」** 特別講演の出席率、ヒアリング参加率、TOEIC®の受験率、English café の参加率、海外研修の参加率および満足度、オンライン交流の参加率および満足度 **【年度計画 13-8】** 1. 卒業生との懇談会を企画し、学	**【年度計画 13-7】** ・同左 **「評価指標」** ・同左 **【年度計画 13-8】** ・同左	**【年度計画 13-7】** ・同左 **「評価指標」** ・同左 **【年度計画 13-8】** ・同左

中　期　目　標	中　期　計　画	年　度　計　画				
		令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度
	が将来の進路について考える機会を設ける。 **「評価指標」** 卒業生との懇談会の参加率及び満足度 **【計画 13-9】（令和６年度より新規）** 実習施設との連携強化により充実した実習指導を強化する。 **「計画達成のための方策」** 1. 医療センターとの連携会議（3 回/年）を開催する。 2. 連携会議でのテーマについては、参加者からの意見や希望を聞き、医療センターと大学の担当者で調整する。 3. 看護学実習施設への説明会の開催（1 回/年） 4. 実習指導者講習会の開催（2024 年度より開講） **「評価指標」** ・連携会議、看護学実習施設への説明会、実習指導者講習会の参加人数 ・実施後のアンケート結果 **【計画 13-10】（令和 6 年度より新規）** 広報活動の充実により受験生の本学受験および入学の意志が高まる。 **「計画達成のための方策」** 1. 入試広報部と協力し、受験生に本学の特徴を認識してもらえるよう複数の広報イベントを開催する。 ①オープンキャンパスの充実：年 3 回開催とする（3 月,6 月,7 月）。 ②入試説明会の充実：模擬授業、病			生が将来の進路について考える機会を設ける。 **「評価指標」** 卒業生との懇談会の参加率及び満足度 **【年度計画 13-9】** 1. 医療センターとの連携会議（3 回/年）を開催する。 2. 連携会議でのテーマについては、参加者からの意見や希望を聞き、医療センターと大学の担当者で調整する。 3. 看護学実習施設への説明会の開催（1 回/年） 4. 実習指導者講習会の開催 **「評価指標」** ・連携会議、看護学実習施設への説明会、実習指導者講習会の参加人数 ・実施後のアンケート結果 **【年度計画 13-10】** 1. 入試広報部と協力し、受験生に本学の特徴を認識してもらえるよう複数の広報イベントを開催する。 2. 企画広報部と協力し、広報誌、公式 Web サイト、SNS 等を通じて、	**「評価指標」** ・同左 **【年度計画 13-9】** ・同左 **「評価指標」** ・同左 **【年度計画 13-10】** ・同左	**「評価指標」** ・同左 **【年度計画 13-9】** ・同左 **「評価指標」** ・同左 **【年度計画 13-10】** ・同左

中　期　目　標	中　期　計　画	年　度　計　画				
		令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度
	院見学など、学生や両親が関心を持て、実際の学びの雰囲気を体験できる魅力あるイベントを企画運営する。 ③個別相談会の充実：在学生や教員との相談会、事務部職員による学生生活支援状況の説明を個別に実施できるようにイベント内で設定する。 2.企画広報部と協力し、広報誌、公式 Web サイト、SNS 等を通じて、東が丘看護学部の情報やイベント情報を発信する。 3.大学の授業内容に触れることのできる出張講義を提供することで、看護の魅力と医療界の働きがいを伝え、キャリア選択に「看護」が入るよう実施する。 **「評価指標」** ・開催状況（オープンキャンパス、個別相談会、入試説明会） ・各イベントの来校者数と満足度調査 ・出張講義の実施状況 ・受験者数 ・Web サイトの訪問者数や SNS の再生回数 **○立川看護学部** **【計画 14-1】㋐** 立川看護学部の「地域から信頼される看護師の育成」を基本とし、新カリキュラムの導入により、高い実践力と判断力を身に着けた看護師の育成を目指し、学生が主体的に学ぶことができるよう、講義・演習・実習を連動させ、これまでの学修成果を見直し、新たな教育手法の導入と改			東が丘看護学部の情報やイベント情報を発信する。 3.大学の授業内容に触れることのできる出張講義を提供することで、看護の魅力と医療界の働きがいを伝え、キャリア選択に「看護」が入るよう実施する。 **「評価指標」** ・開催状況（オープンキャンパス、個別相談会、入試説明会） ・各イベントの来校者数と満足度調査 ・出張講義の実施状況 ・受験者数 ・Web サイトの訪問者数や SNS の再生回数	**「評価指標」** ・同左	**「評価指標」** ・同左

中　期　目　標	中　期　計　画	年　度　計　画				
		令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度
	善および教育環境を整備する。 **「計画達成のための方策」** 1.新カリキュラムの導入、及び各領域の特性や学習目標に合わせた教育手法を用い、学生が主体的に学ぶことができる教育環境を整え、効果的な授業を展開する。また、学習成果を可視化し、授業内容の改善を図る。 2.看護技術項目（令和４年度から導入）の各演習・実習での修得度を評価し、卒後時点での看護技術の修得度を高める。 3.副専攻「災害看護学コース」の教育を１年次から４年次まで系統的に実施、また、災害医療センターと連携し教育内容の充実を図る。さらに、地域と協働した避難訓練参加などの学習の機会（地域貢献・ボラティア）をもつ。 **「評価指標」** ・新カリキュラムの導入状況 ・看護技術項目の習得状況 ・災害看護学コースの教育内容充実状況 **【計画 14-2】**㋐ 学生の国家試験対策や就職支援を強化するとともに、卒業後の支援体制を構築する。 **「計画達成のための方策」** 1.看護師国家試験合格 100%をめざ	**【年度計画 14-1】** 1.アクティブラーニングの導入・ＩＣＴの活用等について、全科目(104 科目)の 20～25%の見直しを行う。 2.看護技術の修得度を高める 学年ごと、各領域で看護技術の達成度を評価し、情報を共有する(年度計画-5 に記載) 3.災害看護学コースの教育内容の充実を図る。 **「評価指標」** ・同左 **【年度計画 14-2】** 1.看護師国家試験合格 100%をめ	**【年度計画 14-1】** 1.アクティブラーニングの導入・ＩＣＴの活用等について、全科目の 20～25%の見直しを行う。 2.前年度より達成度の割合の増減を評価する。令和８年度の目標値の達成を目指す。 3.新カリキュラムの進捗状況とともに、災害看護学コースに関連する全ての科目の学修評価・改善に取り組む。毎年、2～3 科目の見直しを行う。また、副専攻災害看護学コースに規定された単位数を修了した場合は、修了書を渡す。 **「評価指標」** ・同左 **【年度計画 14-2】** 1.看護師国家試験合格 100%をめ	**【年度計画 14-1】** 1.アクティブラーニングの導入・ＩＣＴの活用等について、全科目の 20～25%の見直しを行う。 2.前年度より達成度の割合の増減を評価する。令和８年度の目標値の達成を目指す。 3.新カリキュラムの進捗状況とともに、災害看護学コースに関連する全ての科目の学修評価・改善に取り組む。毎年、2～3 科目の見直しを行う。また、副専攻災害看護学コースに規定された単位数を修了した場合は、修了書を渡す。 **「評価指標」** ・同左 **【年度計画 14-2】** 1.看護師国家試験合格 100%をめ	**【年度計画 14-1】** 1.アクティブラーニングの導入・ＩＣＴの活用等について、全科目の 20～25%の見直しを行う。 2.看護技術の修得度を高める。前年度より達成度の割合の増減を評価する。令和８年度の目標値の達成を目指す。 看護技術項目の全項目の見直しを終え、次の目標を設定する。 3.新カリキュラムの進捗状況とともに、災害看護学コースに関連する全ての科目の学修評価・改善を終える。災害医療センター及び地域と連携した学習の機会（ボランティアを含む）と参加数を増やす。(令和３年度を基準値とする) 卒業研究の学外発表数の成果をまとめる。また、副専攻災害看護学コースに規定された単位数を修了した場合は、修了書を渡す。 **「評価指標」** ・同左 **【年度計画 14-2】** 1.看護師国家試験合格 100%をめ

中　期　目　標	中　期　計　画	年　度　計　画				
		令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度
	す。 2.8 月末までに就職内定 90%以上（進学希望者を除く）、卒業時就職・進学率 100%をめざす。 3.卒業後の支援体制を構築する。 **「評価指標」** ・看護師国家試験合格状況 ・就職内定状況 ・卒業後の支援体制の構築状況 **【計画 14-3】**㋐ 立川看護学部の学生支援を充実させる。 **「計画達成のための方策」** 1.コンタクト・グループミーティングの出席率を各学年 80%以上に維持する。 2.新入生合宿研修での学科プログラムの企画運営を効果的に行い、参加学生の満足度を 80%以上にする。 3.医愛祭での立川看護学部の企画イベントで地域に貢献する。両日 80 名以上の来場者を確保するとともに、学生ボランティア 10 名以上を確保する。 4.ボランティア活動参加の活性化を図る。	ざす。 2.8 月末までに就職内定 90%以上（進学希望者を除く）、卒業時就職・進学率 100%をめざす。 3.卒業後の支援体制を構築する。 **「評価指標」** ・同左 **【年度計画 14-3】** 1.コンタクト・グループミーティングの出席率を各学年 80%以上に維持する。 2.新入生合宿研修での学科プログラムの企画運営を効果的に行い、参加学生の満足度を 80%以上にする。 3.医愛祭での立川看護学部の企画イベントで地域に貢献する。両日 80 名以上の来場者を確保するとともに、学生ボランティア 10 名以上を確保する。 4.ボランティア活動参加の活性化を図る。 ・ボランティア活動に関する情報提供を年 3 回以上行う。 ・4 年間を通じて学生一人が最低 1 回はボランティア活動に参加する。 ・医療機関や老人保健施設などにおける学生ボランティアの参加や病院でのコンサートへの参加協力など）を、年に 1 回以上行う。	ざす。 2.8 月末までに就職内定 90%以上（進学希望者を除く）、卒業時就職・進学率 100%をめざす。 3.卒業後の支援体制を構築する。 **「評価指標」** ・同左 **【年度計画 14-3】** 1.コンタクト・グループミーティングの出席率を各学年 80%以上に維持する。 2.新入生合宿研修での学科プログラムの企画運営を効果的に行い、参加学生の満足度を 80%以上にする。 3.医愛祭での立川看護学部の企画イベントで地域に貢献する。両日 80 名以上の来場者を確保するとともに、学生ボランティア 10 名以上を確保する。 4.ボランティア活動参加の活性化を図る。 ・ボランティア活動に関する情報提供を年 3 回以上行う。 ・4 年間を通じて学生一人が最低 1 回はボランティア活動に参加する。 ・医療機関や老人保健施設などにおける学生ボランティアの参加や病院でのコンサートへの参加協力など）を、年に 1 回以上行う。	ざす。 2.8 月末までに就職内定 90%以上（進学希望者を除く）、卒業時就職・進学率 100%をめざす。 3.卒業後の支援体制を構築する。 **「評価指標」** ・同左 **【年度計画 14-3】** 1.コンタクト・グループミーティングの出席率を各学年 80%以上に維持する。 2.新入生合宿研修での学科プログラムの企画運営を効果的に行い、参加学生の満足度を 80%以上にする。 3.医愛祭での立川看護学部の企画イベントで地域に貢献する。両日 80 名以上の来場者を確保するとともに、学生ボランティア 10 名以上を確保する。 4.ボランティア活動参加の活性化を図る。 ・ボランティア活動に関する情報提供を年 3 回以上行う。 ・4 年間を通じて学生一人が最低 1 回はボランティア活動に参加する。 ・医療機関や老人保健施設などにおける学生ボランティアの参加や病院でのコンサートへの参加協力など）を、年に 1 回以上行う。	ざす。 2.8 月末までに就職内定 90%以上（進学希望者を除く）、卒業時就職・進学率 100%をめざす。 3.卒業後の支援体制を構築する。 **「評価指標」** ・同左 **【年度計画 14-3】** 1.コンタクト・グループミーティングの出席率を各学年 80%以上に維持する。 2.新入生合宿研修での学科プログラムの企画運営を効果的に行い、参加学生の満足度を 80%以上にする。 3.医愛祭での立川看護学部の企画イベントで地域に貢献する。両日 80 名以上の来場者を確保するとともに、学生ボランティア 10 名以上を確保する。 4.ボランティア活動参加の活性化を図る。 ・ボランティア活動に関する情報提供を年 3 回以上行う。 ・4 年間を通じて学生一人が最低 1 回はボランティア活動に参加する。 ・医療機関や老人保健施設などにおける学生ボランティアの参加や病院でのコンサートへの参加協力など）を、年に 1 回以上行う。

中　期　目　標	中　期　計　画	年　度　計　画				
		令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度
	「評価指標」 ・コンタクト・グループミーティングの出席状況 ・新入生合宿研修の満足度 ・医愛祭での来場者、学生ボランティア数 ・ボランティア活動の参加状況 **【計画 14-4】**㋐ 実習施設と大学の連携を図り、より良い実習環境を整備した上で、看護師教育の技術項目に対する卒業時の到達度の達成に向けた指導の実施や、質の高い看護教育の実現に向けて大学・実習施設で共同研究を実施する。 **「計画達成のための方策」** 1.実習施設と大学で実習に関する情報や課題を共有し、課題解決や教育効果向上に向けた検討の機会を持つ。 2.臨床指導者と大学教員とさらなる連携を図り、看護学実習の目的・目標に沿った教育効果の高い実習を行えるよう実習環境や指導体制について検討する。 3.看護技術経験表の集計、到達度が未達成(60%未満)の項目について委員会で対策を検討する。また、学生の到達度評価について教員間で共有し、実習指導に活かす。 4.大学・実習施設で看護教育に関する共同研究を実施し、学術集会で成果発表を行う。	**「評価指標」** ・同左 **【年度計画 14-4】** 1.看護学実習施設に対する説明会の実施。(1 回/年) 2.看護学実習連携会議の実施。(1 回/年) 3.技術経験表の学生の到達度調査及び内容の検討。 ・東が丘・立川看護学部看護学科災害看護学コース４年次生の看護技術卒業時到達度達成の到達度60%以上の項目が 90%以上。 ・到達度未達成(60%未満)項目の共有及び対策の検討。(1 回/年) 4.大学・実習施設と実習指導に関連する共同研究。 ・大学と実習施設による共同研究の実施。(1 回以上/年) ・学術集会での成果発表。(1 回以上/年) 5.学内実習のためのシミュレーション教材作りにむけた検討。	**「評価指標」** ・同左 **【年度計画 14-4】** 1.看護学実習施設に対する説明会の実施。(1 回/年) 2.看護学実習連携会議の実施。(1 回/年) 3.技術経験表の学生の到達度調査及び内容の検討。 ・東が丘・立川看護学部看護学科災害看護学コース４年次生の看護技術卒業時到達度達成の到達度60%以上の項目が 90%以上。 ・到達度未達成(60%未満)項目の共有及び対策の検討。(1 回/年) 4.大学・実習施設と実習指導に関連する共同研究。 ・大学と実習施設による共同研究の実施。(1 回以上/年) ・学術集会での成果発表。(1 回以上/年)	**「評価指標」** ・同左 **【年度計画 14-4】** 1.看護学実習施設に対する説明会の実施。(1 回/年) 2.看護学実習連携会議の実施。(1 回/年) 3.技術経験表の学生の到達度調査及び内容の検討。 ・東が丘・立川看護学部看護学科災害看護学コース４年次生の看護技術卒業時到達度達成の到達度60%以上の項目が 90%以上。 ・到達度未達成(60%未満)項目の共有及び対策の検討。(1 回/年) 4.大学・実習施設と実習指導に関連する共同研究。 ・大学と実習施設による共同研究の実施。(1 回以上/年) ・学術集会での成果発表。(1 回以上/年)	**「評価指標」** ・同左 **【年度計画 14-4】** 1.看護学実習施設に対する説明会の実施。(1 回/年) 2.看護学実習連携会議の実施。(1 回/年) 3.技術経験表の学生の到達度調査及び内容の検討。 ・東が丘・立川看護学部看護学科災害看護学コース４年次生の看護技術卒業時到達度達成の到達度60%以上の項目が 90%以上。 ・到達度未達成(60%未満)項目の共有及び対策の検討。(1 回/年) 4.大学・実習施設と実習指導に関連する共同研究。 ・大学と実習施設による共同研究の実施。(1 回以上/年) ・学術集会での成果発表。(1 回以上/年)

中　期　目　標	中　期　計　画	年　度　計　画				
		令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度
	「評価指標」 ・看護学実習施設に対する説明会の実施状況 ・看護学実習連携会議の実施状況 ・技術経験表の学生の到達度調査及び内容の検討状況 ・大学・実習施設と実習指導に関連する共同研究状況 **【計画 14-5】**㋐ 立川市消防団機能別分団（立川市学生消防団）活動の活性化を図ることにより、立川市民の安全・安心を護るとともに学生団員自らの災害医療に対する知識と技能、意欲を育成する。 **「計画達成のための方策」** 1.新入生オリエンテーション等の機会を利用して、大学の社会貢献活動の重要性を丁寧かつ適切に伝え、学生が主体性を持って入団することを第一とする。また、活動の様子を広くＰＲし、社会的に認知されていることを入団の意識付け材料とする。 2.訓練・行事への出席率向上について、消防団員は『公務員』であるという自覚と責任感を入念するとともに、地域の担い手として地域住民と接することを説明して出席に対するモチベーションアップに繋げる。また、各種訓練等の日程を予め立川市と調整し、学業に支障のないスケジュールを設定する。 3.上級救命講習の受講について、上級救命講習の概要及び学生消防団にとっての必要性と有効性を説明する。	**「評価指標」** ・看護学実習施設に対する説明会の実施状況 ・看護学実習連携会議の実施状況 ・技術経験表の学生の到達度調査及び内容の検討状況 ・大学・実習施設と実習指導に関連する共同研究状況 **【年度計画 14-5】** 立川市消防団機能別分団（立川市学生消防団）活動の活性化。 1.立川市学生消防団に所属する学生数。全学部生の 30%以上加入 2.立川市学生消防団における主な訓練・行事への出席。平均出席率コロナ禍：約 30%以上 、ポストコロナ：約 50%以上 3.上級救命講習を受講し、上級救命技能認定証の交付を受ける学生消防団員の育成。	**「評価指標」** ・同左 **【年度計画 14-5】** 立川市消防団機能別分団（立川市学生消防団）活動の活性化。 1.立川市学生消防団に所属する学生数。全学部生の 30%以上加入 2.立川市学生消防団における主な訓練・行事への出席。平均出席率コロナ禍：約 30%以上 、ポストコロナ：約 50%以上 3.上級救命講習を受講し上級救命技能認定証の交付を受ける。 学生消防団員の 10%以上（新設）	**「評価指標」** ・同左 **【年度計画 14-5】** 立川市消防団機能別分団（立川市学生消防団）活動の活性化。 1.立川市学生消防団に所属する学生数。全学部生の 30%以上加入 2.立川市学生消防団における主な訓練・行事への出席。平均出席率コロナ禍：約 30%以上 、ポストコロナ：約 50%以上 3.上級救命講習を受講し上級救命技能認定証の交付を受ける。 学生消防団員の 15%以上 .	**「評価指標」** ・同左 **【年度計画 14-5】** 立川市消防団機能別分団（立川市学生消防団）活動の活性化。 1.立川市学生消防団に所属する学生数。全学部生の 30%以上加入 2.立川市学生消防団における主な訓練・行事への出席。平均出席率コロナ禍：約 30%以上 、ポストコロナ：約 50%以上 3.　3.上級救命講習を受講し上級救命技能認定証の交付を受ける。 学生消防団員の 20%以上。	**「評価指標」** ・同左 **【年度計画 14-5】** 立川市消防団機能別分団（立川市学生消防団）活動の活性化。 1.立川市学生消防団に所属する学生数。全学部生の 30%以上加入 2.立川市学生消防団における主な訓練・行事への出席。平均出席率コロナ禍：約 30%以上 、ポストコロナ：約 50%以上 3.上級救命講習を受講し上級救命技能認定証の交付を受ける。 学生消防団員 25%以上。

中　期　目　標	中　期　計　画	年　度　計　画				
		令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度
	「評価指標」 ・立川市学生消防団に所属する学生数 ・立川市学生消防団における主な訓練・行事への出席状況 ・上級救命講習を受講し上級救命技能認定証の交付を受ける学生消防団員の状況 **【計画 14-6】**㋐ 立川看護学部が目指す看護師像を情報発信するとともに、立川看護学部の人的リソースによる魅力あるオープンキャンパス、個別見学会等を企画・運営し、参加高校生の満足度を向上させる。 **「計画達成のための方策」** 1.学生募集部と協働し、広報企画参加者の満足度とニーズに関する量的、質的データを収集できるアンケートを作成し、実施する。 2.広報企画参加者アンケートの結果を検討して次のオープンキャンパス、ミニオープンキャンパス、個別見学会、入試説明会、大学案内パンフレットなどの内容を検討する。 3.在校生、教員、事務部職員などの人的リソースを活用した、参加者に近い感覚の学生メッセージ、学生と両親が関心を持てる学部紹介とキャンパスツアー、大学の授業内容に触れる学科企画プログラム、模擬講義、学生や教員によるフランクで楽しい各種プレゼンテーションなどを企画運営する。	**「評価指標」** ・立川市学生消防団に所属する学生数 ・立川市学生消防団における主な訓練・行事への出席状況 ・上級救命講習を受講し上級救命技能認定証の交付を受ける学生消防団員の状況 **【年度計画 14-6】** 1.来校型・WEB 型による、オープン・ミニオープンキャンパスの開催。 ・オープン・ミニオープンキャンパスの開催数。３回 ・オープン・ミニオープンキャンパス参加者。満足度 70%以上 2.来校型による、個別見学会の開催。 ・個別見学会の開催数。3 回以上 ・個別見学会の参加者。満足度 70%以上 3.来校型・WEB 型による、入試説明会の実施。 ・入試説明会開催数 3 回以上 ・入試説明会参加者。満足度 70%以上 4.出張講座の実施。 ・出張講座開催数。1 回以上 ・出張講座参加者。満足度 70%	**「評価指標」** ・同左 **【年度計画 14-6】** 1.来校型・WEB 型による、オープン・ミニオープンキャンパスの開催。 ・オープン・ミニオープンキャンパスの開催数。３回 ・オープン・ミニオープンキャンパス参加者。満足度 70%以上 2.来校型による、個別見学会の開催。 ・個別見学会の開催数。3 回以上 ・個別見学会の参加者。満足度 70%以上 3.来校型・WEB 型による、入試説明会の実施。 ・入試説明会開催数 3 回以上 ・入試説明会参加者。満足度 70%以上 4.出張講座の実施。 ・出張講座開催数。1 回以上 ・出張講座参加者。満足度 70%	**「評価指標」** ・同左 **【年度計画 14-6】** 1.来校型・WEB 型による、オープン・ミニオープンキャンパスの開催。 ・オープン・ミニオープンキャンパスの開催数。３回 ・オープン・ミニオープンキャンパス参加者。満足度 80%以上 2.来校型による、個別見学会の開催。 ・個別見学会の開催数。3 回以上 ・個別見学会の参加者。満足度 80%以上 3.来校型・WEB 型による、入試説明会の実施。 ・入試説明会開催数 3 回以上 ・入試説明会参加者。満足度 80%以上 4.出張講座の実施。 ・出張講座開催数。1 回以上 ・出張講座参加者。満足度 80%	**「評価指標」** ・同左 **【年度計画 14-6】** 1.来校型・WEB 型による、オープン・ミニオープンキャンパスの開催。 ・オープン・ミニオープンキャンパスの開催数。３回 ・オープン・ミニオープンキャンパス参加者。満足度 80%以上 2.来校型による、個別見学会の開催。 ・個別見学会の開催数。3 回以上 ・個別見学会の参加者。満足度 80%以上 3.来校型・WEB 型による、入試説明会の実施。 ・入試説明会開催数 3 回以上 ・入試説明会参加者。満足度 80%以上 4.出張講座の実施。 ・出張講座開催数。1 回以上 ・出張講座参加者。満足度 80%	**「評価指標」** ・同左 **【年度計画 14-6】** 1.来校型・WEB 型による、オープン・ミニオープンキャンパスの開催。 ・オープン・ミニオープンキャンパスの開催数。３回 ・オープン・ミニオープンキャンパス参加者。満足度 90%以上 2.来校型による、個別見学会の開催。 ・個別見学会の開催数。3 回以上 ・個別見学会の参加者。満足度 90%以上 3.来校型・WEB 型による、入試説明会の実施。 ・入試説明会開催数 3 回以上 ・入試説明会参加者。満足度 90%以上 4.出張講座の実施。 ・出張講座開催数。1 回以上 ・出張講座参加者。満足度 90%

中　期　目　標	中　期　計　画	年　度　計　画				
		令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度
	「評価指標」 ・来校型・WEB 型による、オープン・ミニオープンキャンパスの開催状況 ・来校型による、個別見学会の開催状況 ・来校型･WEB 型による入試説明会の実施状況 ・出張講座の実施状況 **【計画 14-7】**㋐ 学生・教職員の研究推進のため、図書室の利用促進を図る。 **「計画達成のための方策」** 図書室の申し込みの手続きを利用者の利便性に配慮して、簡便な方法に改善するとともに、文献利用を促すためのＰＲを定期的に発信する。また積極的な利用を推進するため、利用者の関心が高まるような新刊図書の PR を行うとともに、文献貸出を促すためのＰＲを定期的に発信する。 **「評価指標」** ・ILL 申し込み人数の状況 ・立川図書館の貸し出し状況 **○千葉看護学部** **【計画 15-1】** 未来に向けた主体性を涵養する教育を推進する。 **「計画達成のための方策」** 1. 主体的に学修できる仕組みと環境を整備する。 ⑴ 学生がビジョンに照らして自己評価できるプログラムとしてポート	**「評価指標」** ・来校型・WEB 型による、オープン・ミニオープンキャンパスの開催状況 ・来校型による、個別見学会の開催状況 ・来校型・WEB 型による入試説明会の実施状況 ・出張講座の実施状況 **【年度計画 14-7】** 1. ILL 申し込み人数が令和 3 年度前期は 67 件(2～29 件/月)を 1.25 倍の 83 件を目指し、年間 166 件をめざす。 2. 立川図書館の貸し出し冊数（図書及び雑誌）は令和 2 年度 3,523 冊であり、令和 4 年度もコロナ禍が継続していることから昨年度より 2%増の 3,594 冊（71 増）をめざす。 **「評価指標」** ・ILL 申し込み人数の状況 ・立川図書館の貸し出し状況 **【年度計画 15-1】** 1. 主体的に学修できる仕組みと環境を整備する。 ⑴①ＬＭＳを用いた学修ポートフォリオの具体的な計画の検討	**「評価指標」** ・同左 **【年度計画 14-7】** 1. ILL 申し込み人数が令和 3 年度前期は 67 件(2～29 件/月)を 1.25 倍の 83 件を目指し、年間 166 件をめざす。 2. 立川図書館の貸し出し冊数（図書および雑誌）は令和 2 年度 3,523 冊であり、令和 5 年度もコロナ禍が継続していることから昨年度より 2%増の 3,594 冊（71 増）をめざす。 **「評価指標」** ・同左 **【年度計画 15-1】** 1. 主体的に学修できる仕組みと環境を整備する。 ⑴①ＬＭＳを用いた学修ポートフォリオの利用を拡大する。	**「評価指標」** ・同左 **【年度計画 14-7】** 1. ILL 申し込み人数が令和 3 年度前期は 67 件（2～29 件/月）を 1.3 倍の 87 件を目指し、年間 174 件をめざす。 2. 立川図書館の貸し出し冊数（図書および雑誌）は令和 2 年度 3,523 冊であり、令和 3 年度より 5%増の 3,699 冊（176 増）をめざす。 **「評価指標」** ・同左 **【年度計画 15-1】** 1. 主体的に学修できる仕組みと環境を整備する。 ⑴①同左	**「評価指標」** ・同左 **【年度計画 14-7】** 1. ILL 申し込み人数が令和 3 年度前期は 67 件（2～29 件/月）を 1.3 倍の 87 件を目指し、年間 174 件をめざす。 2. 立川図書館の貸し出し冊数（図書および雑誌）は令和 2 年度 3,523 冊であり、令和 3 年度より 5%増の 3,699 冊（176 増）をめざす。 **「評価指標」** ・同左 **【年度計画 15-1】** 1. 主体的に学修できる仕組みと環境を整備する。 ⑴①同左	**「評価指標」** ・同左 **【年度計画 14-7】** 1. ILL 申し込み人数が令和 3 年度前期は 67 件（2～29 件/月を 1.5 倍の 100 件を目指し、年間 200 件をめざす。 2. 立川図書館の貸し出し冊数（図書および雑誌）は令和 2 年度 3,523 冊であり、令和 3 年度より 7%増の 3,770 冊（247 増）をめざす。 **「評価指標」** ・同左 **【年度計画 15-1】** 1. 主体的に学修できる仕組みと環境を整備する。 ⑴①②4 年間の利用を踏まえた評価を行い、より良いあり方・方法

中　期　目　標	中　期　計　画	年　度　計　画				
		令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度
	フォリオを導入し、効果的に運用されるよう仕組みを整備する。 **「評価指標」** ・ポートフォリオシステムの整備状況、学年別ガイダンスの実施状況、ビジョンについてのポートフォリオの記録回数・実施人数	と部分的な試行を開始する。 ②学生に対して定期的にガイダンスを実施し、具体的な履修につながるようにする。 **「評価指標」** ・ポートフォリオシステムに関する検討会（2 回）、学年別ガイダンスの実施状況	②同左 **「評価指標」** ・ポートフォリオシステムのトライアル運用に関する評価改善会議（2 回）、ポートフォリオに関する学年別ガイダンスの実施（2 回）トライアルへの参加人数（20 人/学年）	②同左 **「評価指標」** ・ポートフォリオシステムの実質運用に関する評価改善会議（2 回）、ポートフォリオに関する学年別ガイダンスの実施（4 回）、ポートフォリオへの記載人数（8 割以上/学年）	②同左 **「評価指標」** ・同左	を検討する。 **「評価指標」** ・同左
	⑵ 早期から看護職としての意識を高めるため、1 年前期から看護の現場での演習を実施すると共に、授業内外で、看護職や人々の健康に関する講演会・イベント等の参加機会を提供するなど、アーリー・エクスポージャーのプログラムを行う。 **「評価指標」** ・学外の看護・医療保健福祉関係者等による授業回数、看護学概論の授業評価、授業外での看護・医療保健福祉関係者等による講演会・イベント等の案内回数、参加人数、学生ボランティアの割合、情報提供の頻度	⑵①講演会やイベント、ボランティア募集に関して定期的に情報提供を行う。 ②外部の保健医療福祉関係者の授業の実施状況（特に低学年）を確認し、次年度に反映させる。 ③これまでのプログラムを継続し学生及び教員からの評価調査を実施する。 **「評価指標」** ・学外の看護・医療保健福祉関係者等による授業回数（1 回/各学年）、看護学概論の授業評価（肯定的評価が 7 割以上）、授業外での看護・医療保健福祉関係者等による講演会・イベント等の案内回数（1 回）・参加人数（5 人/回）、学生ボランティアの割合（5 人/回）、情報提供の頻度（3 回）	⑵①同左 ②同左 ③前年度の評価を受け、①を活用しながら、改善計画を立案する。評価調査の対象として学外の授業関係者からも聴取を行う。 **「評価指標」** ・同左 ・学外の授業関係者からの聴取（1 回）	⑵①～④同左 **「評価指標」** ・同左	⑵①～④同左 **「評価指標」** ・同左	⑵①～④を総括し、時期中期計画に向けた改善計画を立案する。 **「評価指標」** ・同左
	⑶ 自ら学修に取り組む意義と方法との獲得をめざして、主体的な学修資源としての、図書館利用の促進、	⑶①遠隔利用も含めた図書館リソースの活用が増加する。 ②図書館の利用促進にむけたオ	⑶①～④前年度の点検評価を行い主体的な学修を支援する環境整備の視点から改善点を提案す	⑶①～④同左	⑶①～④新カリキュラム策定と並行し、新たな図書館、スタディスキルズ獲得支援等の在り方に	⑶①～④を総括し、時期中期計画に向けた改善計画を立案する。

中　期　目　標	中　期　計　画	年　度　計　画				
		令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度
	スタディスキルズに関する教材の提供、国家試験合格に向けて計画的・主体的に取り組むことが出来るような低学年時からのガイダンスや学修環境整備を行う。	リエンテーション・企画・情報発信を行う。 ③授業及び入学前準備プログラム等を通じて、学生のスタディスキルズの獲得を支援する。 ④国家試験合格に向けて計画的・主体的に取り組むことが出来るよう、ガイダンスの実施、国家試験関係情報の発信、学修進度に応じた模擬試験や講座の開催、自主学習室の確保等を行う。	る。		ついて検討会を開催する。	
	「評価指標」 ・図書館入館数、貸出数、スタディスキルズに関する教材の視聴率、国家試験合格への取り組みの実施状況及び対策参加状況	**「評価指標」** ・令和３年度に比べ、図書館における入館数、貸出数、スタディスキルズに関する教材視聴率の増加状況 ・国家試験対策支援に学生の半数以上参加	**「評価指標」** ・附属船橋図書館の入館者数、貸出件数が、前年度より増加する ・国家試験対策支援への参加者数増加状況	**「評価指標」** ・同左	**「評価指標」** ・同左	**「評価指標」** ・同左
	2.入学試験合格者に対する学修支援を入学前に開始する。 入学前からの学修に対する主体性涵養をめざし、主として推薦試験による入学生を対象に、入学前準備プログラムを構築・実施する。	2.入学試験合格者に対する学修支援を入学前に開始する。 ①前年度までの入学前準備プログラムを継続実施する。 ②入学後に該当者に対しアンケートを行い評価・改善をはかる。 ③入学前プログラム受講者の入学後の経過を追跡し、学生に対する主体性の獲得状況を評価する。	2.入学試験合格者に対する学修支援を入学前に開始する。 ①～③同左 ④一般入学試験合格者に対する入学前プログラム実施についての検討を行う。	2.入学試験合格者に対する学修支援を入学前に開始する。 ①～③同左 ④一般入学試験合格者に対する入学前プログラムを開始する（一部）。	2.入学試験合格者に対する学修支援を入学前に開始する。 ①～③同左 ④全一般入学試験合格者に対する入学前プログラムを開始する。	2.入学試験合格者に対する学修支援を入学前に開始する ①～④を総括し、時期中期計画に向けた改善計画を立案する。
	「評価指標」 ・入学前準備プロジェクトの参加者数、参加者への入学後アンケート調査結果、入学後の学業成績の分析結果状況	**「評価指標」** ・令和３年度比、入学前準備プロジェクトの参加者数5%増加 ・プログラムに対する肯定的な評価の割合維持	**「評価指標」** ・令和３年度比、入学前準備プロジェクトの参加者数10%増加 ・前年度比、プログラムに対する肯定的な評価の割合増加	**「評価指標」** 令和３年度比、入学前準備プロジェクトの参加者数20%増加 ・前年度比、プログラムに対する肯定的な評価の割合　維持・増加	**「評価指標」** 令和３年度に比、入学前準備プロジェクトの参加者数25%増加 ・前年度比、プログラムに対する肯定的な評価の割合　維持・増加	**「評価指標」** 令和３年度比、入学前準備プロジェクトの参加者数30%増加 ・前年度比、プログラムに対する肯定的な評価の割合　維持・増加
	3.学生の主体的に学ぶ意欲と方法の獲得を支援する機会として、授業以外での学修機会の提供や学修活動を	3.学生の主体的に学ぶ意欲と方法の獲得を支援する機会として、授業以外での学修機会の提供や	3.学生の主体的に学ぶ意欲と方法の獲得を支援する機会として、授業以外での学修機会の提供や	3.学生の主体的に学ぶ意欲と方法の獲得を支援する機会として、授業以外での学修機会の提供や	3.学生の主体的に学ぶ意欲と方法の獲得を支援する機会として、授業以外での学修機会の提供や	3.　学生の主体的に学ぶ意欲と方法の獲得を支援する機会として、授業以外での学修機会の提供や

中　期　目　標	中　期　計　画	年　度　計　画				
		令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度
	支援する。 医療・福祉の現場に関わる機会、健康関連イベントへの参加機会、ボランティア情報の周知及び活動発表やフィードバックを受ける機会の設定を行い、それぞれの学修機会と参加学生を増加させる。 **「評価指標」** ・提供された学修機会の数、学生の参加人数、参加学生からのフィードバックの状況 **【計画 15-2】** 学生主体の教育における多様性に対応した教育を推進する。 **「計画達成のための方策」** 1. 多様な教育ニーズに対応する。 学生の能動的な学修を促すために必要な資機材の整備を行うとともに、教育内容や方法を教員間で共有しアクティブラーニングを推進する。その場合、ｆＧＰＡなども活用し常勤教員が担当する講義・演習科目を中心に、基礎及び発展的な内容の提示や習熟度別クラスの導入等を行うことにより、授業形態に関わらず、全科目で双方向性の担保と学生の授業参加を促す。 **「評価指標」** ・ＩＣＴ活用科目数、アクティブ・ラーニングを取り入れた科目数、各科目での成績評価結果、各科目での学生からのフィードバック、授業評価アンケート結果、教員間での情報共有機会の数	学修活動を支援する。 ①これまで学生が参加している授業以外での学修機会を調査し、課題を洗い出す。 ②新たに提供できる機会を探索し、情報提供や参加支援方法、参加後の発表や評価方法等を検討する。 **「評価指標」** ・令和３年度比、提供された学修機会と参加学生の数維持 **【年度計画 15-2】** 1. 多様な教育ニーズに対応する。 ①授業の目標を達成できる各種の授業方法を取り入れ、学生の理解を把握し成果を評価する。 ②学生の反応を確認しながら、DX を活用したアクティブラーニングを積極的に導入する。 ③上記の他、各科目において、学生のニーズを把握し可能な範囲で対応する。 **「評価指標」** ・令和３年度比、ICT 活用科目数、アクティブ・ラーニングや習熟度別クラス等の工夫を取り入れた科目数 2%増加 ・教員向けに関連する研修の開催状況	学修活動を支援する。 ①授業以外の学修機会に関する情報提供と参加支援を行う（医療・福祉現場での活動、健康関連イベント、ボランティア活動、等） ②上記参加後の活動発表やフィードバックを提供する機会を設定する。 **「評価指標」** ・令和３年度比、提供された学修機会と参加学生の数 5%増加 ・前年度比、活動参加に対する肯定的な評価の割合増加 **【年度計画 15-2】** 1. 多様な教育ニーズに対応する。 ①～③同左 **「評価指標」** ・令和３年度比、ICT 活用科目数、アクティブ・ラーニングや習熟度別クラス等の工夫を取り入れた科目数 4%増加 ・教員向けに関連する研修の開催状況	学修活動を支援する。 ①②同左 **「評価指標」** ・令和３年度比、提供された学修機会と参加学生の数 10%増加 ・前年度比、活動参加に対する肯定的な評価の割合増加 **【年度計画 15-2】** 1. 多様な教育ニーズに対応する。 ①～③同左 **「評価指標」** ・令和３年度比、ICT 活用科目数、アクティブ・ラーニングや習熟度別クラス等の工夫を取り入れた科目数 6%増加 ・教員向けに関連する研修の開催状況	学修活動を支援する。 ①②同左 **「評価指標」** ・令和３年度比、提供された学修機会と参加学生の数 15%増加 ・前年度比、活動参加に対する肯定的な評価の割合増加 **【年度計画 15-2】** 1. 多様な教育ニーズに対応する。 ①～③同左 **「評価指標」** ・令和３年度比、ICT 活用科目数、アクティブ・ラーニングや習熟度別クラス等の工夫を取り入れた科目数 8%増加 ・教員向けに関連する研修の開催状況	学修活動を支援する。 ①②を総括し、時期中期計画に向けた改善計画を立案する。 **「評価指標」** ・令和３年度比、提供された学修機会と参加学生の数 20%増加 ・前年度比、活動参加に対する肯定的な評価の割合増加 **【年度計画 15-2】** 1. 多様な教育ニーズに対応する。 ①～③同左 **「評価指標」** ・令和３年度比、ICT 活用科目数、アクティブ・ラーニングや習熟度別クラス等の工夫を取り入れた科目数 10%増加 ・教員向けに関連する研修の開催状況

中　期　目　標	中　期　計　画	年　度　計　画				
		令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度
	2.学生等の多様性に対する教職員の理解を促進する。 ⑴ 教職員の多様性への理解を向上させ、多様性に配慮した授業運営を行う。 ⑵ 教職員に対し、多様性に関する研修や情報共有の機会を定期的に設ける。 **「評価指標」** ・多様性に関する研修・情報共有機会の数、教員へのフィードバック調査の結果、授業評価アンケート結果 **【計画 15-3】** 第２期中期目標・計画における教育の評価を行い、ＤＰ及び社会ニーズの変化に応じたカリキュラムへの改定を行う。 **「計画達成のための方策」** 教育活動と成果の点検評価及び改善活動を行う。 学生からの授業評価並びにそれに対する教員の自己評価、各会議での検討等に基づき、大学院ＤＰに照らした点検評価を行い、ＣＰ、ＡＰおよびＤＰの改定に向けた準備を行う。	2.学生等の多様性に対する教職員の理解を促進する。 学生等の多様性をテーマとした教職員研修、カリキュラム評価・授業評価報告において学生の多様性への対応を視点とした評価を実施する。 **「評価指標」** ・令和３年度から継続して多様性に関する研修・情報共有機会の提供状況 **【年度計画 15-3】** １.教育活動と成果の点検評価及び改善活動を行う。 ①カリキュラム改定ワーキングを設置し、現行カリキュラムの点検評価、改定に至るスケジュールと運営の方法（学部内外の領域・委員会等の連携含）を立案する。 ②これまでの学生授業評価、及び当該年度の終了時点での状況を資料とした点検評価会議を開催し、ＤＰの達成状況を評価するとともに、改善点を検討する。 ③卒業生とその就職先を対象とした調査を行い、卒業後のニーズからみたカリキュラムおよび教育方法の評価を行う。 ④ＦＤ研修会として、学士課程に	2.同左 **「評価指標」** ・同左 **【年度計画 15-3】** 1.教育活動と成果の点検評価及び改善活動を行う。 ①前年度までの評価をもとに、令和８年度（開設９年目）からの新カリキュラム運用に向けたカリキュラムワーキング検討会（年１回）を開催する。 ②前年度の改善点の検討ら、授業内容や時間割変更で改善可能な点について、改善状況を情報共有し、前年度同様に年度末の資料を加えて、DP の達成状況を含めた点検評価を行う。 ③同左 ④ＦＤ研修会として、看護学の学士課程のカリキュラムの多様性や私立大学の看護学教育におい	2.同左 **「評価指標」** ・同左 **【年度計画 15-3】** 1.教育活動と成果の点検評価及び改善活動を行う。 ①前年度までの評価をもとに、令和８年度（開設９年目）からの新カリキュラム運用に向けた準備検討会を開催し（年４回）、年度末に新カリ案を策定する。同時にＤＰ、ＡＰ、ＣＰの改定案を策定する。 ②同左 ③同左 ④ＦＤ研修会として、看護学の学士課程のカリキュラム変更とその移行期に行う準備活動ならびに留意する教育的配慮についての研修を行う。	2.同左 **「評価指標」** ・同左 **【年度計画 15-3】** 1.教育活動と成果の点検評価及び改善活動を行う。 ①前年度に策定した新カリキュラムの運用に向け、変更手続きを開始する。 ②同左 ③同左 ④ＦＤ研修会として、申請手続きに移る新カリキュラムを運用していくうえで必要な研修を行う。	2.同左 活動を総括し、時期中期計画に向けた改善計画を立案する。 **「評価指標」** ・同左 **【年度計画 15-3】** 1.教育活動と成果の点検評価及び改善活動を行う。 ①新カリキュラムの適用を開始し、新カリキュラムに即した点検評価の方法を明確にする。 ②新カリキュラムの適用を開始し、学部教授会において情報交換を行うとともに、自己点検評価会議を開催する。 ③同左 ④FD 研修会として、新カリキュラム運用状況の評価に必要な研修を行う。

中　期　目　標	中　期　計　画	年　度　計　画				
		令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度
		求められるものやその変化、及び看護学教育ならびに、看護学の学士課程に求められるものやその変化について研修を行う。	て実現可能なカリキュラムについての研修を行う。			
	「評価指標」 ・検討会の開催回数、成果物としての新カリキュラムの有無と内容	**「評価指標」** ・検討会・評価会議・研修会の開催各１回、卒業生を対象とした調査結果、教員を対象としたＦＤ研修による学びのレポート内容、成果物としての新カリキュラムに向けた改善内容の提言	**「評価指標」** ・検討会・評価会議・研修会の開催各１回、卒業生を対象とした調査結果、教員を対象としたＦＤ研修による学びのレポート内容、成果物としての新カリキュラムに向けた改善内容の提言	**「評価指標」** ・検討会の開催回数（年２回）、策定された新カリキュラム、改定内容に関する情報交換会の開催（年１回）、改定前に検討により改善された授業が５科目以上	**「評価指標」** ・検討会の開催回数（年２回）、変更手続きのために作成された申請書類、改定に先立って検討会を通して改善された授業に関する情報交換会の開催（年２回）、新カリキュラムの導入に伴う授業運営課題等への準備状況	**「評価指標」** ・新カリキュラムの運用開始状況、各学期末の授業評価、ＦＤ研修における情報交流・意見交換と学びのレポート内容
	【計画 15-4】㋐ 学生の主体性を涵養する教育を推進する。 **「計画達成のための方策」** 1.教育ＤＸ化と並行して、学生が自己の学修活動を記録し振り返ることが可能な仕組みを準備し、年に１回以上、学生自身が学修活動について振り返り、その後の自らの目標について考えることができるよう指導する。	**【年度計画 15-4】** 1.ＬＭＳを用いた学修ポートフォリオの具体的な計画の検討と部分的な試行を開始する。	**【年度計画 15-4】** 1.ＬＭＳを用いた学修ポートフォリオの利用を拡大する。	**【年度計画 15-4】** 1.前年度と同様	**【年度計画 15-4】** 1.前年度と同様	**【年度計画 15-4】** 1.4 年間の利用を踏まえた評価を行い、より良いあり方・方法を検討する。
	［評価指標］ ・学修活動の記録と目標についての自己評価を、各学年のほぼすべての学生が実施する（1 回/年）	**［評価指標］** ・学修活動の記録と目標についての自己評価を、各学年のほぼすべての学生が実施する（1 回/年）	**［評価指標］** ・同左	**［評価指標］** ・同左	**［評価指標］** ・同左	**［評価指標］** ・同左
	2.千葉看護学部のビジョンに共鳴する受験生を確保する。学生がビジョンに照らして自己評価できるプログラムを作成し、本学部のビジョンを具現化するために入学前から継続した教育・学生支援を実施する。	2.a.　受験生対象の学部説明において本学部のビジョンをわかりやすく説明し、参加者の反応を把握し、必要に合わせ改善する。 b.　これまでの入学前準備プログラムを継続しつつ、参加者アンケートにてよりニーズに合うプ	2.前年度と同様	2.a,b.　前年度と同様	2.a,b.　前年度と同様	2.a,b.　前年度と同様

中　期　目　標	中　期　計　画	年　度　計　画				
		令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度
		ログラムにする。また、学校選抜型入試での入学予定者及び、その高校（校長）に入学前準備プログラムを周知する。 c. 学生に対して定期的にガイダンスを実施し、具体的な履修につながるようにする。 d. 講演会やイベント、ボランティア募集に関して定期的に情報提供を行う。				
	［評価指標］ ・オープンキャンパス実施回数（5 回/年）・参加人数（定員 8 割以上）・参加者アンケート内容、入学前準備プログラムの参加人数（対象者の 7 割以上）・参加者アンケート内容（肯定的評価が 7 割以上）、学年別ガイダンスの実施状況（4 回/年）、ビジョンについてのポートフォリオの記録回数（1 回/年）・実施人数（ほぼ全ての学生）、学生ボランティアの割合（５人/回）、情報提供の頻度（３回/年）	［評価指標］ ・オープンキャンパス実施回数（5 回/年）・参加人数（定員 8 割以上）・参加者アンケート内容、入学前準備プログラムの参加人数（対象者の 7 割以上）・参加者アンケート内容（肯定的評価が 7 割以上）、学年別ガイダンスの実施状況（4 回/年）、ビジョンについてのポートフォリオの記録回数（1 回/年）・実施人数（ほぼ全ての学生）、学生ボランティアの割合（５人/回）、情報提供の頻度（３回/年）	［評価指標］ ・同左	［評価指標］ ・同左	［評価指標］ ・同左	［評価指標］ ・同左
	3. 早期から看護職としての意識を高めるため、1 年前期から看護の現場での演習を実施すると共に、授業内外で、看護職や人々の健康に関する講演会・イベント等の参加機会を提供するなど、アーリー・エクスポージャーのプログラムを行う。	3. a. 外部の保健医療福祉関係者の授業の実施状況（特に低学年）を確認し、次年度に反映させる b. これまでのプログラムを継続し学生および教員からの評価調査を実施するとともに、カリキュラム全体としての点検評価をカリキュラム改正活動とともに開始する。 c. 講演会やイベント、ボランティア募集に関して定期的に情報提供を行う。	3. a. 前年度と同様 b. 前年度の評価を受け、①を活用しながら、改善計画を立案する。評価調査の対象として学外の授業関係者からも聴取を行う。 c. 前年度と同様	3 a. 前年度と同様 b. 前年度の改善計画に沿った授業改善を開始する。 c. 前年度と同様	3. 前年度と同様	3. 前年度と同様

中　期　目　標	中　期　計　画	年　度　計　画				
		令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度
	［評価指標］ ・学外の看護・医療保健福祉関係者等による授業回数（5 回/年）、看護学概論の授業評価（総合評価が 4 以上）、授業外での看護・医療保健福祉関係者等による講演会・イベント等の案内回数（1 回/年）、参加人数（５人/回） **【計画 15-5】**㋐ 生涯学習支援を継続する。 **「計画達成のための方策」** 1. 学部における生涯学習支援を継続し、これが大学ビジョンに向かうものとなっているかを評価し、改善するためのＩＣＴを活用した基盤を整備する。 **［評価指標］** ・当該目標に関する検討会開催回数と参加人数、評価のための仕組み作	**［評価指標］** ・学外の看護・医療保健福祉関係者等による授業回数（5 回/年）、看護学概論の授業評価（総合評価が 4 以上）、授業外での看護・医療保健福祉関係者等による講演会・イベント等の案内回数（1 回/年）、参加人数（５人/回） **【年度計画 15-5】** 1. 千葉看護学部における、卒業生と大学、大学と社会をつなぐありようをイメージ化し、千葉看護学部が生涯学習支援の場となるために必要な要素や仕組み（インフラ、ソフトシステム、広報、他機関との連携、等）と、そのために強化すべき機能（教材・資源の共同利用のためのアーカイブ整備、等も含め）に関する検討会を開催する。（1 回） 実践経過と成果の蓄積と分析による評価・改善が可能となるよう、各種活動時にデータ収集したい共通項目を洗い出し、アンケート項目を作成し、ＩＣＴを活用した仕組みを検討する。 **［評価指標］** ・当該目標に関する検討会開催回数と参加人数、評価のための	**［評価指標］** ・同左 **【年度計画 15-5】** 1. 前年度には検討を行うことができなかったため、将来構想委員会内に担当を設け、前年度予定であった活動を開始する。これにより、千葉看護学部における、卒業生と大学、大学と社会をつなぐありようをイメージ化し、千葉看護学部が生涯学習支援の場となるために必要な要素や仕組み（インフラ、ソフトシステム、広報、他機関との連携、等）と、そのために強化すべき機能（教材・資源の共同利用のためのアーカイブ整備、等も含め）に関する検討会を開催する。（1 回） ・実践経過と成果の蓄積と分析による評価・改善が可能となるよう、各種活動時にデータ収集したい共通項目を洗い出し、アンケート項目を作成し、ＩＣＴを活用した仕組みを検討する。 **［評価指標］** ・同左	**［評価指標］** ・同左 **【年度計画 15-5】** 1. 前年度と同様。生涯学習支援の参加者からのアンケート結果を分析し、改善策を提案する。 **［評価指標］** ・同左	**［評価指標］** ・同左 **【年度計画 15-5】** 1. 前年度と同様 **［評価指標］** ・同左	**［評価指標］** ・同左 **【年度計画 15-5】** 1. 令和４年度からの活動を総合的に評価するとともに、今後の活動ビジョンを確認、改善する検討会を開催する（1 回）。 **［評価指標］** ・同左

中　期　目　標	中　期　計　画	年　度　計　画				
		令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度
	成状況と実施状況 2.卒業生を継続してサポートできる仕組みを整備し、学びの機会を提供する。 **［評価指標］** ・卒業生の連絡先を管理する仕組みの作成と登録状況（100%）、年２回のメールマガジンの発行、講演会等の案内回数（年２回）と参加人数（各回 50%）	仕組み作成状況と実施状況 2.学生同窓会委員と連携し、持続可能な卒業生の連絡先管理および継続教育支援の方法を構築し、年度末に現状と改善策をとりまとめる。 **［評価指標］** ・卒業生の連絡先を管理する仕組みの作成と登録状況（100%）、年２回のメールマガジンの発行、講演会等の案内回数（年２回）と参加人数（各回 50%）	2.前年度末にとりまとめた改善策を反映した卒業生の連絡先管理および継続教育支援の方法を実践し、年度末に現状と改善策をとりまとめる。 **［評価指標］** ・同左	2.前年度と同様 **［評価指標］** ・同左	2.前年度と同様 **［評価指標］** ・同左	2.前年度と同様 **［評価指標］** ・同左
	3.実習指導者講習会およびフォローアップ研修会、受講施設管理者を対象とした研修・情報交換を開催し、千葉県内の実習指導者育成と質の向上に貢献する。 **［評価指標］** ・実習指導者講習会参加人数（募集定員の 120%）、修了時の満足度（70%以上）、フォローアップ研修の参加人数（50%以上）、受講施設管理者を対象とした研修・情報交換の参加人数、自施設の実習指導の質向上についての評価	3.事務部と連携し、実習指導者講習会、フォローアップ研修、受講施設管理者を対象とした研修・情報交換を企画・周知・実施し、実績と改善策を取りまとめる。 **［評価指標］** ・実習指導者講習会参加人数（募集定員の 120%）、修了時の満足度（70%以上）、フォローアップ研修の参加人数（50%以上）、受講施設管理者を対象とした研修・情報交換の参加人数、自施設の実習指導の質向上についての評価	3.前年度と同様 **［評価指標］** ・同左	3.前年度と同様 **［評価指標］** ・同左	3.前年度と同様 **［評価指標］** ・同左	3.前年度と同様 **［評価指標］** ・同左
	4.主として千葉県北西部及びＪＣＨＯの看護・介護職者等に向けた生涯学習機会を提供する。	4.実習指導者講習会やＪＣＨＯ本部・各病院に対して、教員の研究内容、講演できる内容などを周知する。研修会や講師依頼などの実績を年度末に取りまとめる。	4.前年度と同様	4.前年度と同様	4.前年度と同様	4.前年度と同様

中　期　目　標	中　期　計　画	年　度　計　画				
		令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度
	［評価指標］ ・千葉県内及びＪＣＨＯからの講師依頼内容・件数、本学部主催または共催（有志含む）による研修会等の開催回数・参加者、満足度 【計画 15-6】㋐ 教員の研究力の向上を図る。 「計画達成のための方策」 1. 教員の研究活動の情報交換会を定期的に継続する。 「評価指標」 ・情報交換会の開催回数（1 回／年以上）（ 2. 学会（国際・国内）で、研究成果を発表を促進し、発表する。 「評価指標」 ・国際学会参加人数（1 人／年以上）、国際学会発表者人数（1 人／年以上）、国内学会発表者割合（年間 7 割） 3. 研究成果を査読のあるジャーナルへの投稿を促進し、採択される（共同執筆含）。 「評価指標」 ・採択者人数、採択者割合（国際・国内、年間で全教員数のうち 4 割以上） ○和歌山看護学部 【計画 16-1】㋐ 「大学での主体的な学び方の体得」	「評価指標」 ・千葉県内及びＪＣＨＯからの講師依頼内容・件数、本学部主催または共催（有志含む）による研修会等の開催回数・参加者、満足度 【年度計画 15-6】 1. 定期ＦＤ研修やイブニングセミナーで教員の研究活動について情報共有を行う。 「評価指標」 ・情報交換会の開催回数（1 回／年以上） 2. 年度末の学部活動報告会で国際学会及び学内学会で発表した教員について情報共有を行う。 「評価指標」 ・国際学会参加人数（1 人／年以上）、国際学会発表者人数（1 人／年以上）、国内学会発表者割合（年間 7 割） 3. 年度末の学部活動報告会で論文採択された教員について情報共有を行う。 「評価指標」 ・採択者人数、採択者割合（国際・国内、年間で全教員数のうち 4 割以上）	「評価指標」 ・同左 【年度計画 15-6】 ①前年度と同様 「評価指標」 ・同左 2. 前年度と同様 「評価指標」 ・同左 3. 前年度と同様 「評価指標」 ・同左	「評価指標」 ・同左 【年度計画 15-6】 1. 前年度と同様 「評価指標」 ・同左 2. 前年度と同様 「評価指標」 ・同左 3. 前年度と同様 「評価指標」 ・同左	「評価指標」 ・同左 【年度計画 15-6】 1. 前年度と同様 「評価指標」 ・同左 2. 前年度と同様 「評価指標」 ・同左 3. 前年度と同様 「評価指標」 ・同左	「評価指標」 ・同左 【年度計画 15-6】 1. 前年度と同様 「評価指標」 ・同左 2. 前年度と同様 「評価指標」 ・同左 3. 前年度と同様 「評価指標」 ・同左

中　期　目　標	中　期　計　画	年　度　計　画				
		令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度
	及び「地域を理解する科目の充実」、「地域への愛着形成の支援」を図る。 **「計画達成のための方策」** 1.主体的な学習に取り組めるために必要なカリキュラムと機会を充実する。 2.入学初期に主体的な学び方に関する科目と地域への関心を高めるための科目を設定する。 3.卒業後も学び続けるための支援体制を構築する。 **［評価指標］** ・カリキュラム実施状況 ・愛着の程度を把握	**【年度計画 16-1】** 1.「大学での主体的な学び方の体得」、「地域を理解する科目の充実」に関する科目を開始する。 2.先輩学生からの学習経験をもとに、学習計画を立て実行する。 **［評価指標］** ・カリキュラム実施状況 ・愛着の程度を把握	**【年度計画 16-1】** 1.「大学での主体的な学び方の体得」、「地域を理解する科目の充実」に関する科目の実施・評価する。 2.同左 3.主体的な国家試験への取り組みへの支援を行う。 4.実習指導者との相互理解により学生の主体的な学びをサポートする。 5.学生の学びにタイムリーな図書の紹介をし、利用を促進する。 6. 卒業生の自己研鑽のための支援を試行する。 **「評価指標」** ・カリキュラム実施状況 ・愛着の程度を把握 ・国家試験に向けての学習計画立案実施評価、模試受験、補講受講の状況 ・実習指導者連絡会の開催と指導側及び学生からの評価 ・和歌山図書館入館者数、貸出数の利用状況 ・卒業生の自己研鑽としての環境整備と活用状況	**【年度計画 16-1】** 1.同左 ~~2.同左~~ 3.同左 4.同左 5.同左 **［評価指標］** ・科目への参加度 100% ・愛着形成を自由記述から抽出 ・国家試験対策講座・模擬試験学生 100%参加 ・図書館入館者数 1 日平均 90 名、延べ冊数 2500 冊 ・実習指導者連絡会の開催と指導者及び学生からの評価	**【年度計画 16-1】** 1.同左 2.同左 3.同左 4.同左 5.同左 **［評価指標］** ・同左	**【年度計画 16-1】** 1.同左 2.同左 3.同左 4.同左 5.同左 **［評価指標］** ・同左
	【計画 16-2】㋐ 「ボランティア活動の体系化」、「地域の看護教育ボランティアからの学びの推進」及び「関連団体と連携した社会的要請への対応」を図る。 **「計画達成のための方策」**	**【年度計画 16-2】**	**【年度計画 16-2】**	**【年度計画 16-2】**	**【年度計画 16-2】**	**【年度計画 16-2】**

中　期　目　標	中　期　計　画	年　度　計　画				
		令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度
	1.地域へのボランティア活動の推進と、地域住民の看護教育へのボランティア参加を進める。 2.赤十字活動を中心とした活動を活発化する。 **［評価指標］** ・ボランティア活動状況、教育ボランティア参加状況、 **【計画 16-3】**㋐ 異文化理解や語学力、コミュニケーション能力を習得させ、豊かな教養のもとに多様な価値観に対応できる医療人の育成を図る。 **「計画達成のための方策」** 1.　海外研修及び海外からの研修生の受け入れ、近隣地域で生活する多国籍の方との交流の機会をつくる。 2.海外研修への参加案内と学生の参加しやすい環境を整える。ベトナムの大学との学生交流を進める。 3.近隣地域で生活する、または保健医療福祉施設で働く多国籍の人々との交流の場をつくる。 **［評価指標］** ・海外研修参加学生数、ベトナムの大学との学生交流の有無、多国籍の人々との交流回数 **【計画 16-4】**㋐ ＩＣＴを駆使する能力を備え、保健医療福祉に貢献できる医療人を育成する。 **「計画達成のための方策」** ＩＣＴを活用した授業の実施と充実を図り、ＩＣＴによる主体的学習システムを構築し、学修成果の可視化	1.ボランティア活動を体系化し試行的に運用する。 2.赤十字活動参加学生と活動数を増加させる。 **［評価指標］** ・ボランティア活動状況、教育ボランティア参加状況 **【年度計画 16-3】** 1.海外研修参加数２名以上を維持する。 2.ベトナムの大学との交流の機会を１回以上つくる。 3.地域で生活する多国籍の人々との交流の機会を１回以上つくる。 **［評価指標］** ・海外研修参加学生数、ベトナムの大学との学生交流の有無、多国籍の人々との交流回数 **【年度計画 16-4】** 1.これまでに導入したシステムの有効活用と評価を行う。 2.新システム増設時の活用可能	同左 **［評価指標］** ・同左 **【年度計画 16-3】** 1.海外研修参加数２名以上を維持する。 2.ベトナムの大学との交流の機会を１回以上つくる。 3.地域で生活する多国籍の人々との交流の機会を１回以上つくる。 **［評価指標］** ・同左 **【年度計画 16-4】** 1.同左 2.同左	同左 **［評価指標］** ・赤十字奉仕団 35 名 ・ボランティア活動延べ人数 200 名 **【年度計画 16-3】** 1.海外研修参加数２名以上を維持する。 2.ベトナムの大学との交流の機会を１回以上つくる。 3.地域で生活する多国籍の人々との交流の機会を１回以上つくる。 4.外国の大学との連携協定を検討する。 **［評価指標］** ・海外研修参加学生数１名以上 ・多国籍の人々との交流会１回 **【年度計画 16-4】** 1.同左 2.同左	同左 **［評価指標］** ・同左 **【年度計画 16-3】** 1.海外研修参加数２名以上を維持する。 2.ベトナムの大学との交流の機会を１回以上つくる。 3.地域で生活する多国籍の人々との交流の機会を２回以上つくる。 4.外国の大学との連携協定に向けて調整を始める。 **［評価指標］** ・同左 **【年度計画 16-4】** 1.同左 2.同左	同左 **［評価指標］** ・同左 **【年度計画 16-3】** 1.海外研修参加数２名以上を維持する。 2.ベトナムの大学との交流の機会を１回以上つくる。 3.地域で生活する多国籍の人々との交流の機会を２回以上つくる。 4.外国の大学との連携協定に向けて調整する。 **［評価指標］** ・同左 **【年度計画 16-4】** 1.同左 2.同左

中　期　目　標	中　期　計　画	年　度　計　画				
		令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度
	を図る。 **［評価指標］** ・システムの利活用状況、新システムの利活用状況、学習過程・成果の可視化の程度	にするための研修を行う。 3.学習過程・成果の可視化を試行的に開始する。 **［評価指標］** ・システムの利活用状況、新システムの利活用状況、学習過程・成果の可視化の程度	3.同左 **［評価指標］** ・同左	3.同左 **［評価指標］** ・システムの利活用状況 100% ・新システムの利活用状況 100% ・学習過程・成果の可視化の程度 100% ・学生の HSP 取得状況 60 名	3.同左 **［評価指標］** ・システムの利活用状況 100% ・新システムの利活用状況 100% ・学習過程・成果の可視化の程度 100% ・学生の HSP 取得状況	3.同左 **［評価指標］** ・同左
(2)研究科修士課程及び博士課程においては、各指導教員の役割分担と連携体制を明確にして指導教員間の綿密な協議に基づき体系的な大学院教育を行うこととし、院生の質を保証する組織的な教育・研究指導体制の充実を図る。また、博士課程においては、高い研究能力を持ってグローバルに活躍する質の高い人材を育成するため、院生の質を保証する博士課程教育の充実を図る。	**○大学院医療保健学研究科** **【計画 17-1】㋐** 教育理念・教育目標に沿った教育プログラムを構築するとともに、人材を育成するため、本研究科のカリキュラムについての見直しを行う。 **「計画達成のための方策」** 1.大学の教育理念に則った教育プログラムの確立。 2.明確な教育目標の設定。 3.教育目標に応じたカリキュラムの再構築。 4.新しい教育制度の導入。 5.主体的な学修を促す教育方法の導入。 **「評価指標」** ・新しい教育制度の導入状況 ・主体的な学修を促す教育方法の導入状況 ・大学院医療保健学研究科カリキュラム評価班会議：５回 **【計画 17-2】㋐** 教育の質保証が実証できるマネジメントシステムを構築する。 **「計画達成のための方策」**	**【年度計画 17-1】** 1.大学の教育理念に則った教育プログラムの確立。 2.明確な教育目標の設定。 3.教育目標に応じたカリキュラムの再構築。 4.新しい教育制度の導入。 5.主体的な学修を促す教育方法の導入。 **「評価指標」** ・新しい教育制度の導入状況 ・主体的な学修を促す教育方法の導入状況 ・大学院医療保健学研究科カリキュラム評価班会議：５回 **【年度計画 17-2】**	**【年度計画 17-1】** 同左 **「評価指標」** ・同左 **【年度計画 17-2】**	**【年度計画 17-1】** 同左 **「評価指標」** ・同左 **【年度計画 17-2】**	**【年度計画 17-1】** 同左 **「評価指標」** ・同左 **【年度計画 17-2】**	**【年度計画 17-1】** 同左 **「評価指標」** ・同左 **【年度計画 17-2】**

中　期　目　標	中　期　計　画	年　度　計　画				
		令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度
	研究指導の質を保証するためのマネジメントシステムを構築する。 1.　ＦＤ活動による教育システムなどの開発。 2.教育プログラムの実効性の確認。 3.教員相互協力による教育能力向上。 4.マネジメントシステムの第三者評価。 **「評価指標」** ・ＦＤ活動による教育システムなどの開発状況 **【計画 17-3】**㋐ 学際的・国際的な視点から自分の専門性を認識できる人材育成システムを整備する。 **「計画達成のための方策」** グローバル化に対応した人材を育成する。 1.学際的・国際的な視点から自分の専門性の認識。 2.学生のグローバル・リレーションシップ育成。 3.実践的英語教育の導入。 **「評価指標」** ・実践的英語教育の導入状況 ・修士・博士課程論文の学会発表状況 ・海外論文発表経験者数　年間３名以上 **【計画 17-4】**㋐**【計画６の再掲】** 大学院医療保健学研究科修士課程プライマリケア看護学領域令和５年度	研究指導の質を保証するためのマネジメントシステムを構築する。 1.　ＦＤ活動による教育システムなどの開発。 2.教育プログラムの実効性の確認。 3.教員相互協力による教育能力向上。 4.マネジメントシステムの第三者評価。 **「評価指標」** ・ＦＤ活動による教育システムなどの開発状況 **【年度計画 17-3】** グローバル化に対応した人材を育成する。 1.学際的・国際的な視点から自分の専門性の認識。 2.学生のグローバル・リレーションシップ育成。 3.実践的英語教育の導入。 **「評価指標」** ・実践的英語教育の導入状況 ・修士・博士課程論文の学会発表状況 ・海外論文発表経験者数　年間３名以上	同左 **「評価指標」** ・同左 **【年度計画 17-3】** 同左 **「評価指標」** ・同左	同左 **「評価指標」** ・同左 **【年度計画 17-3】** 同左 **「評価指標」** ・同左	同左 **「評価指標」** ・同左 **【年度計画 17-3】** 同左 **「評価指標」** ・同左	同左 **「評価指標」** ・同左 **【年度計画 17-3】** 同左 **「評価指標」** ・同左

中　期　目　標	中　期　計　画	年　度　計　画				
		令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度
	に開講するための準備を進めるとともに、開講後適切に運営する。 **「計画達成のための方策」** 大学院医療保健学研究科修士課程プライマリケア看護学領域令和５年度に開講するため、関係機関との調整等を着実に実施し、開講準備を着実に進めるとともに、開講後適切に運営する。	**【年度計画 17-4】** 1.大学院医療保健学研究科修士課程プライマリケア看護学領域を開講するための準備を進める。 ①3P の合意 ②カリキュラム策定 ③講師陣、管理委員会メンバーの確保と大学における位置づけ ④オンライン科目の授業資料の作成（令和５年度分）管理 ⑤実習協力病院（病院・施設・在宅）の確保 ⑥放送大学連携申請 ⑦演習教室の確保 ⑧シミュレータの検討（リースも含め） ⑨予算（物品費、人件費等）の概算 ⑩特定行為に関する厚生局相談と申請 ⑪文部科学省への変更申請 ⑫募集広報の作成と方法の検討 ⑬入試問題等の作成 **「評価指標」** ・大学院修士課程プライマリケア看護学領域の開講準備状況	**【年度計画 17-4】** 1.大学院医療保健学研究科修士課程プライマリケア看護学領域を開講する。 ①4 月開講 ②カリキュラムの進捗管理 ③科目試験の管理 ④入学合格者の実習病院決定と厚生局修正申請 ⑤放送大学（特定行為共通科目）学習の進捗および評価管理 ⑥オンライン科目の授業資料の作成（令和６年度分）管理 ⑦演習（OSCE）物品・シミュレータの搬入と管理 ⑧実習施設、実習指導医、実習指導ＮＰ（病院・施設・在宅）との打ち合わせ ⑨特定行為管理委員会開催 ⑩令和６年学生募集と入試 **「評価指標」** ・大学院修士課程プライマリケア看護学領域の運営状況	**【年度計画 17-4】** 1.大学院医療保健学研究科修士課程プライマリケア看護学領域を開講し適切に運用する。 **「評価指標」** め大学院修士課程プライマリケア看護学領域の運営状況	**【年度計画 17-4】** 1.大学院医療保健学研究科修士課程プライマリケア看護学領域を開講し適切に運用する。 2.特定行為研修管理委員会を開催する。 3.修了生（3 年長期履修）及びＮＰ協議会認定試験合格者を輩出する。 4.ＮＰ修了生、在校生の交流、報告会を実施する。 **「評価指標」** ・大学院修士課程プライマリケア看護学領域の運営状況 ・特定行為研修管理委員会　1～2 回/年 ・修了生（3 年長期履修）及びＮＰ協議会認定試験合格者 5～8 名 ・ＮＰ修了生、在校生の交流、報告会　年１回程度 ・入学者数、特定行為管理委員会	**【年度計画 17-4】** 同左 **「評価指標」** ・大学院修士課程プライマリケア看護学領域の運営状況 ・入学者数、特定行為管理委員会
	・大学院修士課程プライマリケア看護学領域の開講準備・運営状況 （令和７・８年度） ・入学者数、特定行為管理委員会開催数、修了生の人数、日本 NP 教育大学院協議会における NP 資格認定試験合格者の人数、修了後の就業先と職務の状況、修了後の学会や研究会等の発表件数、在学生と修了生との交流及び研修会の開催状況					

中　期　目　標	中　期　計　画	年　度　計　画				
		令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度
					開催数、修了生の人数、日本 NP 教育大学院協議会における NP 資格認定試験合格者の人数、修了後の就業先と職務の状況、修了後の学会や研究会等の発表件数、在学生と修了生との交流及び研修会の開催状況	開催数、修了生の人数、日本 NP 教育大学院協議会における NP 資格認定試験合格者の人数、修了後の就業先と職務の状況、修了後の学会や研究会等の発表件数、在学生と修了生との交流及び研修会の開催状況
	【計画 17-5】㋐ 独自の公開講座の開催など、学生の研究発表や研鑽の場を企画して提供していくとともに、科学的研究費などへの申請数及び採択率の向上を目指す。 **「計画達成のための方策」** 1.公開講座の開催。 2.競争的資金の獲得に向けて研究テーマを抽出する。 3.複数の領域が協力して、研究計画と応募書類を作成する。 4.　審査結果の開示以降に、不採択理由の検証を行う。また、不備の認められる点について検討し、次年度申請の採択率の向上を目指す。 **「評価指標」** ・公開講座の開催年１回 ・科研費獲得に向けた取組状況	**【年度計画 17-5】** 1.公開講座の開催。 2.競争的資金の獲得に向けて研究テーマを抽出する。 3.複数の領域が協力して、研究計画と応募書類を作成する。 4.　審査結果の開示以降に、不採択理由の検証を行う。また、不備の認められる点について検討し、次年度申請の採択率の向上を目指す。 **「評価指標」** ・公開講座の開催年１回 ・科研費獲得に向けた取組状況	**【年度計画 17-5】** 同左 **「評価指標」** ・同左	**【年度計画 17-5】** 同左 **「評価指標」** ・同左	**【年度計画 17-5】** 同左 **「評価指標」** ・同左	**【年度計画 17-5】** 同左 **「評価指標」** ・同左
	【計画 17-6】㋐ コンセプトに基づく計画の立案と具体化を図り、国際感覚にあふれたキャンパスを実現する。 **「計画達成のための方策」** キャンパス教育環境向上プロジェクトを推進する。知的創造のための拠点となるグローバル化に対応する施設環境を実現する。	**【年度計画 17-6】** キャンパス教育環境向上プロジェクトを推進する。知的創造のための拠点となるグローバル化に対応する施設環境を実現する。	**年度計画 17-6】** 同左	**【年度計画 17-6】** 同左	**【年度計画 17-6】** 同左	**【年度計画 17-6】** 同左

中　期　目　標	中　期　計　画	年　度　計　画				
		令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度
	「評価指標」 ・キャンパス教育環境向上プロジェクトの推進状況 **【計画 17-7】**㋐ 学生が誇りを持てる学修環境を実現する。 **「計画達成のための方策」** 1. 時代に見合った学部学科構築のための検討・実施。 2. 充実した学生生活支援。 3. 一般入試方式重視による入学生の資質向上 **「評価指標」** ・学修環境の整備状況 **【計画 17-8】**㋐ 産学協同体制の構築によるブランド力向上プロジェクトの推進を図る。 **「計画達成のための方策」** 産学協同体制の構築によるブランド力向上を図る。 1. 卒業生との交流活性化によるＰＲ効果の促進。 2. 産学協同研究成果の対外的なＰＲ促進。 3. 地域社会との連携によるＰＲ促進。 4. 特別教授制度による先端研究導入。 **「評価指標」** ・ブランド力向上プロジェクトの推進状況 **○大学院看護学研究科** **【計画 18】**㋐	**「評価指標」** ・キャンパス教育環境向上プロジェクトの推進状況 **【年度計画 17-7】** 1. 時代に見合った学部学科構築のための検討・実施。 2. 充実した学生生活支援。 3. 一般入試方式重視による入学生の資質向上 **「評価指標」** ・学修環境の整備状況 **【年度計画 17-8】** 産学協同体制の構築によるブランド力向上を図る。 1. 卒業生との交流活性化によるＰＲ効果の促進。 2. 産学協同研究成果の対外的なＰＲ促進。 3. 地域社会との連携によるＰＲ促進。 4. 特別教授制度による先端研究導入。 **「評価指標」** ・ブランド力向上プロジェクトの推進状況	**「評価指標」** ・同左 **【年度計画 17-7】** 同左 **「評価指標」** ・同左 **【年度計画 17-8】** 同左 **「評価指標」** ・同左	**「評価指標」** ・同左 **【年度計画 17-7】** 同左 **「評価指標」** ・同左 **【年度計画 17-8】** 同左 **「評価指標」** ・同左	**「評価指標」** ・同左 **【年度計画 17-7】** 同左 **「評価指標」** ・同左 **【年度計画 17-8】** 同左 **「評価指標」** ・同左	**「評価指標」** ・同左 **【年度計画 17-7】** 同左 **「評価指標」** ・同左 **【年度計画 17-8】** 同左 **「評価指標」** ・同左

中　期　目　標	中　期　計　画	年　度　計　画				
		令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度
	大学院修士課程における課題研究及び特別研究の成果について、修了後1 年以内に口頭発表を行うとともに、誌上発表を行い、発表数を増加させる。 **「計画達成のための方策」** 1. 研究倫理審査レベルの向上。 2. 迅速な審査と結果の伝達。 **「評価指標」** ・小委員会委員全員の倫理審査委員向けの研修の受講状況 ・審査日後 2 日以内の申請者への結果伝達。 **○大学院千葉看護学研究科** **【計画 19-1】** 研究科修士課程においては、各指導教員の役割分担と連携体制を明確にして指導教員間の綿密な協議に基づき、ＤＰを実現する体系的な大学院教育を行うこととし、院生の質を保証する組織的な教育・研究指導体制の充実を図る。 **「計画達成のための方策」** 1. 地域交流イベントにおける活動の実施。 千葉看護学部の地域交流イベントにおいて、院生を主体とする企画を実施し、主として西船橋地区住民のニーズに応える保健医療の連携に貢献する。 **「評価指標」** ・地域交流イベントでの企画数、参加住民等からのアンケート結果、参加学生からのアンケート結果	**【年度計画 18】** 1. 研究倫理審査レベルの向上。 2. 迅速な審査と結果の伝達。 **「評価指標」** ・小委員会委員全員の倫理審査委員向けの研修の受講２名 ・審査日後 2 日以内の申請者への結果伝達。 **【年度計画 19-1】** 1. 地域交流イベントにおける活動の実施。 ①専門職からなる情報交換の会を開催し、ニーズの把握をはかる。 ②成果を活動報告として紀要等に一つ以上発表する。 **「評価指標」** 地域交流イベントでの企画数（１つ以上）、参加住民等からの肯定的な意見、参加学生からの肯定的な意見、活動報告公開数（１つ以上）	**【年度計画 18】** 同左 **「評価指標」** ・同左 **【年度計画 19-1】** 1. 地域交流イベントにおける活動の実施。 ①前年の情報をもとにテーマをしぼって情報収集を行う。 ②成果を活動報告として紀要等に一つ以上発表する。 **「評価指標」** ・同左	**【年度計画 18】** 同左 **「評価指標」** ・同左 **【年度計画 19-1】** 1. 地域交流イベントにおける活動の実施。 ①前年に分析した企画について地域住民を巻き込んだ企画を実施する。 ②成果を活動報告として紀要等に一つ以上発表する。 **「評価指標」** ・同左	**【年度計画 18】** 同左 **「評価指標」** ・同左 **【年度計画 19】** 1. 地域交流イベントにおける活動の実施。 ①前年度の企画を継続する。 ②成果を活動報告として紀要等に一つ以上発表する。 **「評価指標」** ・同左	**【年度計画 18】** 同左 **「評価指標」** ・同左 **【年度計画 19】** 1. 地域交流イベントにおける活動の実施 ①前年度の企画を継続する。 ②成果を活動報告として紀要等に一つ以上発表する。 ①②を総括し、時期中期計画に向けた改善計画を立案する。 **「評価指標」** ・同左

中　期　目　標	中　期　計　画	年　度　計　画				
		令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度
	2.修了生の研究発表支援の実施。 修了生の研究成果の公開を支援し、実装的研究実施支援の在り方を検討する。 **「評価指標」** ・修士論文の学会等での発表及び学会誌等へのアクセプト数、及び内容、自己/第三者評価結果 3.教育活動と成果の点検評価及び改善活動の推進。 学生からの授業評価並びにそれに対する教員の自己評価、各会議での検討等に基づき、大学院ＤＰに照らした点検評価を行い、ＣＰ、ＡＰ及びＤＰの改定に向けた準備を行う。 **「評価指標」** ・検討会の開催回数、成果物としての新カリキュラムの有無と内容 **【計画 19-2】㋐** 修了生の研究成果の公開を支援し、	2.修了生の研究発表支援の実施。 特別研究の進捗情報を共有し、成果公開を見通した支援の在り方に関する検討会を開催する。 **「評価指標」** ・研究科学生による地域交流イベント等での研究報告の有無、修士研究内容に関する審査及び研究科教授会でのＤＰに照らした評価結果 3.教育活動と成果の点検評価及び改善活動の推進。 ①前年度の学生授業評価、及び当該年度の終了時点での修了生の状況を資料とした点検評価会議を開催し、ＤＰの達成状況を評価するとともに、改善点を検討する。 **「評価指標」** ・検討会の開催回数（年２回）、成果物としての点検評価・改善計画報告書とその内容	2.修了生の研究発表支援の実施。 修了生を支援し学会・誌上発表を行う。 地域交流イベント等において発表の企画を設ける。 同左に修了生の状況を加えた検討会を開催する。 **「評価指標」** ・同左 ・修士論文の学会等での発表及び学会誌等へのアクセプト数 3.　教育活動と成果の点検評価及び改善活動の推進。 **「評価指標」** ・同左	2.修了生の研究発表支援の実施。 修了生を支援し学会・誌上発表を行う。 同左に修了生の状況を加えた検討会を開催する。 上記を加味し授業内容改善への提案を作成する。 **「評価指標」** ・同左 ・研究指導を含めた授業方法・内容に関する自己点検評価及び改善結果（カリキュラム改正への提言を含む） 3.教育活動と成果の点検評価及び改善活動の推進。 ①前年度までの評価をもとに、令和８年度（開設６年目）からの新カリキュラム運用に向けた準備検討会を開催し、年度末に新カリ案を策定する。同時にＤＰ、ＡＰ、ＣＰの改定案を策定する。 ②授業内容や時間割変更で改善可能な点について、改善状況を情報共有し、ＤＰ等に照らした点検評価を行う。 **「評価指標」** ・検討会の開催回数（年４回）、策定された新カリキュラム（年度末）、改定内容に関する情報交換会の開催（年２回）、改定前に検討により改善された授業が８科目以上	2.修了生の研究発表支援の実施。 同左 上記を加味しカリキュラム改定への提案を作成する **「評価指標」** ・同左 3.教育活動と成果の点検評価及び改善活動の推進。 ①前年度に策定した新カリキュラムの運用に向け、変更手続きを開始する。 ②授業内容や時間割変更で改善可能な点について、改善状況を情報共有し、ＤＰ等に照らした点検評価を行う。 **「評価指標」** 検討会の開催回数（年４回）、変更手続きのために作成された申請書類、改定に先立って検討会を通して改善された授業に関する情報交換会の開催（年２回）	2.修了生の研究発表支援の実施。 同左 活動を総括し、時期中期計画に向けた改善計画を立案する。 **「評価指標」** ・同左 3.　教育活動と成果の点検評価及び改善活動の推進。 ①新カリキュラムの適用を開始し、研究科教授会において情報交換を行うとともに、自己点検評価会議を開催する。 ②活動を総括し、時期中期計画に向けた改善計画を立案する。 **「評価指標」** 検討会の開催回数（年２回）、新カリキュラムの運用・成果に関する情報交換会の開催（年２回）

中　期　目　標	中　期　計　画	年　度　計　画				
		令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度
	実装的研究実施支援の在り方を検討する。 **「計画達成のための方策」** 研究科ＤＰにのっとり、保健医療福祉における地域連携の推進と看護機能の明確化をめざした修了生の研究成果の公開を支援し、実装的研究実施支援の在り方を検討する。 **「評価指標」** ・学生の授業評価アンケートによる授業の質評価、修了生の研究成果の公開数、地域連携の推進や看護機能の明確化に関する情報交換会等の開催数 **【計画 19-3】**㋐ 優秀な学生を確保する。 **「計画達成のための方策」** 基盤となる人材の獲得をめざし、入試・広報活動等を通して、保健医療組織及び個人に本学及び本研究科のビジョンを伝え、これに共鳴する受験生の獲得を図る。また、保健医療の現場に直接貢献しようとする人材を育成するため、修了後の臨床現場での活躍イメージをもって学修・研究が実施できるよう学生支援を行う。 **「評価指標」** ・学生の授業評価アンケートによる大学・研究科ビジョンへのコミットメント状況、科目選択や研究テーマ設定における修了後の就業イメージとの一致状況、修了後に保健医療現場へ就職・復帰する修了生数、修了生の現場での活動状況	**【年度計画 19-2】** 特別研究の進捗情報を共有し、成果公開を見通した支援の在り方に関する検討会を開催する。 **「評価指標」** ・学生の授業評価アンケートによる授業の質評価、修了生の研究成果の公開数、地域連携の推進や看護機能の明確化に関する情報交換会等の開催数 **【年度計画 19-3】** 入試説明会や個別説明会の開催とこれに先立ち主として千葉県内の施設とＪＣＨＯ病院への募集ポスター配布を行い、めざすビジョンを伝える。入学後の科目選択や研究テーマ設定においては修了後のイメージを確認しながら指導を行う。 **「評価指標」** ・学生の授業評価アンケートによる大学・研究科ビジョンへのコミットメント状況、科目選択や研究テーマ設定における修了後の就業イメージとの一致状況、修了後に保健医療現場へ就職・復帰する修了生数、修了生の現場での活動	**【年度計画 19-2】** 修了生を支援し学会・誌上発表を行う。地域交流イベント等において発表の企画を設ける。前年を継続するとともに、修了生の状況を加えた検討会を開催する。 **「評価指標」** ・同左 **【年度計画 19-3】** 前年に準じた活動を行う。加えて、授業評価アンケートを分析し、評価改善を行う。修了生の現場での活動状況を把握するための手段（アンケート、修了後に参集できる機会の設定、等）を検討する。 **「評価指標」** ・同左	**【年度計画 19-2】** 修了生を支援し学会・誌上発表を行う。前年を継続するとともに、修了生の状況を加えた検討会を開催する。上記を加味し授業内容改善への提案を作成する。 **「評価指標」** ・同左 **【年度計画 19-3】** 前年度に準ずる。 **「評価指標」** ・同左	**【年度計画 19-2】** 前年度に準ずる。上記を加味しカリキュラム改定への提案を作成する。 **「評価指標」** ・同左 **【年度計画 19-3】** 前年度に準ずる **「評価指標」** ・同左	**【年度計画 19-2】** 前年度に準ずる。 **「評価指標」** ・同左 **【年度計画 19-3】** 前年度に準ずる。 **「評価指標」** ・同左

中　期　目　標	中　期　計　画	年　度　計　画				
		令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度
	【計画 19-4】㋐ 仕事を持つ学生への修学支援等を行う。 **「計画達成のための方策」** 1.学生が仕事を継続しながら学修できるよう時間割を工夫するとともに遠隔授業とそのサポートの仕組みを整備する。 2.科目等履修制度の整備・活用を推進する。 3.地域交流イベントやＷＥＢ掲載等により研究科主催の公開授業を実施する。 **「評価指標」** ・学生の授業評価アンケートによる出席のしやすさ・サポート評価、仕事を継続しながらの入学生数、欠席・休学状況、科目等履修制度利用者数、研究科主催の公開授業実施数 **【計画 19-5】**㋐ 地域連携に関する共同研究を実施する。 **「計画達成のための方策」** 保健医療福祉における地域連携の推進と看護機能の明確化に関する独自の講義・演習を開発・展開し、これを基盤とした修士研究の指導、及び共同研究を行う。	状況 **【年度計画 19-4】** 1.令和３年度及び当該年度の授業実施・出欠席状況をもとに、時間割を評価し、改善点を洗い出したうえで令和５年度時間割の作成を行う。遠隔授業に対する学生の適応状況を授業への参加状況等から把握し、適宜、サポートを行う。 2.入試説明会等を通して科目等履修制度を周知し、より多くの医療人に学修機会を提供する。 3.地域交流イベントにおいて研究科主催の公開授業を行う **「評価指標」** ・学生の授業評価アンケートによる出席のしやすさ・サポート評価、仕事を継続しながらの入学生数、欠席・休学状況、科目等履修制度利用者数、研究科主催の公開授業実施数 **【年度計画 19-5】** カリキュラムに基づいた授業を行い、授業ごとの学生からのリアクションや科目終了時の授業評価、地域交流イベント等での発表会での意見交換を通して、授業の質を確認する。授業が修士研究に与える影響を意見交換し、授業改	**【年度計画 19-4】** 前年度に準ずる。研究科授業の教材をＷＥＢ公開する（１コマ分） **「評価指標」** ・同左 **【年度計画 19-5】** 地域連携に関する共同研究を開始する（１つ）。	**【年度計画 19-4】** 前年度に準ずる。 **「評価指標」** ・同左 **【年度計画 19-5】** 前年度に準ずる。地域連携に関する共同研究を継続する（1つ。）	**【年度計画 19-4】** 前年度に準ずる。 **「評価指標」** ・同左 **【年度計画 19-5】** 前年度に準ずる。地域連携に関する共同研究の成果を一部発表する（１つ）。	**【年度計画 19-4】** 前年度に準ずる。 **「評価指標」** ・同左 **【年度計画 19-5】** 前年度に準ずる。地域連携に関する共同研究を継続する（１つ）。

中　期　目　標	中　期　計　画	年　度　計　画				
		令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度
	「評価指標」 ・研究科内での教員によるピアレビュー数と評価、修士論文に対する学内外の評価、保健医療福祉における地域連携の推進と看護機能の明確化に関する共同研究の数 **○大学院和歌山看護学研究科** **【計画 20-1】**㋐ 教職員体制の充実のもと、ＤＰを実現するための教育方法を開発し学生の学びの質を保証する。 **「計画達成のための方策」** 1.　社会人学生の学びを推進する教育方法を開発する。 **「評価指標」** ・教育方法と教育体制の検討・開発状況、大学院担当教員数 ・遠隔地でも学べる学習環境の整備状況 2. 修了生の研究成果の公表を支援する。 **「評価指標」** ・学会等での発表および学会誌等への投稿数及び内容の状況 **【計画 20-2】**㋐ 学生の社会生活と学習を両立できる環境整備を図る。	善につなげる。地域連携に関する共同研究実施の可能性を探る。 **「評価指標」** ・研究科内での教員によるピアレビュー数と評価、修士論文に対する学内外の評価、保健医療福祉における地域連携の推進と看護機能の明確化に関する共同研究の数 **【年度計画 20-1】** 1. 大学院担当教員の充実 ①社会人学生の学びを推進する教育方法を検討する。 ②遠隔地でも学びを可能にする教育方法、教育体制を検討する。 **「評価指標」** ・教育方法と教育体制の検討・開発状況、大学院担当教員数 2.　修了生の研究成果の学会への発表とその後の投稿を支援する。 **「評価指標」** ・学会等での発表および学会誌等への投稿数及び内容の状況	**「評価指標」** ・同左 **【年度計画 20-1】** 1. 大学院担当教員の充実 ①同左 ②同左 ③入学前教育により大学院での学びへの適応を図る。 **「評価指標」** ・指導教授６名、福指導教員８名	**「評価指標」** ・同左 **【年度計画 20-1】** 1. 大学院担当教員の充実 ①同左 ②同左 ③同左 **「評価指標」** 同左	**「評価指標」** ・同左 **【年度計画 20-1】** 1. 大学院担当教員の充実 ①社会人学生の学びを推進する教育方法の試行を行う。 ②同左 ③同左 **「評価指標」** ・教育方法と教育体制の試行状況と評価、大学院担当教員数	**「評価指標」** ・同左 **【年度計画 20-1】** 1. 大学院担当教員の充実 ①同左 ②同左 ③同左 **「評価指標」** 同左

中　期　目　標	中　期　計　画	年　度　計　画				
		令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度
	「計画達成のための方策」 各種奨学金、補助金等に関する情報収集と獲得及び学生への周知を行うとともに、学生の学べる時間に応じた学習方法の検討を行い、科目履修での学びを勧める。 **「評価指標」** ・各種奨学金、補助金の獲得状況 ・学生の学べる時間に応じた学習方法の開発状況（e-ラーニングなど） ・科目履修生制度の利用状況 **【計画 20-3】**㋐ 修了生の学修継続支援を行う。 **「計画達成のための方策」** 修了生の研究成果発表の機会を確保するなどにより、修了生の学修継続支援を行う。 **「評価指標」** ・修了生の学習支援機会の確保数 ・研究成果の発表と投稿数	**【年度計画 20-2】** 1.各種奨学金、補助金等に関する情報収集と獲得及び学生への周知を行う。 2.学生の学べる時間に応じた学習方法の検討を行う（ｅ－ラーニングなど） 3.科目履修での学びを勧める。 **「評価指標」** ・各種奨学金･補助金の獲得状況 ・学生の学べる時間に応じた学習方法の開発状況（e-ラーニングなど） ・科目履修生制度の利用状況 **【年度計画 20-3】** 修了生の研究成果発表の機会を確保するなどにより、修了生の学修継続支援を行う。 **「評価指標」** ・修了生の学習支援機会の開催数 ・研究成果の発表と投稿数	**【年度計画 20-2】** 同左 **「評価指標」** 同左 **【年度計画 20-3】** 同左 研究生制度を活用する **「評価指標」** ・研究成果の発表 8、投稿 3 ・研究生 2 名	**【年度計画 20-2】** 1.各種奨学金、補助金等の学生への周知を行う。 2.学生の学べる時間に応じた学習方法を試行する。 3.科目履修での学びを大学院での学びにつなげる。 **「評価指標」** 同左 **【年度計画 20-3】** 同左 **「評価指標」** 同左	**【年度計画 20-2】** 1.各種奨学金、補助金等の学生への周知を行う。 2.学生の学べる時間に応じた学習方法を試行する。 3.科目履修での学びを大学院での学びにつなげる。 **「評価指標」** 同左 **【年度計画 20-3】** 同左 **「評価指標」** 同左	**【年度計画 20-2】** 同左 **「評価指標」** 同左 **【年度計画 20-3】** 同左 **「評価指標」** 同左
(3)本学の強み・特色を生かした専攻科、各教育研究センター等を設置し、他の大学にない、独創的な教育・研究活動を継続的に推進する。	**〇助産学専攻科** **【計画 21-1】**㋐ 教育理念・教育目標に沿った教育プログラムを構築する。 **「計画達成のための方策」** 1.教育理念に則った教育プログラムの確立。 1)明確な教育目標の設定。 2)教育目標に応じたカリキュラムの再構築 2.新しい教育制度の導入 1)主体的な学修を促す教育方法の導	**【年度計画 21-1】** 1.教育理念に則った教育プログラムの確立。 1)明確な教育目標の設定。 2)教育目標に応じたカリキュラムの再構築 2.新しい教育制度の導入 1)主体的な学修を促す教育方法	**【年度計画 21-1】** 同左	**【年度計画 21-1】** 同左	**【年度計画 21-1】** 同左	**【年度計画 21-1】** 同左

中　期　目　標	中　期　計　画	年　度　計　画				
		令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度
	入 2)ルーブリック評価法などを活用し、学生へもわかりやすい評価の提示 3)ＣＢＴ・ＯＳＣＥの実施 4)裂傷縫合・経腹エコーの技術の獲得 **「評価指標」** ・新しい教育制度の導入状況 ・主体的な学修を促す教育方法の導入状況 **【計画 21-2】**㋐ 産後ケアセンターでの実習を通し、地域の母子を支援する。 **「計画達成のための方策」** 1.アーリー・エクスポージャーの一環として、産後ケア研究センターなど、現場で働く助産師活動に触れる。 2.地域や海外で助産師活動に従事する講師の招致。 3.ＮＣＰＲ、受胎調節実地指導員講習会の開催。 4.1人あたり10例程度確実に分娩介助実習を行い、臨床経験の確保。 5.新カリキュラムの検討。 6.地域に貢献できるように、妊産婦・乳幼児健診の実習の機会を増やす。 7.生活の場における地域での母子支援の在り方について考えていける。 **「評価指標」**	の導入 2)ルーブリック評価法などを活用し、学生へもわかりやすい評価の提示 3)ＣＢＴ・ＯＳＣＥの実施 4)裂傷縫合・経腹エコーの技術の獲得 **「評価指標」** ・新しい教育制度の導入状況 ・主体的な学修を促す教育方法の導入状況 **【年度計画 21-2】** COVID-19 禍でオンライン育児クラスの開始。 1.アーリー・エクスポージャーの一環として、産後ケア研究センターなど、現場で働く助産師活動に触れる。 2.地域や海外で助産師活動に従事する講師の招致。 3.ＮＣＰＲ、受胎調節実地指導員講習会の開催。 4.1 人あたり 10 例程度確実に分娩介助実習を行い、臨床経験の確保。 5.新カリキュラムの検討。 6.地域に貢献できるように、妊産婦・乳幼児健診の実習の機会を増やす。 7.生活の場における地域での母子支援の在り方について考えていける。 **「評価指標」**	**「評価指標」** ・同左 **【年度計画 21-2】** COVID-19 禍でオンライン育児クラスの開始。 **「評価指標」**	**「評価指標」** ・同左 **【年度計画 21-2】** 1.訪問型、日帰り型に追加して通所型の開設。 2.助産学専攻科、母性看護学生、大学院生の産後ケア研究センター実習。 **「評価指標」**	**「評価指標」** ・同左 **【年度計画 21-2】** 同左 **「評価指標」**	**「評価指標」** ・同左 **【年度計画 21-2】** 同左 **「評価指標」**

中　期　目　標	中　期　計　画	年　度　計　画				
		令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度
	・実習の受入れ状況 **【計画 21-3】**㋐ 大学と臨床施設との連携を図り、大学大学院までのキャリアを見据えた教育を実施する。 **「計画達成のための方策」** 1. ＮＣＰＲ講習会や受胎調節実地指導員講習会の開催。 2. 産後ケア研究センターの従事者研修会への参加。 3. 東京母性衛生学会学術セミナーの参加。 4. チーム医療推進助産師研修会への参加。 5. 実習協議会の開催。 **「評価指標」** ・実習施設への就職率 **【計画 21-4】**㋐ 研究レベル向上の為の大学教育プログラムを確立する。 **「計画達成のための方策」** 研究レベルに裏付けられた大学での人材育成を図る。 1. 体系的なカリキュラムの構築。 2. 学部・大学院の一貫教育の導入。 3. 国際会議発表の推進。 4. 産学連携・地域連携による共同研究の推進。 **「評価指標」** ・研究レベル向上の為の大学教育プログラムの作成状況 **【計画 21-5】**㋐ 研究レベル向上の為の教育プログラ	・実習の受入れ状況 **【年度計画 21-3】** 1. ＮＣＰＲ講習会や受胎調節実地指導員講習会の開催。 2. 産後ケア研究センターの従事者研修会への参加。 3. 東京母性衛生学会学術セミナーの参加。 4. チーム医療推進助産師研修会への参加。 5. 実習協議会の開催。 **「評価指標」** ・実習施設への就職率 **【年度計画 21-4】** 研究レベルに裏付けられた大学での人材育成を図る。 1. 体系的なカリキュラムの構築。 2. 学部・大学院の一貫教育の導入。 3. 国際会議発表の推進。 4. 産学連携・地域連携による共同研究の推進。 **「評価指標」** ・研究レベル向上の為の大学教育プログラムの作成状況	・同左 **【年度計画 21-3】** 同左 **「評価指標」** ・同左 **【年度計画 21-4】** 同左 **「評価指標」** ・同左	・同左 **【年度計画 21-3】** 同左 **「評価指標」** ・同左 **【年度計画 21-4】** ― **「評価指標」** ―	・同左 **【年度計画 21-3】** 同左 **「評価指標」** ・同左 **【年度計画 21-4】** ― **「評価指標」** ―	・同左 **【年度計画 21-3】** 同左 **「評価指標」** ・同左 **【年度計画 21-4】** ― **「評価指標」** ―

中　期　目　標	中　期　計　画	年　度　計　画				
		令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度
	ムの確立を図るとともに、学際的・国際的な視点から自分の専門性を認識できる人材育成のシステムを整備する。 **「計画達成のための方策」** 研究レベルに裏付けられた大学院での人材育成を図る。 1.体系的なカリキュラムの構築。 2.学部・大学院の一貫教育の導入。 3.国際会議発表の推進。 4.産学連携・地域連携による共同研究の推進。 **「評価指標」** ・年１回以上の学会・研修会への参加 ・勉強会・抄読会の実施状況 ・実践的英語教育の導入状況 ・英語抄録作成クラス開催状況 ・学生の海外学習状況 ・論文の学会発表状況 ・海外論文発表経験者数の状況 **【計画 21-6】**㋐ 助産学専攻科のアメニティ空間の改善を図る。 **「計画達成のための方策」** キャンパス教育環境向上プロジェクトを推進する。 1.施設のアメニティ空間の改善。 2.グローバル化に対応する施設環境整備。 3.良質な学修環境整備。 **「評価指標」** ・キャンパス空間の整備状況	**【年度計画 21-5】** 研究レベルに裏付けられた大学院での人材育成を図る。 1.体系的なカリキュラムの構築。 2.学部・大学院の一貫教育の導入。 3.国際会議発表の推進。 4.産学連携・地域連携による共同研究の推進。 **「評価指標」** ・年１回以上の学会・研修会への参加 ・勉強会・抄読会の実施状況 ・実践的英語教育の導入状況 ・英語抄録作成クラス開催状況 ・学生の海外学習状況 ・論文の学会発表状況 ・海外論文発表経験者数の状況 **【年度計画 21-6】** キャンパス教育環境向上プロジェクトを推進する。 1.施設のアメニティ空間の改善。 2.グローバル化に対応する施設環境整備。 3.良質な学修環境整備。 **「評価指標」** ・キャンパス空間の整備状況	**【年度計画 21-5】** ― **「評価指標」** ― **【年度計画 21-6】** 同左 **「評価指標」** ・同左	**【年度計画 21-5】** ― **「評価指標」** ― **【年度計画 21-6】** ― **「評価指標」** ―	**【年度計画 21-5】** ― **「評価指標」** ― **【年度計画 21-6】** ― **「評価指標」** ―	**【年度計画 21-5】** ― **「評価指標」** ― **【年度計画 21-6】** ― **「評価指標」** ―

中　期　目　標	中　期　計　画	年　度　計　画				
		令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度
	【計画 21-7】㋐ 大学ブランドを学生が認めて受験したいと思える大学及び助産学専攻科をつくる。 **「計画達成のための方策」** 産学協同体制の構築によるブランド力向上を図る。 1.卒業生との交流活性化によるＰＲ効果の促進。 2.産学協同研究成果の対外的なＰＲ促進。 3.地域社会との連携によるＰＲ促進。 4.特別教授制度による先端研究導入。 5.国際交流グローバル化推進。 **「評価指標」** ・一般入試志願倍率 5倍以上	**【年度計画 21-7】** 産学協同体制の構築によるブランド力向上を図る。 1.卒業生との交流活性化によるＰＲ効果の促進。 2.産学協同研究成果の対外的なＰＲ促進。 3.地域社会との連携によるＰＲ促進。 4.特別教授制度による先端研究導入。 5.国際交流グローバル化推進。 **「評価指標」** ・一般入試志願倍率 5倍以上	**【年度計画 21-7】** 産学協同体制の構築によるブランド力向上を図る。 1.卒業生との交流活性化によるＰＲ効果の促進。 2.産学協同研究成果の対外的なＰＲ促進。 3.地域社会との連携によるＰＲ促進。 4.特別教授制度による先端研究導入。 5.国際交流グローバル化推進。 **「評価指標」** ・一般入試志願倍率 5倍以上	**【年度計画 21-7】** 同左 **「評価指標」** ・同左	**【年度計画 21-7】** 同左 **「評価指標」** ・同左	**【年度計画 21-7】** 同左 **「評価指標」** ・同左
	○和歌山助産学専攻科 **【計画 22-1】**㋐ 「災害と助産」の必修科目を踏まえ、平時から備える能力を養うことで一歩先を見据えた教育を行う。 **「計画達成のための方策」** 全国でリスクが高まっている大地震を中心とした災害における周産期医療について専門的に学ぶ「災害と助産」を必修科目に設定したところであり、周産期の母子や多様化するセクシュアリティーにも着目し、平時から備える能力を養う。 **「評価指標」** ・「災害と助産」履修によって、母子保健における災害時への関心が高まる授業アンケートの実施状況	**【年度計画 22-1】** 「災害と助産」履修によって、母子保健における災害時への関心が高まる授業アンケートの実施。 **「評価指標」** ・「災害と助産」履修によって、母子保健における災害時への関心が高まる授業アンケートの実施	**【年度計画 22-1】** 同左 **「評価指標」** ・同左	**【年度計画 22-1】** 同左 **「評価指標」** ・同左	**【年度計画 22-1】** 同左 **「評価指標」** ・同左	**【年度計画 22-1】** 同左 **「評価指標」** ・同左

中　期　目　標	中　期　計　画	年　度　計　画				
		令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度
	【計画 22-2】㋐ 必修科目の「カウンセリング論」を踏まえ、喪失体験者への接し方について演習を通して学び、寛容、愛、心温かい医療人としての態度を修得する。 **「計画達成のための方策」** 必修科目に「カウンセリング論」を編成し、非常勤講師に公認心理師兼臨床心理士兼大学病院でのカウンセラーの授業を通して、ペリネイタルロスなど喪失体験者への接し方について演習を通して学び、寛容、愛、心温かい医療人としての態度を修得する。 **「評価指標」** ・「カウンセリング論」履修によって、心温かい医療人としての接し方について理解する授業アンケート実施	状況 **【年度計画 22-2】** 「カウンセリング論」履修によって、心温かい医療人としての接し方について理解する、授業アンケートを実施する。 **「評価指標」** ・同左	**【年度計画 22-2】** 同左 **「評価指標」** ・同左	**【年度計画 22-2】** 同左 **「評価指標」** ・同左	**【年度計画 22-2】** 同左 **「評価指標」** ・同左	**【年度計画 22-2】** 同左 **「評価指標」** ・同左
	【計画 22-3】㋐ 一歩先を見据えながら助産を創造し、地域周産期医療向上に寄与できる助産師の育成を図る。 **「計画達成のための方策」** 和歌山看護学部から進学を希望する者及び地域周産期医療への貢献を希望する受験生を、西日本を中心に広くリクルートし、優秀な人材を確保する。また、修了後は助産師国家試験に合格し、希望する就職ができるよう支援する。 **「評価指標」** ・定員充足率の状況 ・助産師国家試験合格率、就職率の	**【年度計画 22-3】** 和歌山県立高等看護学院助産学科学生募集の最終年度であり、県内３校の助産師養成となるため、実習施設確保の問題から定員充足率を 80%とする。助産師国家試験合格率 100%、就職率 100%とする。 **「評価指標」** ・定員充足率の状況 ・助産師国家試験合格率、就職	**【年度計画 22-3】** 和歌山県立高等看護学院助産学科が閉科したため、以降の定員充足率を 100%とする。助産師国家試験合格率 100%、就職率 100%とする。 **「評価指標」** ・同左	**【年度計画 22-3】** 定員充足率を 100%とする。助産師国家試験合格率 100%、就職率 100%とする。 **「評価指標」** ・同左	**【年度計画 22-3】** 同左 **「評価指標」** ・同左	**【年度計画 22-3】** 同左 **「評価指標」** ・同左

中　期　目　標	中　期　計　画	年　度　計　画				
		令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度
	状況 **【計画 22-4】**㋐ 国際的視野と研究力を備え、国際母子保健分野で将来リーダーとなる資質を養成する。 **「計画達成のための方策」** グローバル化の問題を解決するための「国際母子保健活動論」及びリアルタイムで世界の母子保健情勢を英語で学ぶ「英語文献講読（必修科目）」の履修、加えて大規模な専門分野の学会参加も含めて、国際的視野と研究力を備え、国際母子保健分野で将来リーダーとなる資質を養成する。 **「評価指標」** ・ガイダンスで「国際母子保健活動論」の履修または聴講状況 ・学会への参加状況 **○感染制御学教育研究センター** **【計画 23-1】**㋐ 「感染制御実践看護学講座」を継続するとともに、COVID-19 パンデミックを経験し、感染制御に関わる人材育成について、本学がどのように貢献できるのか、引き続き検討していく **「計画達成のための方策」** 1.「感染制御実践看護学講座」の継続。 2. COVID-19 パンデミックを経験し、感染制御に関わる人材育成についての検討。	率の状況 **【年度計画 22-4】** ガイダンスで「国際母子保健活動論」の選択の必要性を説明し、学生全員が履修または聴講する。学会に１回参加する。 **「評価指標」** ・同左 **【年度計画 23-1】** 1.合格者数を 20 名～25 名程度を維持する。 2.「感染制御実践看護師」資格付与のために従来からの考査に加え「修了試験」を新設し、研修生と講座全体の評価を実施する。 3.修了生の動向調査を行う。以	**【年度計画 22-4】** 同左 **「評価指標」** ・同左 **【年度計画 23-1】** 同左	**【年度計画 22-4】** 同左 **「評価指標」** ・同左 **【年度計画 23-1】** 1.合格者数を 20 名～25 名程度を維持する。 2.新設した「修了試験」を含め、適宜、カリキュラム全体を見直していく、 3.時代背景を踏まえ、最も臨床現場に貢献できる感染制御の有資格者の育成について、多方面	**【年度計画 22-4】** 同左 **「評価指標」** ・同左 **【年度計画 23-1】** 同左	**【年度計画 22-4】** 同左 **「評価指標」** ・同左 **【年度計画 23-1】** 同左

中　期　目　標	中　期　計　画	年　度　計　画				
		令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度
		後、定期的に実施し、結果を公開していく方向で検討する。 4.今後の感染制御に関わる人材育成について「特定看護師」育成プログラムを含め情報収集していく。		から考慮し、本学の方針も踏まえ検討する。		
	「評価指標」 ・合格者数20名～25名を維持	**「評価指標」** ・合格者数20名～25名を維持	**「評価指標」** ・同左	**「評価指標」** ・同左	**「評価指標」** ・同左	**「評価指標」** ・同左
	【計画23-2】㋐ ＪＨＡＩ誌発刊を継続するとともに、高齢者施設医療従事者に対する感染制御の知識普及のためのセンターで可能な「研修」の在り方など情報収集を行う。 **「計画達成のための方策」** 1.ＪＨＡＩ誌発刊の継続。 2.高齢者施設医療従事者に対する感染制御の知識普及は喫緊の課題となっていることから、センターで可能な「研修」の在り方などの情報収集。	**【年度計画23-2】** 1.年2回の発刊を維持していく。 2.センターで可能な高齢者施設従事者への研修体制を構築する。又は高齢者施設の感染制御の底上げのためにセンターで貢献できることを検討する。	**【年度計画23-2】** 同左	**【年度計画23-2】** 同左	**【年度計画23-2】** 同左	**【年度計画23-2】** 同左
	「評価指標」 ・ＪＨＡＩ誌発刊年2回の発行維持 ・高齢者施設従事者への研修体制の構築状況	**「評価指標」** ・ＪＨＡＩ誌発刊年2回の発行維持 ・高齢者施設従事者への研修体制の構築状況	**「評価指標」** ・同左	**「評価指標」** ・同左	**「評価指標」** ・同左	**「評価指標」** ・同左
	○産後ケア研究センター **【計画24-1】**㋐ 産後ケア研究センターでの実習を通し、地域の母子を支援する。 **「計画達成のための方策」** 1. アーリー･エクスポージャーの一環として、産後ケア研究センターなど､現場で働く助産師活動に触れる。	**【年度計画24-1】** COVID-19禍でオンライン育児クラス開始。 ・助産学実習Ⅳでの集団教育の	**【年度計画24-1】** COVID-19禍でオンライン育児クラス開始。	**【年度計画24-1】** 1.訪問型、日帰り型に追加して通所型の開設。 2.助産学専攻科、母性看護学	**【年度計画24-1】** 同左	**【年度計画24-1】** 同左

中　期　目　標	中　期　計　画	年　度　計　画				
		令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度
	2. 地域や海外で助産師活動に従事する講師の招致。 3. 地域に貢献できるように、妊産婦・乳幼児健診の実習の機会を増やす。 4. 生活の場における地域での母子支援の在り方について検討する。	実施 ・地域母子保健学の実習の遂行 ・助産学実習Ｖでの助産管理学実習の遂行		生、大学院生の産後ケア研究センター実習。		
	「評価指標」 ・実習の受け入れ状況	**「評価指標」** ・実習の受け入れ状況	**「評価指標」** ・同左	**「評価指標」** ・同左	**「評価指標」** ・同左	**「評価指標」** ・同左
	【計画 24-2】㋐ 大学と品川区との連携を図り、大学院までのキャリアを見据えた教育を行う。					
	「計画達成のための方策」 1. 産後ケア研究センターの従事者研修会への参加。 2. 東京母性衛生学会学術セミナーの参加。 3. チーム医療推進助産師研修会への参加。	**【年度計画 24-2】** 1. 産後ケア研究センターの従事者研修会への参加。 2. 東京母性衛生学会学術セミナーの参加。 3. チーム医療推進助産師研修会への参加。	**【年度計画 24-2】** 同左	**【年度計画 24-2】** 同左	**【年度計画 24-2】** 同左	**【年度計画 24-2】** 同左
	「評価指標」 ・研修会の参加者数、参加回数	**「評価指標」** ・研修会の参加者数、参加回数	**「評価指標」** ・同左	**「評価指標」** ・同左	**「評価指標」** ・同左	**「評価指標」** ・同左
	【計画 24-3】㋐ 産後ケア研究センターのアメニティ空間の改善を図る。					
	「計画達成のための方策」 キャンパス教育環境向上プロジェクトを推進する。 1. 施設の長寿命化及び更新（アメニティ空間の改善）。 2. グローバル化に対応する施設環境整備。 3. 良質な学修環境整備。	**【年度計画 24-3】** キャンパス教育環境向上プロジェクトを推進する。 1. 施設の長寿命化及び更新（アメニティ空間の改善）。 2. グローバル化に対応する施設環境整備。 3. 良質な学修環境整備。	**【年度計画 24-3】** 同左	**【年度計画 24-3】** 同左	**【年度計画 24-3】** 同左	**【年度計画 24-3】** 同左
	「評価指標」 ・キャンパス空間の整備状況	**「評価指標」** ・キャンパス空間の整備状況	**「評価指標」** ・同左	**「評価指標」** ・同左	**「評価指標」** ・同左	**「評価指標」** ・同左

中　期　目　標	中　期　計　画	年　度　計　画				
		令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度
	【計画 24-4】㋐ 産学協同体制の構築によるブランド力向上プロジェクトの推進を図る。 **「計画達成のための方策」** 産学協同体制の構築によるブランド力向上を図る。 1. 卒業生との交流活性化によるＰＲ効果の促進。 2. 産学協同研究成果の対外的なＰＲ促進。 3. 地域社会との連携によるＰＲ促進。 4. 特別教授制度による先端研究導入。 5. 国際交流グローバル化推進。 **「評価指標」** ・ブランド力向上プロジェクトの推進状況	**【年度計画 24-4】** 産学協同体制の構築によるブランド力向上を図る。 1. 卒業生との交流活性化によるＰＲ効果の促進。 2. 産学協同研究成果の対外的なＰＲ促進。 3. 地域社会との連携によるＰＲ促進。 4. 特別教授制度による先端研究導入。 5. 国際交流グローバル化推進。 **「評価指標」** ・ブランド力向上プロジェクトの推進状況	**【年度計画 24-4】** 同左 **「評価指標」** ・同左	**【年度計画 24-4】** 同左 **「評価指標」** ・同左	**【年度計画 24-4】** 同左 **「評価指標」** ・同左	**【年度計画 24-4】** 同左 **「評価指標」** ・同左
	〇学長戦略本部等 **【計画 25-1】㋐(総合研究所)** 健康情報基盤研究ユニット（ＴＩＳ）、ヘルスシステムデザイン研究ユニット（ビーンズ）、教育ＤＸ研究ユニット（文科省補助）の三本柱となる研究ユニットを立ち上げる。 **「計画達成のための方策」** すべての学部・学科の教員が関与する形で、3 つの各研究ユニットによる研究成果（論文・書籍・知的財産等）が生まれ、その成果を授業に還元する。 **「評価指標」** ・3 つの各研究ユニットの設置状況、研究成果の状況	**【年度計画 25-1】** 3 つの研究ユニットで、具体的な研究計画を立案し、参加する教職員を募集する。 **「評価指標」** ・3 つの各研究ユニットの設置状況、研究成果の状況	**【年度計画 25-1】** 3 つの研究ユニットで、研究計画に基づき研究活動を行う。 **「評価指標」** ・同左	**【年度計画 25-1】** ・同左 **「評価指標」** ・同左	**【年度計画 25-1】** 前年度実績を踏まえ改めて計画を策定する。 **「評価指標」** ・同左	**【年度計画 25-1】** 同左 **「評価指標」** ・同左
	【計画 25-2】㋐(総合研究所)					

中　期　目　標	中　期　計　画	年　度　計　画				
		令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度
	ヘルスシステムデザイン研究ユニットの主管により、学生を巻き込んだ研究共創行事として「ジャックと豆の木ワークショップ」を推進する。 **「計画達成のための方策」** 学生有志と教職員の研究共創行事である「ジャックと豆の木ワークショップ」で生まれたアイディアに基づく研究から研究成果（論文・書籍・知的財産等）が生まれ、その成果を授業に還元する。 **「評価指標」** ・「ジャックと豆の木ワークショップ」の開催状況、研究成果の状況	**【年度計画 25-2】** 「ジャックと豆の木ワークショップ」を開催し、そこで生まれたアイディアの還元方法を検討する。 **「評価指標」** ・「ジャックと豆の木ワークショップ」の開催状況、研究成果の状況	**【年度計画 25-2】** 「ジャックと豆の木ワークショップ」を継続し、そこで生まれたアイディアを還元し、研究プロジェクトなどの立ち上げを検討する。また、成果の一部を授業に還元する方法を検討する **「評価指標」** ・同左	**【年度計画 25-2】** ・同左 ・令和５年度よりスタートした京急サービス(株)との提携による各種の共同イベントや研究を推進する。 **「評価指標」** ・同左 ・京急サービス社とのコラボイベント、共同事業の実施状況	**【年度計画 25-2】** 同左 **「評価指標」** ・同左	**【年度計画 25-2】** 同左 **「評価指標」** ・同左
	【計画 25-3】㋐(総合研究所) 教育ＤＸ研究ユニットの主管により、高校教員、大学教員がともに教育ＤＸを学ぶ場としてオンラインシンポジウムを開催する。 **「計画達成のための方策」** ＤＸ演習科目における授業満足度及びＩＣＥモデルによる自己評価が、ＤＸ以前よりも 20%以上向上する。 **「評価指標」** ・ＤＸ演習科目における授業満足度及びＩＣＥモデルによる自己評価の状況	**【年度計画 25-3】** ＩＣＥモデル適用科目を増やすための説明会を実施する。 **「評価指標」** ・ＤＸ演習科目における授業満足度及びＩＣＥモデルによる自己評価の状況	**【年度計画 25-3】** ＩＣＥモデル適用科目の授業満足度と自己評価が向上していることを確認し、評価する。 **「評価指標」** ・同左	**【年度計画 25-3】** ・教育ＤＸ研究ユニットでは、「令和７年度入学者向け入学前プログラム」の実施に対応するため、「学修成果の把握・可視化となるＤＸによる全学的評価指標」の検討及び計画案をＩＲ推進室と連携して策定する。 **「評価指標」** ・上記計画案の策定と計画案の報告書提出状況 ・関連部署との検討会の開催や外部有識者等からの意見聴取の状況	**【年度計画 25-3】** 同左 **「評価指標」** ・同左	**【年度計画 25-3】** 同左 **「評価指標」** ・同左
	【計画 25-4】㋐(総合研究所)					

中　期　目　標	中　期　計　画	年　度　計　画				
		令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度
	健康情報基盤研究ユニットの主管により、萌芽的研究に対する学内助成活動を推進する。 **「計画達成のための方策」** 学内助成活動による研究成果や社会活動から、研究成果（論文・書籍・知的財産等）が生まれ、その成果を授業に還元する。 **「評価指標」** ・学内助成活動による研究成果や社会活動からの研究成果の状況 **【計画 25-5】㋐（ＩＲ推進室）** ＩＲ推進室として、中期目標・計画やアクションプランに基づく諸活動について点検評価を行う際、定量データに基づく評価・分析、情報の共有を行い、引き続き「全学的な見える化」を推進する **「計画達成のための方策」** 1.授業や学生生活など教学の根幹に関わる事項について横断的な情報収集・分析を行うことにより、「全学的な見える化」を推進する。 **「評価指標」** ・学生の学修に関する実態調査アンケートの回答率（継続）90% ・授業評価アンケートの回答率（継続）90% ・分析結果に対する感想や意見の件数　年 10 件 2.高等教育に求められる役割が変化している情勢を十分に踏まえ、学修	**【年度計画 25-4】** 助成対象活動のサポート及びフォローアップの方法を検討し、活動経緯について関係学会内でのシンポジウム等で共有する。 **「評価指標」** ・学内助成活動による研究成果や社会活動からの研究成果の状況 **【年度計画 25-5】** 1.授業や学生生活など教学の根幹に関わる事項について横断的な情報収集・分析を行うことにより、「全学的な見える化」を推進する。 **「評価指標」** ・学生の学修に関する実態調査アンケートの回答率（継続）90% ・授業評価アンケートの回答率（継続）90% ・分析結果に対する感想や意見の件数　年 10 件 2.高等教育に求められる役割が変化している情勢を十分に踏ま	**【年度計画 25-4】** 助成対象活動の成果を、さらに発展させるためのフォローアップを行う。また、成果の一部を授業に還元する方法を検討する。 **「評価指標」** ・同左 **【年度計画 25-5】** 1.同左 **「評価指標」** ・同左 2.同左	**【年度計画 25-4】** 健康情報基盤研究ユニットにおいて、大学が社会的・技術的変化に適切に対応できるよう、教育方法の改善等を行うとともに、セミナー等の開催を通じ学内への情報発信を行う。 **「評価指標」** ・教育方法の改善状況 ・セミナー等の開催状況 **【年度計画 25-5】** 1.同左 **「評価指標」** ・同左 2.同左	**【年度計画 25-4】** 同左 **「評価指標」** ・同左 **【年度計画 25-5】** 1.同左 **「評価指標」** ・同左 2.同左	**【年度計画 25-4】** 同左 **「評価指標」** ・同左 **【年度計画 25-5】** 1.同左 **「評価指標」** ・同左 2.同左

中　期　目　標	中　期　計　画	年　度　計　画				
		令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度
	成果の可視化を図る基盤を整備する。 **「評価指標」** ・アセスメント・プランに基づく学修成果の定量的評価指標（ディプロマ・サプリメント）分析結果の報告件数（新規）　年２回 ・学修成果を可視化するためのデータ基盤整備＜キャンパス・プラン整備＞（継続） ・高等教育関係団体や他大学からの情報収集（継続） ・他大学研修会や高等教育に関する学会・研究会における活動報告件数　年２回	え、学修成果の可視化を図る基盤を整備する。 **「評価指標」** ・アセスメント・プランに基づく学修成果の定量的評価指標（ディプロマ・サプリメント）分析結果の報告件数（新規）　年２回 ・学修成果を可視化するためのデータ基盤整備＜キャンパス・プラン整備＞（継続） ・高等教育関係団体や他大学からの情報収集（継続） ・他大学研修会や高等教育に関する学会・研究会における活動報告件数　年２回	**「評価指標」** ・同左	**「評価指標」** ・同左	**「評価指標」** ・同左	**「評価指標」** ・同左
	3.活力あふれる大学づくりを推進するため、情報分析の結果を積極的に還元する。 **「評価指標」** ・広報媒体の発行件数（IR News・IR 年報の刊行）年２回 ・学生向け広報媒体の発行件数　年２回 ・研究業績に関する分析の検討（新規）	3.活力あふれる大学づくりを推進するため、情報分析の結果を積極的に還元する。 **「評価指標」** ・広報媒体の発行件数（IR News・IR 年報の刊行）年２回 ・学生向け広報媒体の発行件数　年２回 ・研究業績に関する分析の検討（新規）	3.同左 **「評価指標」** ・同左	3.同左 **「評価指標」** ・同左	3.同左 **「評価指標」** ・同左	3.同左 **「評価指標」** ・同左
(4)学習成果について、自己点検・評価、検証を行いその結果を踏まえて、不断の教育課程及び教育方法等の改善・充実を図るとともに「学位授与の方針」に基づき学位の授与（卒業・修了認定）を適切に行う	**【計画26】【計画2の再掲】** **(学長戦略本部・企画部)** 教育の質保証の観点から、毎年度定期的に自己点検・評価及び検証を行い、その結果について外部評価を実施し公表する。また、学長直轄の学長戦略本部を中心に、より適切なものとなるよう外部評価結果等を踏まえ、教育課程及び教育方法等の改善・充実を図る。					

中　期　目　標	中　期　計　画	年　度　計　画				
		令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度
	「計画達成のための方策」 学長直轄の学長戦略本部を中心に、全学的な教学マネジメントシステムを構築するとともに、「教学マネジメントチェックリスト(仮称)」を運用し、「大学全体レベル」、「学位プログラムレベル」、「授業科目レベル」毎に自己点検・評価及び検証等を行いながら、内部質保証システムのＰＤＣＡサイクルを構築する。 **「評価指標」** ・「教学マネジメントチェックリスト(仮称)」の作成及び活用した自己点検・評価及び検証等の実施状況	**【年度計画 26】** 学長直轄の学長戦略本部を中心に、全学的な教学マネジメントシステムを構築するとともに、「教学マネジメントチェックリスト(仮称)」として、「大学全体レベル」、「学位プログラムレベル」、「授業科目レベル」毎のチェックリストを作成し、試行的に運用する。 **「評価指標」** ・「教学マネジメントチェックリスト(仮称)」の作成及び活用した自己点検・評価及び検証等の実施状況	**【年度計画 26】** 学長直轄の学長戦略本部を中心に、全学的な教学マネジメントシステムを構築するとともに、「教学マネジメントチェックリスト(仮称)」を完成させ、「大学全体レベル」、「学位プログラムレベル」、「授業科目レベル」毎に活用し、自己点検・評価及び検証を開始する。 **「評価指標」** ・同左	**【年度計画 26】** 学長直轄の学長戦略本部を中心に、全学的な教学マネジメントシステムを構築するとともに、「教学マネジメントチェックリスト(仮称)」を運用し、「大学全体レベル」、「学位プログラムレベル」、「授業科目レベル」毎に自己点検・評価及び検証等を行いながら、内部質保証システムのＰＤＣＡサイクルを構築する。 **「評価指標」** ・同左	**【年度計画 26】** 同左 **「評価指標」** 同左	**【年度計画 26】** 同左 **「評価指標」** ・同左

東京医療保健大学　第３期中期目標・計画（令和４年度～令和８年度）

中　期　目　標	中　期　計　画	年　度　計　画				
		令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度
5.学生の受け入れ (1)本学の理念・目的及びそれに基づく「入学者受け入れの方針」について、社会への周知に努めるとともに、時代の要請を把握しそれを踏まえて、同方針について不断の見直し・改善を図る。	**5.学生の受け入れ** **【計画27】（入試事務部）** 本学の理念・目的及びそれに基づく「入学者受け入れの方針」を、様々な方法を通じて社会に周知するとともに、社会状況や時勢に基づく検証を行い、必要に応じ改善を図る。 **「計画達成のための方策」** 1.大学の理念・目的及び「入学者受け入れの方針」を学生募集要項、本学ウェブサイトで公表する。さらに、各種の学生募集イベントやオープンキャンパスで受験生・保護者等への周知を図る。	**【年度計画27】** 1.学部学科・大学院の理念・目的及び「入学者受け入れの方針」を学生募集要項、本学ウェブサイトで公開する。各種のイベント、オープンキャンパスでの周知と浸透を図る。	**【年度計画27】** 1.同左	**【年度計画27】** 1.同左	**【年度計画27】** 1.同左	**【年度計画27】** 1.同左
	2.入学者選抜の方法の変更にともない、「入学者受け入れの方針」の事項の見直しを行う。	2.入学者選抜の方法の変更にともない、「入学者受け入れの方針」の事項の見直しを行う。	2.同左	2.同左	2.同左	2.同左
	3.高大接続システム改革に基づき、学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針を踏まえた「入学者受け入れの方針」において、学力の3要素（①知識・技能、②思考力・判断力・表現力等、③主体性を持ち多様な人々と協議しつつ学習する態度に関し、入学希望者に求める能力の適切な判定ができる入学者選抜の改善を図る。	3.高大接続システム改革に伴い、令和４年度入学者選抜で実施した記述式問題、調査書を利用した総合的・多面的評価の検証と次年度以降の入学者選抜での利用の検討を行う。	3.前年度に引続き、左記の高大接続システム改革に伴う記述式問題の実施等の継続検討を行う。	3.同左	3.同左	3.同左
	4.高校での新学習指導要領に基づく令和７年度入学者選抜に向け、入学者選抜方法・実施方法等についての検討を行う。あわせて、共通テストでは実施せず、各大学での検討事項となった①記述式問題	4.新学習指導要領に基づく令和７年度入学者選抜の実施についての検討を行う。	4.令和７年度入学者選抜での変更点を検討し、明確な変更点についての公表・周知を検討する。	4令和７年度新学習指導要領に基づく入学者選抜を実施する。その際、入試における記述式問題の実施内容、実施方法を明確にして、実施する。また、英語の外部資格・検定の利用についても、部分的な	4.令和７年度入試の総括と検証を行う。また、新学習指導要領に基づく入学者選抜方法の定着を図る。	4.同左

中　期　目　標	中　期　計　画	年　度　計　画				
		令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度
	②英語の民間資格・検定等の利用についての方向性を定める。 **「評価指標」** ・学力の 3 要素に基づく入学者選抜の実施状況 ・令和 7 年度入試に向けた準備・実施状況及び検証 ・記述式問題の実施、英語の外部資格・検定等の利用についての検討状況、実施状況	**「評価指標」** ・令和４年度入学者選抜においては、以下の入試改定の実施状況 ①一般選抜での記述式問題の導入（和歌山看護学部） ②一般選抜Ｃ日程での調査書を利用した総合的・多面的評価の実施（全学科） ③総合的・多面的評価での入学者選抜の推進の観点から、東が丘看護学部、和歌山看護学部で総合型選抜を創設 ・前記の選抜法について、令和 5 年度以降の入学者選抜においての実施対応についての検討状況 ・令和７年度入試に向けた検討状況	**「評価指標」** ・令和７年度入試を念頭においた「入学者受け入れの方針」の見直し検討の状況 ・記述式問題の全学ベースでの検討と取組状況 ・令和７年度入試に向けた変更点の取りまとめと実施検討 ・英語の外部資格・検定利用に関する検討状況	入学者選抜への利用などを具体化する。 **「評価指標」** ・令和７年度入試を念頭においた「入学者受け入れの方針」の見直しの状況と結果 ・令和７年度入試での記述式問題の検討結果と実施内容 ・英語の外部資格・検定利用の検討結果	**「評価指標」** ・令和７年度入試を念頭においた「入学者受け入れの方針」の見直しの状況と結果 ・令和７年度入試の検証	**「評価指標」** ・同左
(2) 入学者選抜試験は公正かつ適切に実施する。	**【計画 28】（入試事務部）** 入学者選抜試験の実施内容について、学部・研究科等の特色・特徴等を踏まえた改善・充実を図る。 **「計画達成のための方策」** 1. 入学者選抜試験問題について、「入学者受け入れの方針」に基づき適切に作成することとし、試験問題にミス等が生じないようチェック体制を徹底する。	**【年度計画 28】** 1 一般選抜においては、作問者の作成した試験問題を、外部の第三者機関による査読及び問題チェックを実施し、作問ミス、解答ミスの撲滅に努める。さらに入試担当委員が最終確認を行い、ミスの発生を防ぐ。また総合型選抜、学校推薦型選抜の入試においても、各学科の入試担当委員が水際のチェックを行	**【年度計画 28】** 1. 同左	**【年度計画 28】** 1. 同左	**【年度計画 28】** 1. 同左	**【年度計画 28】** 1. 同左

中　期　目　標	中　期　計　画	年　度　計　画				
		令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度
		い、ミスが生じないように努める。				
	2. 入学者選抜試験会場において、入試実施上の注意事項の徹底を図るとともに、試験監督を厳正に行う等入学者選抜試験を公正かつ適切に実施する。	2. 入試実施にあたっては、実施要項の熟読、教職員向けの説明会等により、入試実施上の注意事項を徹底する。	2. 同左	2. 同左	2. 同左	2. 同左
	3. 入学者選抜における合否判定を公正に行い、入学者選抜試験関係業務を適切に実施する。	3. 研究科の入試については、研究科ごとに実施しており、選抜方法や日程等については、学部長等会議及び大学経営会議において、審議・決定する。	3. 同左	3. 同左	3. 同左	3. 同左
	「評価指標」 ・入学者選抜における作問ミスの発生防止の取組状況 ・入試実施にともなうトラブル等の発生防止の取組状況	**「評価指標」** ・入学者選抜における作問ミス等の発生防止の取組状況 ・入試実施上のトラブル等の発生防止の取組状況	**「評価指標」** 同左	**「評価指標」** 同左	**「評価指標」** 同左	**「評価指標」** 同左
(3) 入学定員及び収容定員の適正な管理に努める。	**【計画 29】（入試事務部）** 学部・研究科等の入学定員に基づき、適切な入学者数を受け入れるとともに収容定員の適正な管理に努める。					
	「計画達成のための方策」 1. 学部入試における全学部・全学科の入学定員達成をめざす。そのための各入試区分での学生募集、出願者増に向けた活動に注力する。	**【年度計画 29】** 1. 入学定員を全学部・全学科及び各研究科で充足させる。そのため、各入試区分での受験者ニーズに合った学生募集イベントを実施し、それぞれの入試区分に適用した受験生増をめざす。	**【年度計画 29】** 1. 同左	**【年度計画 29】** 1. 同左	**【年度計画 29】** 1. 同左	**【年度計画 29】** 1. 同左
	2. 収容定員割れとなっている医療栄養学科、医療情報学科の収容定員充足を図る。	2. 収容定員を念頭においた入学者確保を意識する。	2 同左	2. 同左	2. 同左	2 同左
	3. 収容定員の充足のため、入学定員の達成とともに退学者動向も視野に入れた取組を行う。	3. 退学者減少に向けての取組や対策を検討する。	3. 同左	3. 同左	3. 同左	3. 同左
	4.　和歌山看護学部の定員増を検	4. 和歌山看護学部の定員増を検	4. 同左	4. 和歌山看護学部の定員増につ	4 同左	4. 同左

中　期　目　標	中　期　計　画	年　度　計　画				
		令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度
	討する。 **「評価指標」** ・毎年度の入学者実績の検証 ・上記にともなう収容定員の検証 ・退学者動向の把握 ・（和歌山看護学部の定員検討のための）入学定員超過率(1.15)の状況の確認	討する。 **「評価指標」** ・令和４年度の入学者実績と各学科（特に医療栄養学科、医療情報学科）の収容定員の検証 ・前年度の退学者実績の把握 ・（和歌山看護学部の定員検討のための）入学定員超過率(1.15)の状況の確認	**「評価指標」** ・同左 ・同左 ・（和歌山看護学部の定員検討のための）入学定員超過率(1.15)の確保と申請年度検討	いて、具体的な目標年度を定めた準備を行う。 **「評価指標」** ・同左 ・同左 ・同左	**「評価指標」** ・同左 ・同左 ・和歌山看護学部の定員増の検証	**「評価指標」** ・同左 ・同左 ・同左
(4)学生募集に係る広報活動の充実を図る。	**【計画 30】（入試広報部）** 全学部・全学科の入学定員確保に向けて、募集活動の強化と高大連携・高大接続の構築を図る。 **「計画達成のための方策」** 1. 新学習指導要領に準じた出張講義の創出と高大接続関係の強化を図る。 2. オープンキャンパスや入試説明会などイベント内容の充実を図るとともに、様々な方法での情報発信の強化を図る。 3. 大学案内及び大学紹介パンフレットの刷新とＳＮＳ等情報発信の強化を図る。 4. 地域性を重視した高校訪問活動（塾等含む）の強化を図る。 **「評価指標」** ・全学部･全学科の定員確保状況及	**【年度計画 30】** 1. 新学習指導要領の「総合的な探究の時間」と連携・連動した内容の出張講義を実施する。 2. コロナ禍で培った経験に基づき､来校型イベントに限定せず、オンライン型と併用したハイブリッド型イベント等を実施する。また、新たな方法についても試行的に実施する。 3. 令和５年度に刷新する大学案内及び大学紹介パンフレットの作成について準備を進める。18歳の視点を最優先し、動画やＳＮＳ等デジタル媒体と連携・連動した内容を検討する。 4. 高等学校や塾への訪問活動を強化し、出張講義の獲得を目指す。特に私学との連携を強化する。 **「評価指標」** ・全学部・全学科の定員確保状	**【年度計画 30】** 1. 同左 2. 同左 3. 大学案内及び大学紹介パンフレットについての刷新に取り組む。 4. 同左 **「評価指標」** ・同左	**【年度計画 30】** 1. 同左 2. 同左 3. 新たな大学案内及び大学紹介パンフレットについて、その内容や効果などを検証し、記載内容のさらなる充実に努める。 4. 同左 **「評価指標」** ・同左	**【年度計画 30】** 1. 同左 2. 同左 3. 令和８年度に刷新する大学案内及び大学紹介パンフレットの作成について準備を進める。 4. 同左 **「評価指標」** ・同左	**【年度計画 30】** 1. 同左 2. 同左 3. 大学案内及び大学紹介パンフレットについての刷新に取り組む。また、動画やＳＮＳ等デジタル媒体についても検証し、次なる計画に向けて、その内容の充実に努める。 4. 同左 **「評価指標」** ・同左

中　期　目　標	中　期　計　画	年　度　計　画				
		令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度
	び受験競争率の確保状況 **【計画 31】(和歌山看護学部)** 入学の意思の高い優秀な学生を確保するために、多様な入試選抜の下、受験者数を維持する。 **「計画達成のための方策」** 1.選抜区分ごとの受験生数を維持し、受験延べ人数 400 名を維持する。そのために、広報活動と共に大学説明会、出前授業、1 日体験入学を実施する。 2.受験者の多い県内高校との連携協定を推進し、現在の連携高校４か所を 8 か所まで増やす。そのために、連携高校への大学説明会、出張講義と連携校出身学生の母校訪問での交流を１回以上行うとともに、本学部教員と高校教諭との教育指導に関する意見交換会を 1 回開催する。 **「評価指標」** ・受験延べ人数、大学説明会関連行事への参加数、高校との交流回数、連携高校数、連携校との交流回数、連携校の受験者数と入学者数	況及び受験競争率の確保状況 **「年度計画 31」** 1.広報活動と各高校を対象とする大学説明会関連行事を高校の希望に沿って実施する。 2.3 か所の高校と連携協定を結ぶとともに、高校教諭と本学部教員、高校生と本学部学生との交流を行う。 **「評価指標」** ・受験延べ人数、大学説明会関連行事への参加数、高校との交流回数、連携高校数、連携校との交流回数、連携校の受験者数と入学者数	**「年度計画 31」** 1.同左 2.連携協定を結んだ高校との４回以上のプログラムを実施するとともに、高校教諭と本学部教員、高校生と本学部学生との交流を行う。 **「評価指標」** ・同左	**「年度計画 31」** 1.同左 2.連携協定を結んだ高校との４回以上のプログラムを実施するとともに、高校教諭と本学部教員、高校生と本学部学生との交流を行う。 **「評価指標」** ・同左	**「年度計画 31」** 1.同左 2.同左 **「評価指標」** ・同左	**年度計画 31」** 1.同左 2.同左 **「評価指標」** ・同左
(5)本学の国際化を図り国際的通用性の高い教育研究を推進するため、学生・教職員に係る海外派遣等を実施するとともに、海外大学等との交流を拡大する。また、留学生・研究生の受け入れを積極的に行う。	**【計画 32】(国際交流センター、研究協力部、各事務部)** 国際交流センターを中核として、学生・教職員に係る海外派遣・海外研修等を実施するとともに、オンラインを活用した海外大学等との交流を拡大する。また、海外からの留学生・研究生等の受入れを推進し、大学の国際化を進め、国際的視					

中　期　目　標	中　期　計　画	年　度　計　画				
		令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度
	野を持つ医療人の育成に努め、地域貢献及び地域の国際化に寄与する。 **「計画達成のための方策」** 1.学生・教職員の海外派遣・海外研修等の実施及び海外からの留学生等の受入れを積極的に行うため、海外の大学や医療機関との交流締結を更に推進する。特に、国際交流センターでは従来から協力関係にあったハワイ大学とシャミナード大学との大学間提携を実現できるよう両大学に積極的に働きかける。 2.国際的な講演会の開催など積極的に推進する。 **「評価指標」** ・海外大学との交流締結数及び学生・教職員の海外派遣・海外研修等の実施及び海外からの留学生等の受入れ数、海外研修実施に伴う参加者の満足度 ・国際的な講演会等の開催状況	**【年度計画 32】** 1.従来から協力関係にあったハワイ大学とシャミナード大学との大学間の提携を行う。 2.国際的な講演会の開催など積極的に推進する。 **「評価指標」** ・海外大学との交流締結数及び学生・教職員の海外派遣・海外研修等の実施及び海外からの留学生等の受入れ数 ・国際的な講演会等の開催状況	**【年度計画 32】** 1.大学間連携を行っているグリフィス大学との提携を更新する。さらにハワイ大学、シャミナード大学との大学間提携を進めるとともに両大学との研修内容の充実を図る。 2.同左 **「評価指標」** ・海外大学との交流締結数及び学生・教職員の海外派遣・海外研修等の実施及び海外からの留学生等の受入れ数、海外研修実施に伴う参加者の満足度 ・国際的な講演会等の開催状況	**【年度計画 32】** 1.大学間提携大学との連携関係をさらに深めるために、協力的なプロジェクトについて提携大学と検討し、提携内容をさらに充実させる。 2.同左 **「評価指標」** ・海外大学との交流締結数及び学生・教職員の海外派遣・海外研修等の実施及び海外からの留学生等の受入れ数、海外研修実施に伴う参加者の満足度及び協力的なプロジェクトの実施状況 ・国際的な講演会等の開催状況	**【年度計画 32】** 1.同左 2.同左 **「評価指標」** 同左	**【年度計画 32】** 1.同左 2.同左 **「評価指標」** 同左

東京医療保健大学　第３期中期目標・計画（令和４年度～令和８年度）

中　期　目　標	中　期　計　画	年　度　計　画				
		令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度
6.教員・教員組織 (1)本学の理念・目的を実現し、教育研究を円滑に実施するため、教育研究を担当するに相応しい能力を有するとともに、熱意をもって、かつ真摯に教育研究に取り組む教員の配置を図る。	**6.教員・教員組織** **【計画 33】（総務人事部）** 「教員組織の編成方針」に基づき、教育研究を円滑に実施するため、 有効かつ適切な教員配置を図るとともに、教員に欠員等が生じた場合 には、原則公募により募集を行うこととし採用･昇任等に当たっては 教員選考規程及び教員選考基準に基づき公正かつ適切に行う。 **「計画達成のための方策」** 教育研究を円滑に実施するため、有効かつ適切な教員配置を図るとともに、教員に欠員等が生じた場合 には、原則公募により募集を行うこととし採用･昇任等に当たっては 教員選考規程及び教員選考基準に基づき公正かつ適切に行う。 **「評価指標」** ・教員の配置状況及び教員選考状況	**【年度計画 33】** 教育研究を円滑に実施するため、有効かつ適切な教員配置を図るとともに、教員に欠員等が生じた場合 には、原則公募により募集を行うこととし採用・昇任等に当たっては 教員選考規程及び教員選考基準に基づき公正かつ適切に行う。 **「評価指標」** ・教員の配置状況及び教員選考状況	**【年度計画 33】** 同左 **「評価指標」** ・同左	**【年度計画 33】** 同左 **「評価指標」** ･同左	**【年度計画 33】** 同左 **「評価指標」** ・同左	**【年度計画 33】** 同左 **「評価指標」** ・同左
(2)教員の資質及び教育力の向上を図るため､教員のＦＤ活動を積極的に推進し､教員の資質向上のための取組方法や教員組織の改善を図る。	**【計画 34】（企画部）** 「教員組織の編成方針」に基づき、教員に求める能力の明確化を図った上で、ＦＤ活動を積極的に推進する。 **「計画達成のための方策」** 1.ＦＤ 活動の一環として、毎年度「学生による授業評価、学修及び生活に関する実態調査」を実施し、授業内容・方法の改善・充実	**【年度計画 34】** 1.ＦＤ 活動の一環として、毎年度「学生による授業評価、学修及び生活に関する実態調査」を実施し、授業内容・方法の改善・充実	**【年度計画 34】** 1.同左	**【年度計画 34】** 1.同左	**【年度計画 34】** 1.同左	**【年度計画 34】** 1.同左

中　期　目　標	中　期　計　画	年　度　計　画				
		令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度
	及び教員の教育力の向上を図る。 **「評価指標」** ・「学生による授業評価、学修及び生活に関する実態調査」の実施結果状況 ・各部局毎の教員参加者数、アンケートの実施状況 2. 全教職員が一堂に会して、教員の事例発表及び意見交換を行う「東京医療保健大学を語る会」を毎年度開催し、学部・研究科におけるＦＤ活動 の推進を図る。 **「評価指標」** ・「東京医療保健大学を語る会」の開催状況及び各部局毎の教員参加者数、アンケートの実施状況 **○各学部・学科・研究科等** **【計画 35-1】㋐（医療保健学部看護学科）** 世界をリードする先進的研究の推進及び教育活用の在り方を検討する。 **「計画達成のための方策」** 年２回のＦＤ研修会又は毎月の学科会議において、成果をリードする先進的研究の推進及び教育活用の在り方について、対話・討議を行う。 **「評価指標」** ・先進的研究推進及び教育活用の在り方検討会の実施状況 年１回以上実施 **【計画 35-2】㋐（医療保健学部看護学科）** 教員が国際学会での発表や英文	及び教員の教育力の向上を図る。 **「評価指標」** ・「学生による授業評価、学修及び生活に関する実態調査」の実施結果状況 ・各部局毎の教員参加者数、アンケートの実施状況 2. 全教職員が一堂に会して、教員の事例発表及び意見交換を行う「東京医療保健大学を語る会」を毎年度開催し、学部・研究科におけるＦＤ活動 の推進を図る。 **「評価指標」** ・「東京医療保健大学を語る会」の開催状況及び各部局毎の教員参加者数、アンケートの実施状況 **【年度計画 35-1】** 年２回のＦＤ研修会又は毎月の学科会議において、成果をリードする先進的研究の推進及び教育活用の在り方について、対話・討議を行う。 **「評価指標」** ・先進的研究推進及び教育活用の在り方検討会の実施状況 年１回以上実施	**「評価指標」** ・同左 2. 同左 **「評価指標」** ・同左 **【年度計画 35-1】** 同左 **「評価指標」** ・同左	**「評価指標」** ・同左 2. 同左 **「評価指標」** ・同左 **【年度計画 35-1】** 同左 **「評価指標」** ・同左	**「評価指標」** ・同左 2. 同左 **「評価指標」** ・同左 **【年度計画 35-1】** 同左 **「評価指標」** ・同左	**「評価指標」** ・同左 2. 同左 **「評価指標」** ・同左 **【年度計画 35-1】** 同左 **「評価指標」** ・同左

中　期　目　標	中　期　計　画	年　度　計　画				
		令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度
	誌に論文投稿できるよう、教員に英語学習機会を提供する。 **「計画達成のための方策」** 1.ＦＤ委員会主催英語研修会を実施することとし、受講者の希望に合わせて継続的に開催し（年２回）、英語論文執筆を支えていく。 2.英語自主勉強会を実施することとして、年間20回ほど、1時間程度の英語の自主勉強会を継続する。 **「評価指標」** ・教員全員が５年のうち１回は英語研修に参加 ・教員全員が５年の間に１回は、国際学会（学術集会）に参加 **【計画 35-3】㋐（東が丘看護学部・看護学研究科）** 全学的ＦＤ委員会との調整の上、ＦＤ、ＳＤ活動を推進する **「計画達成のための方策」** 1.ＦＤマップに則した職員に FD研修の実施。 2.ＳＤの理解を深め全職員向けの全学的ＳＤの推進。 3.全学的ＳＤとして外部大学や地域との共催による活動。 4.社会的関心の高まりやホットイシューに関する研修会の開催。 5.電子版FDマップを活用し研修目標の達成度を確認。	**【年度計画 35-2】** 1.ＦＤ委員会主催英語研修会を実施することとし、受講者の希望に合わせて継続的に開催し（年２回）、英語論文執筆を支えていく。 2.英語自主勉強会を実施することとして、年間20回ほど、1時間程度の英語の自主勉強会を継続する。 **「評価指標」** ・教員全員が５年のうち１回は英語研修に参加 ・教員全員が５年の間に１回は、国際学会（学術集会）に参加 **【年度計画 35-3】** 1.ＦＤマップに則した職員にFD研修の実施。 2.ＳＤの理解を深め全職員向けの全学的ＳＤの推進。 3.全学的ＳＤとして外部大学や地域との共催による活動。 4.社会的関心の高まりやホットイシューに関する研修会の開催 5.本学との調整後、ＳＤマップの作成。 6.ＦＤマップの周知及び利活用に関する東が丘教職員へのアンケートの実施。 7.ＦＤマップの周知及び利活用	**【年度計画 35-2】** 同左 **「評価指標」** ・同左 **【年度計画　35-3】** 1.ＦＤ・ＳＤマップに則した職員にＦＤ研修の実施　。 2.ＳＤの理解を深め全職員向けの全学的ＳＤの推進。 3.全学的ＳＤとして外部大学や地域との共催による活動。 4.社会的関心の高まりやホットイシューに関する研修会の開催。 5.ＦＤ・ＳＤマップの周知および利活用に関する東が丘教職員へのアンケートの実施。 6.ＦＤ・ＳＤマップの周知および利活用に関する東が丘教職員	**【年度計画 35-2】** 同左 **「評価指標」** ・同左 **【年度計画 35-3】** 同左	**【年度計画 35-2】** 同左 **「評価指標」** ・同左 **【年度計画 35-3】** 同左	**【年度計画 35-2】** 同左 **「評価指標」** ・同左 **【年度計画 35-3】** 同左

中　期　目　標	中　期　計　画	年　度　計　画				
		令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度
		に関する東が丘教職員へのアンケートに基づく次年度課題の抽出および課題に対応したＦＤマップの運営方法検討。	へのアンケートに基づく次年度課題の抽出および課題に対応したＦＤマップの運営方法検討。			
	「評価指標」 ・ＦＤマップに則した職員の FD 研修の実施状況 ・ＳＤの理解を深め全職員向けの全学的ＳＤの推進状況 ・全学的ＳＤとして外部大学や地域との共催による活動状況 ・社会的関心の高まりやホットイシューに関する研修会の開催状況	**「評価指標」** ・ＦＤマップに則した職員に FD 研修の実施　4～6 回/年 ・ＳＤの理解を深め全職員向けの全学的ＳＤの推進(全学との連携研修開催　2 回程度/年) ・全学的ＳＤとして外部大学や地域との共催による活動　4～6 回/年 ・社会的関心の高まりやホットイシューに関する研修会の開催 1～2 回/年 ・本学との調整後、ＳＤマップの作成 ・FD マップの周知及び利活用に関する東が丘教職員へのアンケートの実施状況 ・ＦＤマップの周知および利活用に関する東が丘教職員へのアンケートに基づく次年度課題の抽出および課題に対応したＦＤマップの運営方法検討状況	**「評価指標」** ・ＦＤ・ＳＤマップに則した職員にＦＤ研修の実施　4～6 回/年 ・ＳＤの理解を深め全職員向けの全学的ＳＤの推進(全学との連携研修開催　2 回程度/年) ・全学的ＳＤとして外部大学や地域との共催による活動　4～6 回/年 ・社会的関心の高まりやホットイシューに関する研修会の開催 1～2 回/年 ・ＦＤ・ＳＤマップの周知及び利活用に関する東が丘教職員へのアンケートの実施状況 ・ＦＤ・ＳＤマップの周知及び利活用に関する東が丘教職員へのアンケートに基づく次年度課題の抽出及び課題に対応したＦＤマップの運営方法検討状況	**「評価指標」** ・同左	**「評価指標」** ・同左	**「評価指標」** 同左
	【計画 35-4】㋐(立川看護学部) 立川看護学部として、教員のＦＤ企画、競争的研究費獲得に向けた支援の実施等及び立川市への公開講座の実施等により地域連携を図る。 **「計画達成のための方策」** 1. 他学部のＦＤ企画にも積極的に参加できるように調整し、情報提供を行う。	**【年度計画 35-4】** 1. 学部単独のＦＤ企画。年間 3 回（Zoom 2 回、対面 1 回） 2. 他学部と共同のＦＤ企画。年間	**【年度計画 35-4】** 1. 学部単独のＦＤ企画。年間 3 回（Zoom 2 回、対面 1 回） 2. 他学部と共同のＦＤ企画。年間	**【年度計画 35-4】** 1. 学部単独のＦＤ企画。年間 3 回（Zoom 2 回、対面 1 回） 2. 他学部と共同のＦＤ企画。年間	**【年度計画 35-4】** 1. 学部単独のＦＤ企画。年間 3 回（Zoom 2 回、対面 1 回） 2. 他学部と共同のＦＤ企画。年間	**【年度計画 35-4】** 1. 学部単独のＦＤ企画。年間 2 回（Zoom 1 回、対面 1 回） 2. 他学部と共同のＦＤ企画。年間

中　期　目　標	中　期　計　画	年　度　計　画				
		令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度
	2.学外講師に依頼ができるように、ＦＤに関する予算（5万/年）を捻出する。 3.東が丘看護学部　ＦＤマップを参考に、ＦＤの企画・運営を行う。 4.公開講座の時期と内容等について立川市と検討する。 5.リサーチマップ登録・更新方法のガイドを紹介する。 6.リサーチマップの登録のメリットと方法に関するＦＤを開催する。 7.毎年度競争的研究費の受託件数を把握する。 8.科研費申請に向けたＦＤを企画し、毎年度内容を改善していく。 9.毎年２月ごろ次年度の「住民を対象とした活動」について各領域や委員会に活動を促すとともに、次年度の予定を確認する。 **「評価指標」** ・学部単独・他学部と共同のＦＤ企画状況 ・立川市民への公開講座実施状況 ・立川看護学部年報の作成と大学ＨＰ上への公開状況 ・自己点検・評価報告書（立川）の作成状況 ・立川看護学部教員の研究活動の支援状況 ・地域との連携状況 ・教員の学術集会発表及び論文投稿状況	2回（Zoom 2回） 3.立川市民への公開講座。年間１回（対面 1回） 4.立川看護学部年報の作成と大学ＨＰ上への公開。 5.自己点検・評価報告書（立川）の作成。 6.立川看護学部教員の研究活動を支援し、競争的研究費の獲得をサポートする。 7.地域と連携し、住民の健康増進に貢献する。 8.　教員の学会発表または論文投稿（いずれも共著含む）を推進する。 **「評価指標」** ・学部単独・他学部と共同のＦＤ企画状況 ・立川市民への公開講座実施状況 ・立川看護学部年報の作成と大学ＨＰ上への公開状況 ・自己点検・評価報告書（立川）の作成状況 ・立川看護学部教員の研究活動の支援状況 ・地域との連携状況 ・教員の学術集会発表及び論文投稿状況	3回（Zoom 3回） 3.学外講師によるＦＤ企画。年間1回（対面 1回） 4.立川市民への公開講座。年間2回（対面 2回） 5.立川看護学部年報の作成と大学ＨＰ上への公開。 6.自己点検・評価報告書（立川）の作成。 7.立川看護学部教員の研究活動を支援し、競争的研究費の獲得をサポートする。 8.地域と連携し、住民の健康増進に貢献する。 9.　教員の学会発表または論文投稿（いずれも共著含む）を推進する。 **「評価指標」** ・同左	3回（Zoom 2回） 3.学外講師によるＦＤ企画。年間2回（Zoom 1回、対面 1回） 4.立川市民への公開講座。年間2回（対面 2回） 5.立川看護学部年報の作成と大学ＨＰ上への公開。 6.自己点検・評価報告書（立川）の作成。 7.立川看護学部教員の研究活動を支援し、競争的研究費の獲得をサポートする。 8.地域と連携し、住民の健康増進に貢献する。 9.　教員の学会発表または論文投稿（いずれも共著含む）を推進する。 **「評価指標」** ・同左	3回（Zoom 2回） 3.学外講師によるＦＤ企画。年間2回（Zoom 1回、対面 1回） 4.立川市民への公開講座。年間2回（対面 2回） 5.立川看護学部年報の作成と大学ＨＰ上への公開。 6.自己点検・評価報告書（立川）の作成。 7.立川看護学部教員の研究活動を支援し、競争的研究費の獲得をサポートする。 8.地域と連携し、住民の健康増進に貢献する。 9.　教員の学会発表または論文投稿（いずれも共著含む）を推進する。 **「評価指標」** ・同左	3回（Zoom 2回） 3.学外講師によるＦＤ企画。年間2回（Zoom 1回、対面 1回） 4.立川市民への公開講座。年間2回（対面 2回） 5.立川看護学部年報の作成と大学ＨＰ上への公開。 6.自己点検・評価報告書（立川）の作成。 7.立川看護学部教員の研究活動を支援し、競争的研究費の獲得をサポートする。 8.地域と連携し、住民の健康増進に貢献する。 9.　教員の学会発表または論文投稿（いずれも共著含む）を推進する。 **「評価指標」** ・同左

中　期　目　標	中　期　計　画	年　度　計　画				
		令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度
	【計画 35-5】（千葉看護学部） ＤＰを可能とする質の保証された教育を、継続的・発展的に行うため、社会のニーズにも対応した教員のＦＤ 活動を積極的に推進する。 **「計画達成のための方策」** １.若手教員を対象とした基礎的ＦＤの実施。 教育経験の浅い教員を対象とした大学教員としての基礎的な教育観とスキルを養う研修を行う。 **「評価指標」** ・若手教員を対象とした基礎的ＦＤの実施状況 2.学部全体での情報共有の会の開催。 学部全体の教育・研究・学内外活動について総合的に情報共有をすることを意図したＦＤ研修を行い、教育・研究能力向上に向けた相互の学びを深めるとともに、大学・学部のＤＰ達成に向けての課題検討の基盤を構築する。 **「評価指標」** ・学部全体での情報共有の会開催状況 3.テーマに基づくＦＤ研修会開催。 過去のＦＤ研修の評価や、時々のトピックスを反映させた講演・グループディスカッションによるＦＤ研修を行い、社会のニーズに応じた教育・研究能力の向上を図る。	**【年度計画 35-5】** １．若手教員を対象とした基礎的ＦＤの実施。 若手教員を対象とした基礎的ＦＤ研修プログラムを作成し研修会を開催する。（年２回） **「評価指標」** ・若手教員を対象とした基礎的ＦＤの実施状況 2.学部全体での情報共有の会の開催。 年度末に主として情報交換を目的とした全体ＦＤ研修会を開催する。 **「評価指標」** ・学部全体での情報共有の会開催状況 3.　テーマに基づくＦＤ研修会開催。 夏季及び春季に当該年度ごとの課題解決に関連したテーマに基づく全体ＦＤ研修会を開催する。	**【年度計画 35-5】** １．若手教員を対象とした基礎的ＦＤの実施。 若手教員を対象とした基礎的ＦＤ研修会を開催する。（年２回） **「評価指標」** ・同左 2.学部全体での情報共有の会の開催。 同左 **「評価指標」** ・同左 3.　テーマに基づくＦＤ研修会開催。 同左	**【年度計画 35-5】** １．若手教員を対象とした基礎的ＦＤの実施。 同左（対象がある場合）（年回） **「評価指標」** ・同左 2.学部全体での情報共有の会の開催。 同左 **「評価指標」** ・同左 3.　テーマに基づくＦＤ研修会開催。 同左	**【年度計画 35-5】** １．若手教員を対象とした基礎的ＦＤの実施。 同左 **「評価指標」** ・同左 2.学部全体での情報共有の会の開催。 同左 **「評価指標」** ・同左 3.　テーマに基づくＦＤ研修会開催。 同左	**【年度計画 35-5】** １．若手教員を対象とした基礎的ＦＤの実施。 同左 **「評価指標」** ・同左 2.学部全体での情報共有の会の開催。 同左 **「評価指標」** ・同左 3.　テーマに基づくＦＤ研修会開催。 同左

中　期　目　標	中　期　計　画	年　度　計　画				
		令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度
	「評価指標」 ・テーマに基づくＦＤ研修会開催状況 **【計画 35-6】（和歌山看護学部）** 教員の資質及びＤＰ実現に向けた教育力向上を目指して教員のＦＤ 活動を積極的に推進する。 **「水準達成のための方策」** 1. 新採用教員と教育経験の浅い教員を対象としたＦＤの実施。 ①教育経験の浅い教員に対して大学教員としての基礎的な教育観とスキルを養う研修を行う。 ②新採用教員に対して学部の特徴とＤＰの理解を図る研修及び教育観の共有を図る研修を行う。 **「評価指標」** ・教育経験の浅い教員を対象としたＦＤの実施状況 ・新採用教員を対象としたＦＤの実施状況 ・新採用教員の研修及び、教育観や教育方法についての共有ＦＤの実施状況 2. 教育・研究・社会活動を教職員が共有するＦＤの実施。 ①学生教育に関する意見交換会の実施。 ②研究活動、社会活動に関する情報共有の実施。 **「評価指標」** ・意見交換会・情報共有会の実施状況 3. 教育・研究能力の向上を図る	**「評価指標」** ・テーマに基づくＦＤ研修会開催状況 **【年度計画 35-6】** 1. 新採用教員と教育経験の浅い教員を対象としたＦＤの実施。 ①教育経験の浅い教員を対象としたＦＤ研修プログラムを作成し研修会を開催する。（年２回） ②新採用教員を対象としたＦＤ研修プログラムを作成し研修会を開催する。（年１回） **「評価指標」** ・教育経験の浅い教員を対象としたＦＤの実施状況 ・新採用教員を対象としたＦＤの実施状況 ・新採用教員の研修及び、教育観や教育方法についての共有ＦＤの実施状況 2. 教育・研究・社会活動を教職員が共有するＦＤの実施。 ①学生教育に関する意見交換会の実施。 ②研究活動、社会活動に関する情報共有の実施。 （上記合わせて年１回） **「評価指標」** ・意見交換会・情報共有会の実施状況 3. 教育・研究能力の向上を図るＦ	**「評価指標」** ・同左 **【年度計画 35-6】** 1. 同左（対象に応じて開催回数を調整） **「評価指標」** ・同左 2. 同左 テーマを決めて実施 **「評価指標」** ・同左 3. 同左	**「評価指標」** ・同左 **【年度計画 35-6】** 1. 同左（対象に応じて開催回数を調整） **「評価指標」** ・同左 2. 同左 テーマを決めて実施 **「評価指標」** ・同左 3. 同左	**「評価指標」** ・同左 **【年度計画 35-6】** 1. 同左（対象に応じて開催回数を調整） **「評価指標」** ・同左 2. 同左 テーマを決めて実施 **「評価指標」** ・同左 3. 同左	**「評価指標」** ・同左 **【年度計画 35-6】** 1. 同左（対象に応じて開催回数を調整） **「評価指標」** ・同左 2. 同左 テーマを決めて実施 **「評価指標」** ・同左 3. 同左

中　期　目　標	中　期　計　画	年　度　計　画				
		令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度
	ＦＤを実施する。 **「評価指標」** ・ＦＤの実施状況 **【計 35-7】㋐（大学院医療保健学研究科）** 教員自らの専門性を究めていくことができるよう、必要な学会・研修会に参加できる調整を行う。職位に関わらず、一人年２回の学術集会参加ができるよう、各領域内で調整を行う。 **「計画達成のための方策」** 研究レベルに裏付けられた大学院での人材育成を推進する。 1. 体系的なカリキュラムの構築。 2. 学部・大学院の一貫教育の導入。 3. 国際会議発表の推進。 4. 産学連携･地域連携による共同研究の推進。 **「評価指標」** ・学術集会参加　一人年２回 **【計画 35-8】㋐（大学院千葉看護学研究科）** 大学院における教職員の教育力の開発推進。 **「計画達成のための方策」** 日々の教育活動に関する情報共有を行うとともに、課題を整理し、研究指導を含めた教育力、大学院での活動を通しての地域貢献力について、研修を実施することで、その向上を図る。	Ｄを実施する。 **「評価指標」** ・ＦＤの実施状況 **【年度計画 35-7】** 研究レベルに裏付けられた大学院での人材育成を推進する。 1. 体系的なカリキュラムの構築。 2. 学部・大学院の一貫教育の導入。 3. 国際会議発表の推進。 4. 産学連携・地域連携による共同研究の推進。 **「評価指標」** ・学術集会参加　一人年２回 **【年度計画 35-8】** 大学院担当教員/職員を対象とした情報交換/研修会を、年 2 回開催する。 うち１回は他研究科との合同研修とする。 主たるテーマは情報共有とする。	**「評価指標」** ・同左 **【年度計画 35-7】** 同左 **「評価指標」** ・同左 **【年度計画 35-8】** 同左 主たるテーマを、実装的な研究とその支援とする。	**「評価指標」** ・同左 **【年度計画 35-7】** 同左 **「評価指標」** ・同左 **【年度計画 35-8】** 同左 主たるテーマは、研究成果から見いだされた地域貢献とその発展①とする。	**「評価指標」** ・同左 **【年度計画 35-7】** 同左 **「評価指標」** ・同左 **【年度計画 35-8】** 同左 主たるテーマは、研究成果から見いだされた地域貢献とその発展①とする。	**「評価指標」** ・同左 **【年度計画 35-7】** 同左 **「評価指標」** ・同左 **【年度計画 35-8】** 同左 主たるテーマは、前年度までの活用により見いだされた課題に応じるものとする。

中　期　目　標	中　期　計　画	年　度　計　画				
		令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度
	「評価指標」 ・大学院における教職員の教育力の開発状況 **【計画 35-9】㋐（大学院和歌山看護学研究科）** 研究科を担当する教員の教育･研究指導能力の向上を図り､学生の学びの質を保証する教育方法の開発と教職員体制の充実を図る。 **「計画達成のための方策」** 1.　大学院における教育・研究能力開発のためのＦＤ研修を実施し、その向上を図る。 **「評価指標」** ・研修会開催回数、授業評価、研究発表・投稿状況 2.　ＤＰを実現するための学部専門領域を横断的にした研究領域の編成を継続する。 **「評価指標」** 研究領域担当教員が複数の学部での専門性を持つ教員の編成状況 3.　研究継続により研究能力の維持向上を図る。 **「評価指標」** 研究発表・投稿状況 **【計画 35-10】㋐（助産学専攻科）** 教員としての自己研鑽を図る。 **「計画達成のための方策」** 1. ＦＤ研修会の開催。 2. 全助教などの教育団体での研	**「評価指標」** ・大学院における教職員の教育力の開発状況 **【年度計画 35-9】** 1.　大学院担当教員を対象とした研修会を、年２回開催する。うち１回は他研究科との合同研修とする。 **「評価指標」** ・研修会開催回数、授業評価、研究発表・投稿状況 2. 教員の異動時に､研究領域の担当教員が学部の多様な専門領域で編成するよう配慮する。 **「評価指標」** 研究領域担当教員が複数の学部での専門性を持つ教員の編成状況 3.　研究継続により研究能力の維持向上を図る。 **「評価指標」** 研究発表・投稿状況 **【年度計画 35-10】** 1. ＦＤ研修会の開催。 2. 全助教などの教育団体での研	**「評価指標」** ・同左 **【年度計画 35-9】** 同左 **「評価指標」** ・同左 2.　同左 **「評価指標」** 同左 3.　同左 **「評価指標」** 同左 **【年度計画 35-10】** 1. ＦＤ研修会の開催。 2. 全助教などの教育団体での研	**「評価指標」** ・同左 **【年度計画 35-9】** 同左 **「評価指標」** ・同左 2.　同左 **「評価指標」** 同左 3.　同左 **「評価指標」** 同左 **【年度計画 35-10】** 同左	**「評価指標」** ・同左 **【年度計画 35-9】** 同左 **「評価指標」** ・同左 2.　同左 **「評価指標」** 同左 3.　同左 **「評価指標」** 同左 **【年度計画 35-10】** 同左	**「評価指標」** ・同左 **【年度計画 35-9】** 同左 **「評価指標」** ・同左 2.　同左 **「評価指標」** 同左 3.　同左 **「評価指標」** 同左 **【年度計画 35-10】** 同左

中　期　目　標	中　期　計　画	年　度　計　画				
		令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度
	修参加。 3.領域内の研修会・勉強会の企画・開催。 4.ＣＢＴ・ＯＳＣＥの実施のための勉強会の開催。 5.裂傷縫合・経腹エコーの技術の教育のための自己研鑽の実施。 **「評価指標」** ・自己研鑽のための研修等の参加状況 **【計画 35-11】㋐(和歌山助産学専攻科)** 助産学を教授する教員の能力向上に務める。 **「計画達成のための方策」** 全国助産師教育協議会への参加、地方部会での役割遂行を通して、助産学を教授する教員の能力向上に務める。 **「評価指標」** ・全国助産師教育協議会主催総会・研修会等への参加状況 **【計画 35-12】㋐(産後ケア研究センター)** 産後ケアの実際に触れ、地域における母子支援の在り方を探求し、実際のケアを提供するともに研究的な取組を行うため、教員としての自己研鑽を図る。 **「計画達成のための方策」** 1.品川区への報告書の作成。 2.電話相談・訪問、訪問型、日帰り型への参画。 3.地域での育児クラス開催（対	修参加。 3.領域内の研修会・勉強会の企画・開催。 4.ＣＢＴ・ＯＳＣＥの実施のための勉強会の開催。 5.裂傷縫合・経腹エコーの技術の教育のための自己研鑽の実施。 **「評価指標」** ・自己研鑽のための研修等の参加状況 **【年度計画 35-11】** 全国助産師教育協議会主催総会・研修会等に１名が１回以上の参加と専攻科内の情報共有を行う。 **「評価指標」** ・全国助産師教育協議会主催総会・研修会等への参加状況 **【年度計画 35-12】** 1.品川区への報告書の作成。 2.電話相談・訪問、訪問型、日帰り型への参画。 3.地域での育児クラス開催（対	修参加。 3.領域内の研修会・勉強会の企画・開催。 4.ＣＢＴ・ＯＳＣＥの実施のための勉強会の開催。 5.裂傷縫合・経腹エコーの技術の教育のための自己研鑽の実施。 **「評価指標」** ・自己研鑽のための研修等の参加状況 **【年度計画 35-11】** 同左 **「評価指標」** ・同左 **【年度計画 35-12】** 同左	**「評価指標」** ・同左 **【年度計画 35-11】** 同左 **「評価指標」** ・同左 **【年度計画 35-12】** 同左	**「評価指標」** ・同左 **【年度計画 35-11】** 同左 **「評価指標」** ・同左 **【年度計画 35-12】** 同左	**「評価指標」** ・同左 **【年度計画 35-11】** 同左 **「評価指標」** ・同左 **【年度計画 35-12】** 同左

中　期　目　標	中　期　計　画	年　度　計　画				
		令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度
	面、オンラインなど)。 4.産後ケア研究センターにおける研修会･ブラッシュアップ研修の企画・運営・評価。 5.学生実習の受け入れとその運営・評価。 6.実践するケアの質および技術の教育の向上を図る。 **「評価指標」** ・ＦＤ研修及び自己研鑽状況	面、オンラインなど)。 4.産後ケア研究センターにおける研修会・ブラッシュアップ研修の企画・運営・評価。 5.学生実習の受け入れとその運営・評価。 6.実践するケアの質および技術の教育の向上を図る。 **「評価指標」** ・ＦＤ研修及び自己研鑽状況	**「評価指標」** ・同左	**「評価指標」** ・同左	**「評価指標」** ・同左	**「評価指標」** ・同左
(3)教員の研究成果を積極的に公開し､世界の平和や科学技術の発展等に貢献する。	**【計画 36】(研究協力部)** 学術論文､研究論文等を積極的にジャーナル等に投稿するとともに､「東京医療保健大学紀要」への投稿についても積極的に行うよう奨励する。 **「計画達成のための方策」** 学術論文､研究論文等を積極的にジャーナル等に投稿するとともに､「東京医療保健大学紀要」への投稿についても積極的に行うよう奨励する｡また紀要に対する社会からの信頼に応えるため､紀要の投稿論文について学内の教員による査読に加え､学外の有識者に査読を依頼し､その評価等を踏まえて 投稿原稿の採否・修正の指示決定を行う。 **「評価指標」** ・ジャーナル等への投稿及び「東京医療保健大学紀要」への論文の投稿数	**【年度計画 36】** 学術論文、研究論文等を積極的にジャーナル等に投稿するとともに､「東京医療保健大学紀要」への投稿についても積極的に行うよう奨励する。また紀要に対する社会からの信頼に応えるため、紀要の投稿論文について学内の教員による査読に加え、学外の有識者に査読を依頼し、その評価等を踏まえて 投稿原稿の採否・修正の指示決定を行う。 **「評価指標」** ・ジャーナル等への投稿及び「東京医療保健大学紀要」への論文の投稿数	**【年度計画 36】** 同左 **「評価指標」** ・同左	**【年度計画 36】** 同左 **「評価指標」** ・同左	**【年度計画 36】** 同左 **「評価指標」** ・同左	**【年度計画 36】** 同左 **「評価指標」** ・同左
(4)教員の資質向上及び教育研究の活性化を図るため､教員の教育研究活動等の評価を実施し処遇	**【計画 37】(総務人事部)** 教員の教育研究活動等の実績･成果について、教員個々の「教育活					

中　期　目　標	中　期　計　画	年　度　計　画				
		令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度
等に反映させる。	動」、「研究活動」、「学内外活動」の各項目について、学長及び各学科長等による全学的な評価システムにおいて評価を実施し処遇等に反映させる。 **「計画達成のための方策」** 1. 教員の授業参観を行って評価を行う等ピアレビュー（同僚評価）の取組を推進する。また、最先端の医療技術に関する講習会、他の機関・団体 等が開催するＦＤ 関係の研修会・セミナー及び学会等への積極的な参加 （研究発表等を含む）を奨励するとともに、学内運営の各種委員会委員、本学主催の公開講座等の講師の委嘱等の活動について評価を実施する。 **「評価指標」** ・教員のピアレビュー（同僚評価）等の評価及び処遇への反映状況 2. 評価結果の処遇等への反映方策として「教育活動」、「研究活動」、「学内外活動」の各項目の業績が特に顕著であると認められる教員に対し教員表彰を行うとともに、表彰を受賞した教員のうち業績が特に顕著な教員 に対してインセンティブを付与するため特別教育研究経費を配分する。 **「評価指標」** ・教員表彰の実施状況及び特別教育研究経費の配分状況	**「年度計画 37」** 1. 教員の授業参観を行って評価を行う等ピアレビュー（同僚評価）の取組を推進する。また、最先端の医療技術に関する講習会、他の機関・団体 等が開催するＦＤ 関係の研修会・セミナー及び学会等への積極的な参加 （研究発表等を含む）を奨励するとともに、学内運営の各種委員会委員、本学主催の公開講座等の講師の委嘱等の活動について評価を実施する。 **「評価指標」** ・教員のピアレビュー（同僚評価）等の評価及び処遇への反映状況 2. 評価結果の処遇等への反映方策として「教育活動」、「研究活動」、「学内外活動」の各項目の業績が特に顕著であると認められる教員に対し教員表彰を行うとともに、表彰を受賞した教員のうち業績が特に顕著な教員 に対してインセンティブを付与するため特別教育研究経費を配分する。 **「評価指標」** ・教員表彰の実施状況及び特別教育研究経費の配分状況	**「年度計画 37」** 1. 同左 **「評価指標」** ・同左 2. 同左 **「評価指標」** ・同左	**「年度計画 37」** 1. 同左 **「評価指標」** ・同左 2. 同左 **「評価指標」** ・同左	**「年度計画 37」** 1. 同左 **「評価指標」** ・同左 2. 同左 **「評価指標」** ・同左	**「年度計画 37」** 1. 同左 **「評価指標」** ・同左 2. 同左 **「評価指標」** ・同左

東京医療保健大学　第３期中期目標・計画（令和４年度～令和８年度）

中　期　目　標	中　期　計　画	年　度　計　画				
		令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度
7. 学生支援 本学の建学の精神・教育目標に基づき、学生が卒業後自らの資質を向上させ、社会的及び職業的自立を図るために必要な能力を培うことができるよう、全学が連携して学生に対する修学、生活、進路（就職活動等）を総合的に支援する環境を整備し、適切に学生支援を実施する。	**7. 学生支援** 学生支援の実施においては、「学生支援に関する基本方針」に基づき、全学が連携し総合的に実施するとともに、その適切性について定期的に点検・評価及び検証を行い、その結果を踏まえて学生支援センターの機能の充実を図る。 **【計画 38】（学生支援センター）** 修学支援を適切に実施する。 **「計画達成のための方策」** 1. 学生に対するガイダンス機能のさらなる充実を図るとともに、学生が修学する上で必要な情報を提供し、適切な支援を行えるよう、各学科教員、事務局が緊密に連携を図る。 2. 成績優秀な学生については、本学独自のスカラシップ制度に基づき、授業料の減免措置による経済支援を行う。 3. 経済的な理由で学生が修学をあきらめることがないよう、日本学生支援機構の奨学金をはじめとした各種奨学金の情報を広く収集して確実に周知するとともに、個別事情の相談をしやすい体制を作り、適切に支援をしていく。 4. 障がいのある学生の修学等の支援は「障がい学生修学支援規程」に基づき、関係部署・教職員が連携して適切に支援する。	**【年度計画 38】** 1. 学生に対するガイダンス機能のさらなる充実を図るとともに、学生が修学する上で必要な情報を提供し、適切な支援を行えるよう、各学科教員、事務局が緊密に連携を図る。 2. 成績優秀な学生については、本学独自のスカラシップ制度に基づき、授業料の減免措置による経済支援を行う。 3. 経済的な理由で学生が修学をあきらめることがないよう、日本学生支援機構の奨学金をはじめとした各種奨学金の情報を広く収集して確実に周知するとともに、個別事情の相談をしやすい体制を作り、適切に支援をしていく。 4. 障がいのある学生の修学等の支援は「障がい学生修学支援規程」に基づき、関係部署・教職員が連携して適切に支援する。更に個人情報に十分配慮した上で、学	**【年度計画 38】** 1. 同左 2. 同左 3. 同左 4. 障がいのある学生の修学等の支援は「障がい学生修学支援規程」に基づき、関係部署・教職員が連携して適切に支援する。更に「障がい学生支援」をより適切に	**【年度計画 38】** 1. 同左 2. 同左 3. 同左 4. 障がいのある学生の修学等の支援は「障がい学生修学支援規程」に基づき、関係部署・教職員が連携して適切に支援する。更に「障がい学生支援室」（仮称）の設	**【年度計画 38】** 1. 同左 2. 同左 3. 同左 4. 障がいのある学生の修学等の支援は「障がい学生修学支援規程」に基づき、関係部署・教職員が連携して適切に支援する。 「障がい学生支援室」（仮称）を設	**【年度計画 38】** 1. 同左 2. 同左 3. 同左 4. 障がいのある学生の修学等の支援は「障がい学生修学支援規程」に基づき、関係部署・教職員が連携して適切に支援する。

中　期　目　標	中　期　計　画	年　度　計　画				
		令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度
		内で「障がい学生支援」の状況を定期的に共有し、全学で支援の知見を深めていく。	行うために「障がい学生支援」の専任担当者を育成する。	置を検討する。 .	置する。	
	「評価指標」 ・在学生アンケートの実施と満足度向上の状況	**「評価指標」** ・アンケート内容を精査した上でのアンケートの実施の状況	**「評価指標」** ・満足度及びアンケート回収率の前年比向上の状況	**「評価指標」** ・同左	**「評価指標」** ・同左	**「評価指標」** ・同左
	【計画 39】（学生支援センター） 生活支援を適切に実施する。 **「計画達成のための方策」** 1. 心身の健康維持・増進及び安全・衛生に関する最新情報の適切な周知徹底を図るとともに、保健室においては日常的な病気・ケガの応急措置、健康相談等に適切に対処する。 2. メンタルケアの必要な学生が「学生相談室」に気軽に相談し、適切に支援できるよう、学生及び教員へのさらなる周知を図る。 3.「ハラスメントに関する取扱細則」に基づきハラスメントに関する苦情の申し出及び相談に対して、人権倫理委員会及び相談窓口、相談員を設置して適切に対処する。合わせて学生に「ハラスメント防止のためのガイドブック」を配布する。 4. 女子学生寮（3 寮、定員 198 名）において学生が社会性や協調性を身につけ健康で自立した学生生活を送ることができる安全、安心な環境を維持し、寮生の生活支援を適切に行う。 **「評価指標」** ・在学生アンケートの実施と満足度向上の状況	**【年度計画 39】** 1. 心身の健康維持・増進及び安全・衛生に関する最新情報の適切な周知徹底を図るとともに、保健室においては日常的な病気・ケガの応急措置、健康相談等に適切に対処する。 2. メンタルケアの必要な学生が「学生相談室」に気軽に相談し、適切に支援できるよう、学生及び教員へのさらなる周知を図る。 3.「ハラスメントに関する取扱細則」に基づきハラスメントに関する苦情の申し出及び相談に対して、人権倫理委員会及び相談窓口、相談員を設置して適切に対処する。合わせて学生に「ハラスメント防止のためのガイドブック」を配布する。 4. 女子学生寮（3 寮、定員 198 名）において学生が社会性や協調性を身につけ健康で自立した学生生活を送ることができる安全、安心な環境を維持し、寮生の生活支援を適切に行う。 **「評価指標」** ・アンケート内容を精査した上でのアンケートの実施の状況	**【年度計画 39】** 1. 同左 2. 同左 3. 同左 4. 同左 **「評価指標」** ・満足度及びアンケート回収率の前年比向上の状況	**【年度計画 39】** 1. 同左 2. 同左 3. 同左 4. 同左 **「評価指標」** ・同左	**【年度計画 39】** 1. 同左 2. 同左 3. 同左 4. 同左 **「評価指標」** 同左	**【年度計画 39】** 1. 同左 2. 同左 3. 同左 4. 同左 **「評価指標」** ・同左

中　期　目　標	中　期　計　画	年　度　計　画				
		令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度
	【計画 40】（学生支援センター） 進路支援を適切に実施する。 **「計画達成のための方策」** 1. 学生が卒業後自らの資質を向上させ、社会的及び職業的自立を図り、幅広い職業意識の形成を図ることを目的として、社会の第一線で活躍する企業人を講師に招くなどのキャリア教育の充実と企業体験などの就職活動支援とのさらなる連携を図る。 2. 進路、就職活動に関する支援のため、個人面接、進路・就職総合ガイダンス、各種就職支援講座、先輩との交流イベント（先輩の話を聞く会、卒業生との交流会など）、病院説明会、企業研究キャリア講座の実施のほか、求人情報をはじめとする就職活動に関する各種情報提供を適切に実施し、進路選択及び就職の支援を推進する。 3. 就職先が多岐にわたる医療栄養学科、医療情報学科の学生の能力・適性を活かせる就職先採用情報を継続的に収集し学生に提供する。 4. 卒業生の就職先に対して、新入職者に対して期待する能力や入職している本学卒業生に対する評価を確認する「就職先アンケート」を継続的に実施することで、採用側が望む能力・適性等を正確に把握し、教育改善とより適切な就職支援に役立てていく。 5. 就職活動に関する情報共有や	**【年度計画 40】** 1. 学生が卒業後自らの資質を向上させ、社会的及び職業的自立を図り、幅広い職業意識の形成を図ることを目的として、社会の第一線で活躍する企業人を講師に招くなどのキャリア教育の充実と企業体験などの就職活動支援とのさらなる連携を図る。 2. 進路、就職活動に関する支援のため、個人面接、進路・就職総合ガイダンス、各種就職支援講座、先輩との交流イベント（先輩の話を聞く会、卒業生との交流会など）、病院説明会、企業研究キャリア講座の実施のほか、求人情報をはじめとする就職活動に関する各種情報提供を適切に実施し、進路選択及び就職の支援を推進する。 3. 就職先が多岐にわたる医療栄養学科、医療情報学科の学生の能力・適性を活かせる就職先採用情報を継続的に収集し学生に提供する。 4. 卒業生の就職先に対して、新入職者に対して期待する能力や入職している本学卒業生に対する評価を確認する「就職先アンケート」を継続的に実施することで、採用側が望む能力・適性等を正確に把握し、教育改善とより適切な就職支援に役立てていく。 5. 就職活動に関する情報共有や	**【年度計画 40】** 1. 同左 2. 同左 3. 同左 4. 同左 5. 同左	**【年度計画 40】** 1. 同左 2. 同左 3. 同左 4. 同左 5. 同左	**【年度計画 40】** 1. 同左 2. 同左 3. 同左 4. 同左 5. 同左	**【年度計画 40】** 1. 同左 2. 同左 3. 同左 4. 同左 5. 同左

中　期　目　標	中　期　計　画	年　度　計　画				
		令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度
	個別学生の課題対応を目的に各学部･学科の特性に応じて保護者対象の就職説明会を開催する。 **「評価指標」** ・就職希望者の就職率について、過年度生を含めて全学での就職率 100%を目指す。 **【計画 41】（学生支援センター）** 学部卒業生への支援を適切に実施する。 **「計画達成のための方策」** 1. 学部卒業生を対象とした本学ホームページ内の「卒業生相談窓口」、「住所変更・改姓届」をはじめとした卒業生サイトの拡充により、卒業生への情報発信、支援体制の整備･拡充を図ることで閲覧率の向上を図るとともに､卒業生に対しても継続して適切な支援を行っていく。 2. 学部卒業生の卒業後の状況を把握するとともに､教育課程の改善､在学生の就職支援にも役立てるべく「卒業生アンケート」を継続的に実施する。 3. 同窓会の組織運営及び会員拡充のための活動を適切に支援する。 **「評価指標」** ・卒業生アンケートの実施と回収率の向上の状況 （注）令和２年度：22.1%	個別学生の課題対応を目的に各学部・学科の特性に応じて保護者対象の就職説明会を開催する。 **「評価指標」** ・当年度生（過年度生を除く）の就職率：100% （注）20 年度卒業生就職率 当年度生：99.2% 全卒業生：98.6% **【年度計画 41】** 1. 学部卒業生を対象とした本学ホームページ内の「卒業生相談窓口」、「住所変更・改姓届」をはじめとした卒業生サイトの拡充により、卒業生への情報発信、支援体制の整備・拡充を図ることで閲覧率の向上を図るとともに､、卒業生に対しても継続して適切な支援を行っていく。 2. 学部卒業生の卒業後の状況を把握するとともに、教育課程の改善、在学生の就職支援にも役立てるべく「卒業生アンケート」を継続的に実施する。 3. 同窓会の組織運営及び会員拡充のための活動を適切に支援する。 **「評価指標」** ・卒業生アンケート回収率の前年度比向上の状況 （注）令和２年度：22.1%	**「評価指標」** ①当年度生（過年度生を除く）の就職率：100% ②全卒業生（過年度生を含む）の就職率：99.5% **【年度計画 41】** 1. 同左 2. 同左 3. 同左 **「評価指標」** ・同左	**「評価指標」** ①当年度生（過年度生を除く）の就職率：100% ②全卒業生（過年度生を含む）の就職率：100% **【年度計画 41】** 1. 同左 2. 同左 3. 同左 **「評価指標」** ・同左	**「評価指標」** ・同左 **【年度計画 41】** 1. 同左 2. 同左 3. 同左 **「評価指標」** ・同左	**「評価指標」** ・同左 **【年度計画 41】** 1. 同左 2. 同左 3. 同左 **「評価指標」** ・同左

中　期　目　標	中　期　計　画	年　度　計　画				
		令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度
	【計画 42】（学生支援センター） 保護者との連携強化を推進する。 **「計画達成のための方策」** 本学後援会総会に合わせて教育懇談会を開催する。教育懇談会では、学部等における教育状況等を保護者に報告するとともに、理事長・学長等との意見交換を行う機会を設けることにより、本学の教育活動の現状を理解し協力していただくとともに、保護者との連携強化に役立てる。 **「評価指標」** ・教育懇談会の実施と出席者の状況	**【年度計画 42】** 本学後援会総会に合わせて教育懇談会を開催する。教育懇談会では、学部等における教育状況等を保護者に報告するとともに、理事長・学長等との意見交換を行う機会を設けることにより、本学の教育活動の現状を理解し協力していただくとともに、保護者との連携強化に役立てる。 **「評価指標」** ・教育懇談会の実施と出席者数の状況	**【年度計画 42】** 同左 **「評価指標」** ・同左	**【年度計画 42】** 同左 **「評価指標」** ・同左	**【年度計画 42】** 同左 **「評価指標」** ・同左	**【年度計画 42】** 同左 **「評価指標」** ・同左
	【計画 43】㋐（学生支援センター） 学生支援センターが担う業務や主管行事の取り組み内容等を点検・評価しつつ、継続的に改善を図る。 **「計画達成のための方策」** 学生支援センター全職員が各自「改善提言」を検討し、改善計画シートを作成した上で、センターとして実行可能な提案を検討し、実行する。また、実行した取組は、次年度「評価レポート」を作成し、次年度以降の改善等に活用する。 **「評価指標」** ・改善提案、提案の実行及び次年度以降の改善の取組状況	**【年度計画 43】** 学生支援センター全職員が各自「改善提言」を検討し、改善計画シートを作成した上で、センターとして実行可能な提案を検討し、実行する。また、実行した取組は、次年度「評価レポート」を作成し、次年度以降の改善等に活用する。 **「評価指標」** ・改善提案、提案の実行及び次年度以降の改善の取組状況	**【年度計画 43】** 同左 **「評価指標」** ・同左	**【年度計画 43】** 同左 **「評価指標」** ・同左	**【年度計画 43】** 同左 **「評価指標」** ・同左	**【年度計画 43】** 同左 **「評価指標」** ・同左

東京医療保健大学　第３期中期目標・計画（令和４年度～令和８年度）

中　期　目　標	中　期　計　画	年　度　計　画				
		令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度
8.教育研究等環境 (1)本学の理念・目的を達成し教育研究等を円滑に遂行するため、必要な施設・設備の整備を図る。	**8.教育研究等環境** **【計画44-1】（総務人事部）** ポストコロナに向け、各学部・研究科等における教育研究組織の整備・充実に配慮した適切な施設・設備について、計画的な整備を図るとともに、教育研究等の環境整備について、その適切性について点検・評価、検証を行い、その結果を改善に反映させる。 **【計画達成のための方策】** 「環境整備に関する実施計画」に基づき計画的な整備を図るとともに、「学生の学修・研究及び生活実態調査」結果などを踏まえて、その適切性について点検・評価、検証を行う。 **【評価指標】** ・「環境整備に関する実施計画」に基づく施設・設備の整備状況及び点検・評価、検証の状況 **【計画44-2】（総務人事部）** ポストコロナに向け、「環境整備に関する実施計画」に基づき、教育研究等を支援する環境等の整備・充実を図る。 **【計画達成のための方策】** 1.各キャンパス校舎においてはバリアフリーに配慮した施設・設備の改修を推進する。 2.各キャンパスの施設・設備の維持管理は、法令に基づき適切に行うとともに施設・設備の老朽化対	**【年度計画 44-1】** 「環境整備に関する実施計画」に基づき計画的な整備を図るとともに、「学生の学修・研究及び生活実態調査」結果などを踏まえて、その適切性について点検・評価、検証を行う。 **【評価指標】** ・「環境整備に関する実施計画」に基づく施設・設備の整備状況及び点検・評価、検証の状況 **【年度計画 44-2】** 1.各キャンパス校舎においてはバリアフリーに配慮した施設・設備の改修を推進する。 2.各キャンパスの施設・設備の維持管理は、法令に基づき適切に行うとともに施設・設備の老朽化対	**【年度計画 44-1】** 同左 **【評価指標】** ・同左 **【年度計画 44-2】** 1.同左 2.同左	**【年度計画 44-1】** 同左 **【評価指標】** ・同左 **【年度計画 44-2】** 1.同左 2.同左	**【年度計画 44-1】** 同左 **【評価指標】** ・同左 **【年度計画 44-2】** 1.同左 2.同左	**【年度計画 44-1】** 同左 **【評価指標】** ・同左 **【年度計画 44-2】** 1.同左 2.同左

中　期　目　標	中　期　計　画	年　度　計　画				
		令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度
	策に対応した適切な整備を図る。 3. 各学部・研究科等の実験・実習に当たっては、安全面での注意を徹底するとともに、実験・実習室及び設備の管理・責任体制の徹底を図る。 4. 学生の主体的な学習支援のための体制や開放的な空間（ラーニング・ コモンズ）の整備に努める。 **【評価指標】** ・「環境整備に関する実施計画」に基づく施設・設備等の整備状況	策に対応した適切な整備を図る。 3. 各学部・研究科等の実験・実習に当たっては、安全面での注意を徹底するとともに、実験・実習室及び設備の管理・責任体制の徹底を図る。 4. 学生の主体的な学習支援のための体制や開放的な空間（ラーニング・ コモンズ）の整備に努める。 **【評価指標】** ・「環境整備に関する実施計画」に基づく施設・設備等の整備状況	3. 同左 4. 同左 **【評価指標】** ・同左	3. 同左 4. 同左 **【評価指標】** ・同左	3. 同左 4. 同左 **【評価指標】** ・同左	3. 同左 4. 同左 **【評価指標】** ・同左
(2) 教育研究等を支援する環境等の整備・充実を図る。特にＤＸ（デジタル・トランスフォーメーション）による基盤強化により「学修者本位の多様な教育の提供」、「学びの質の向上」を図る。	**【計画45】**（学長戦略本部） 「多様な価値観を尊重し、一歩先を歩み続ける医療」を支える「一歩先の教育」を実現するため、ＤＸによる基盤強化により「学修者本位の多様な教育の提供」、「学びの質の向上」を図る。 **【計画達成のための方策】** 1. 教育ＤＸの推進。 ポストコロナにおいてもＤＸを大胆に取り入れ、学修成果の可視化や新しい教育手法の開発を加速する。更に、令和3年度に整備したディプロマサプリメント（ＤＳ）やルーブリックを更に進化させて、多元的に学修成果や教育成果を把握、可視化を行い教育の質保証を確保する。また、それらの整備を図るため、文科省等の外部資金を積極的に取り込む。 ◇ＩＴ基盤の強化 ・ネットワークの強化（5Ｇ対応） ・セキュリティー対策	**【年度計画 45】** 1. 教育ＤＸの推進。 ポストコロナにおいてもＤＸを大胆に取り入れ、学修成果の可視化や新しい教育手法の開発を加速する。更に、令和3年度に整備したディプロマサプリメント（ＤＳ）やルーブリックを更に進化させて、多元的に学修成果や教育成果を把握、可視化を行い教育の質保証を確保する。また、それらの整備を図るため、文科省等の外部資金を積極的に取り込む。 ◇ＩＴ基盤の強化 ・ネットワークの強化（5Ｇ対応） ・セキュリティー対策	**【年度計画45】** 1. 教育ＤＸの推進。 前年度を継続 ◇ＩＴ基盤の強化 前年度を継続	**【年度計画45】** 1. 教育ＤＸの推進。 前年度を継続 ◇ＩＴ基盤の強化 前年度を継続	**【年度計画45】** 1. 教育ＤＸの推進。 前年度を継続 ◇ＩＴ基盤の強化 前年度を継続	**【年度計画45】** 1. 教育ＤＸの推進。 前年度を継続 ◇ＩＴ基盤の強化 前年度を継続

中　期　目　標	中　期　計　画	年　度　計　画				
		令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度
	・シングルサインオン導入 ・学生ＰＣの継続貸与 ・学生ポータルによる情報発信整備 ◇教育設備面の強化 ・教室設備のハイフレックス化（対面・オンライン選択授業） ・授業コンテンツ収録スタジオ整備 ・代替実習環境の充実 ・ＩＣＴツールの計画的配備 ・ＩＣＴ利用支援体制の構築 ◇学修成果の可視化 ・ＬＭＳ（学修管理システム）と教務システム連携強化 ・ディプロマサプリメント機能拡充 ・ＩＣＥルーブリック全学導入 ・学修ポートフォリオの整備 **【評価指標】** ・教育ＤＸの推進状況 2. 研究ＤＸの推進。 研究活動を支えるＩＣＴ基盤環境を図り､オープンサイエンス時代を先導する研究を創出する。 ◇研究データ基盤の整備 ・研究を支えるＩＣＴ基盤強化 ◇科研費の管理、運用の効率化 ・科研費獲得に向けＩＣＴ基盤強化 **【評価指標】** ・研究ＤＸの推進状況 3. 事務ＤＸの推進。 教育研究を支える業務運営全般のＤＸ化も加速させる。事務的処	・シングルサインオン導入 ・学生ＰＣの継続貸与 ・学生ポータルによる情報発信整備 ◇教育設備面の強化 ・教室設備のハイフレックス化 ・授業コンテンツ収録スタジオ整備 ・代替実習環境の充実 ・ＩＣＴツールの計画的配備 ・ＩＣＴ利用支援体制の構築 ◇学修成果の可視化 ・ＬＭＳと教務システム連携強化 ・ディプロマサプリメント機能拡充 ・ＩＣＥルーブリック全学導入 ・学修ポートフォリオの整備 **【評価指標】** ・教育ＤＸの推進状況 2. 研究ＤＸの推進。 研究活動を支えるＩＣＴ基盤環境を図り、オープンサイエンス時代を先導する研究を創出する。 ◇研究データ基盤の整備 ・研究を支えるＩＣＴ基盤強化 ◇科研費の管理、運用の効率化 ・科研費獲得に向けＩＣＴ基盤強化 **【評価指標】** ・研究ＤＸの推進状況 3. 事務ＤＸの推進。 教育研究を支える業務運営全般のＤＸ化も加速させる。事務的処	◇教育設備面の強化 前年度を継続 ◇学修成果の可視化 前年度を継続 **【評価指標】** ・同左 2. 研究ＤＸの推進。 前年度を継続 ◇研究データ基盤の整備 前年度を継続 ◇科研費の管理、運用の効率化 前年度を継続 **【評価指標】** ・同左 3. 事務ＤＸの推進。 前年度を継続	◇教育設備面の強化 前年度を継続 ◇学修成果の可視化 前年度を継続 **【評価指標】** ・同左 2. 研究ＤＸの推進。 前年度を継続 ◇研究データ基盤の整備 前年度を継続 ◇科研費の管理、運用の効率化 前年度を継続 **【評価指標】** ・同左 3. 事務ＤＸの推進。 前年度を継続	◇教育設備面の強化 前年度を継続 ◇学修成果の可視化 前年度を継続 **【評価指標】** ・同左 2. 研究ＤＸの推進。 前年度を継続 ◇研究データ基盤の整備 ・年度を継続 ◇科研費の管理、運用の効率化 前年度を継続 **【評価指標】** ・同左 3. 事務ＤＸの推進。 前年度を継続

中　期　目　標	中　期　計　画	年　度　計　画				
		令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度
	理に投入されてきた職員のリソースを大学価値創出にシフトさせ大学の競争力を高める。 ◇キャンパスプラン拡張と業務一元化 ・学生募集から卒業まで一元管理 ◇問合せ業務の効率化 ・ＡＩとチャットボット(自動会話プログラム)の活用 ◇事務カウンター業務の効率化 ・証明書コンビニ発行 ・電子マネー決済導入 ・業務の標準化と統合及びバックオフィス強化（共通業務） ◇業務のオンライン化 ・各種決済 ・勤怠管理 ・雇用委託契約 ・会議、コラボレーション ◇ペーパーレス化 ・事務局ペーパーレス化 ・保管資料のペーパーレス化 ・ペーパーレス会議の検討 ◇データによる教学ＩＲ､経営ＩＲの推進 ・データ資産の集約基盤整備 **【評価指標】** ・事務ＤＸの推進状況	理に投入されてきた職員のリソースを大学価値創出にシフトさせ大学の競争力を高める。 ◇キャンパスプラン拡張と業務一元化 ・学生募集から卒業まで一元管理 ◇問合せ業務効の率化 ・ＡＩとチャットボットの活用 ◇事務カウンター業務の効率化 ・証明書コンビニ発行 ・電子マネー決済導入 ・業務の標準化と統合及びバックオフィス強化（共通業務） ◇業務のオンライン化 ・各種決済 ・勤怠管理 ・雇用委託契約 ・会議、コラボレーション ◇ペーパーレス化 ・事務局ペーパーレス化 ・保管資料のペーパーレス化 ・ペーパーレス会議の検討 ◇データによる教学ＩＲ、経営ＩＲの推進 ・データ資産の集約基盤整備 **【評価指標】** ・事務ＤＸの推進状況	◇キャンパスプラン拡張と業務一元化 前年度を継続 ◇問合せ業務の効率化 前年度を継続 ◇事務カウンター業務の効率化 前年度を継続 ◇業務のオンライン化 前年度を継続 ◇ペーパーレス化 前年度を継続 ◇データによる教学ＩＲ、経営ＩＲの推進 前年度を継続 **【評価指標】** ・同左	◇キャンパスプラン拡張と業務一元化 前年度を継続 ◇問合せ業務の効率化 前年度を継続 ◇事務カウンター業務の効率化 前年度を継続 ◇業務のオンライン化 前年度を継続 ◇ペーパーレス化 前年度を継続 ◇データによる教学ＩＲ、経営ＩＲの推進 前年度を継続 **【評価指標】** ・同左	◇キャンパスプラン拡張と業務一元化 前年度を継続 ◇問合せ業務効の率化 前年度を継続 ◇事務カウンター業務の効率化 前年度を継続 ◇業務のオンライン化 前年度を継続 ◇ペーパーレス化 前年度を継続 ◇データによる教学ＩＲ、経営ＩＲの推進 前年度を継続 **【評価指標】** ・同左	◇キャンパスプラン拡張と業務一元化 前年度を継続 ◇問合せ業務の効率化 前年度を継続 ◇事務カウンター業務の効率化 前年度を継続 ◇業務のオンライン化 前年度を継続 ◇ペーパーレス化 前年度を継続 ◇データによる教学ＩＲ、経営ＩＲの推進 前年度を継続 **【評価指標】** ・同左
(3)教育研究活動に必要な研修機会の確保を図るとともに教育研究費の充実に努める。	**【計画46】**（研究協力部） 教育研究活動に必要な教員の研修の機会を確保するため、学会・研究会に参加する等､就業規則に基づき適切な配慮を行う。また、外部資金への積極的な申請を奨励し獲得を図る。					

中　期　目　標	中　期　計　画	年　度　計　画				
		令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度
	【計画達成のための方策】 教育受託研究費・奨学寄附金等の外部資金への積極的な獲得を奨励する。また科学研究費等補助金については外部講師を招いて定期的に説明会を開催し申請・獲得を図る。 **【評価指標】** ・受託研究費・奨学寄附金等外部資金の獲得状況、科学研究費等補助金の説明会等の開催状況（開催回数、参加者数、参加率）	**【年度計画 46】** 教育受託研究費・奨学寄附金等の外部資金への積極的な獲得を奨励する。また科学研究費等補助金については外部講師を招いて定期的に説明会を開催し申請・獲得を図る。 **【評価指標】** ・受託研究費・奨学寄附金等外部資金の獲得状況、科学研究費等補助金の説明会等の開催状況（開催回数、参加者数、参加率）	**【年度計画 46】** 同左 **【評価指標】** ・同左	**【年度計画 46】** 同左 **【評価指標】** ・同左	**【年度計画 46】** 同左 **【評価指標】** ・同左	**【年度計画 46】** 同左 **【評価指標】** ・同左
(4)本学の理念・目的を実現するため、図書・学術雑誌・視聴覚資料・電子媒体等の体系的及び量的整備を図るとともに、図書館利用者のサービスの向上を図る。	**【計画47】（図書館）** ポストコロナに向け、図書館機能の整備・充実を図るとともに、図書館利用者のサービスの向上を図る。 **【計画達成のための方策】** 1. 教育研究遂行上必要な図書・学術雑誌・視聴覚資料・電子媒体等の整備・充実に努める。 **【評価指標】** ・図書・学術雑誌・視聴覚資料・電子媒体等の整備状況 2. 図書館管理システムにより、利用サービスの維持・向上を図る。 **【評価指標】** ・図書館管理システムによる利用サービスの改善状況 3. 新入生に対する図書館利用に関するオリエンテーションを実施するとともに、利用者のニーズに対応した図書館ガイダンスを適切に実施する。	**【年度計画47】** 1. 教育研究遂行上必要な図書・学術雑誌・視聴覚資料・電子媒体等の整備・充実に努める。 **【評価指標】** ・図書・学術雑誌・視聴覚資料・電子媒体等の整備状況 2. 図書館管理システムにより、利用サービスの維持・向上を図る。 **【評価指標】** ・図書館管理システムによる利用サービスの改善状況 3. 新入生に対する図書館利用に関するオリエンテーションを実施するとともに、利用者のニーズに対応した図書館ガイダンスを適切に実施する。	**【年度計画47】** 1. 同左 **【評価指標】** ・同左 2. 同左 **【評価指標】** ・同左 3. 同左	**【年度計画47】** 1. 同左 **【評価指標】** ・同左 2. 同左 **【評価指標】** ・同左 3. 同左	**【年度計画47】** 1. 同左 **【評価指標】** ・同左 2. 同左 **【評価指標】** ・同左 3. 同左	**【年度計画47】** 1. 同左 **【評価指標】** ・同左 2. 同左 **【評価指標】** ・同左 3. 同左

中　期　目　標	中　期　計　画	年　度　計　画				
		令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度
	【評価指標】 ・図書館ガイダンスの実施状況	**【評価指標】** ・書館ガイダンスの実施状況	**【評価指標】** ・同左	**【評価指標】** ・同左	**【評価指標】** ・同左	**【評価指標】** ・同左
	4. 図書館利用に関する学生及び教職員からの相談を適切に行うとともに、文献複写サービスの提供に努める。また、ラーニング・コモンズの整備に努める。	4. 図書館利用に関する学生及び教職員からの相談を適切に行うとともに、文献複写サービスの提供に努める。また、ラーニング・コモンズの整備に努める。	4. 同左	4. 同左	4. 同左	4. 同左
	【評価指標】 ・利用者からの相談状況、文献複写サービスの活用状況、ラーニング・コモンズの整備状況	**【評価指標】** ・利用者からの相談状況、文献複写サービスの活用状況、ラーニング・コモンズの整備状況	**【評価指標】** ・同左	**【評価指標】** ・同左	**【評価指標】** ・同左	**【評価指標】** ・同左
	5. 図書館の書架を体系的・目的別に整備し、書架の案内掲示を見易くする等利用サービスに努める。	5. 図書館の書架を体系的・目的別に整備し、書架の案内掲示を見易くする等利用サービスに努める。	5. 同左	5. 同左	5. 同左	5. 同左
	【評価指標】 ・利用サービスの改善状況	**【評価指標】** ・利用サービスの改善状況	**【評価指標】** ・同左	**【評価指標】** ・同左	**【評価指標】** ・同左	**【評価指標】** ・同左
	6. 地域に開かれた大学として地域開放に努めるとともに、図書館利用の拡充に努める。	6. 地域に開かれた大学として地域開放に努めるとともに、図書館利用の拡充に努める。	6. 同左	6. 同左	6. 同左	6. 同左
	【評価指標】 ・地域住民等による利活用状況	**【評価指標】** ・地域住民等による利活用状況	**【評価指標】** ・同左	**【評価指標】** ・同左	**【評価指標】** ・同左	**【評価指標】** ・同左

東京医療保健大学　第３期中期目標・計画（令和４年度～令和８年度）

中　期　目　標	中　期　計　画	年　度　計　画				
		令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度
9. 社会連携・社会貢献 (1)医療系の大学として、医療・健康・保健面における社会連携・社会貢献を積極的に推進するとともに、地域交流事業及び国際交流事業等に参加しその成果の社会への還元を図る。	**9. 社会連携・社会貢献** **【計画 48】（企画部）** 医療・健康・保健面において地域を指向して教育研究活動を推進するとともに、地域の課題解決に資する様々な人材や情報・技術が集まる地域コミュニティーの中核的存在としての機能強化を図る。 **「計画達成のための方策」** 社会連携・社会貢献の取組の中核となる支援体制や仕組みを整備する。 **「評価指標」** ・関係規程の整備及び支援体制の整備状況 **【計画 49】（企画部・各事務部）** 大学が所在する地方自治体との連携を強化し、共催・後援による公開講座等や各種事業を推進する。 **「計画達成のための方策」** 大学が所在する品川区、世田谷区、目黒区、立川市、和歌山市、船橋市等との共催・後援による公開講座の開催等を推進するとともに、産後不安を抱える母子へのケアに高度な助産実践力をもって貢献していく「産後ケア事業」等を推進する。 **「評価指標」** ・自治体と連携した公開講座や各種事業の開催数及び参加者数	**【年度計画 48】** 社会連携・社会貢献の取組の中核となる支援体制や仕組みを整備する。 **「評価指標」** ・関係規程の整備及び支援体制の整備状況 **【年度計画 49】** 大学が所在する品川区、世田谷区、目黒区、立川市、和歌山市、船橋市等との共催・後援による公開講座の開催等を推進するとともに、産後不安を抱える母子へのケアに高度な助産実践力をもって貢献していく「産後ケア事業」等を推進する。 **「評価指標」** ・自治体と連携した公開講座や各種事業の開催数及び参加者数	**【年度計画 48】** 同左 **「評価指標」** ・同左 **【年度計画 49】** 同左 **「評価指標」** ・同左	**【年度計画 48】** 同左 **「評価指標」** ・同左 **【年度計画 49】** 同左 **「評価指標」** ・同左	**【年度計画 48】** 同左 **「評価指標」** ・同左 **【年度計画 49】** 同左 **「評価指標」** ・同左	**【年度計画 48】** 同左 **「評価指標」** ・同左 **【年度計画 49】** 同左 **「評価指標」** ・同左

中　期　目　標	中　期　計　画	年　度　計　画				
		令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度
	【計画 50】（企画部・各事務部） 保健医療関係機関等との連携協力により、医療現場の今日的な課題解決等を図るため、各種連携事業等を推進する。 **「計画達成のための方策」** 独立行政法人地域医療機能推進機構や国立研究開発法人国立成育医療研究センター等との連携協定を締結後、地域医療の課題やニーズに的確に対応するため人事交流、共同研究等の各種協働事業等を推進する。 **「評価指標」** ・独立行政法人地域医療機能推進機構と国立研究開発法人国立成育医療研究センター等との連携協定の締結や各種協働事業等の推進状況	**【年度計画 50】** 独立行政法人地域医療機能推進機構や国立研究開発法人国立成育医療研究センター等との連携協定を締結後、地域医療の課題やニーズに的確に対応するため人事交流、共同研究等の各種協働事業等を推進する。 **「評価指標」** ・独立行政法人地域医療機能推進機構と国立研究開発法人国立成育医療研究センター等との連携協定の締結や各種協働事業等の推進状況	**【年度計画 50】** 同左 **「評価指標」** ・同左	**【年度計画 50】** 同左 **「評価指標」** ・同左	**【年度計画 50】** 同左 **「評価指標」** ・同左	**【年度計画 50】** 同左 **「評価指標」** ・同左
	【計画 51】（五反田事務部・感染制御学教育研究センター） 大学院研究科における研究の取組を紹介するための公開講座の実施や保健医療機関等からの要請に基づく感染制御実践看護学講座及び感染制御学企業人支援実践講座等を実施する。 **「計画達成のための方策」** 大学院主催の公開講座や、保健医療機関等の看護師の要請に応じた「感染制御実践看護学講座」及び「感染制御学企業人支援実践講座」を実施する。特に、公開講座については、対面及びオンラインでのハイブリッド型の実施によ	**【年度計画 51】** 大学院主催の公開講座や、保健医療機関等の看護師の要請に応じた「感染制御実践看護学講座」及び「感染制御学企業人支援実践講座」を実施する。特に、公開講座については、対面及びオンラインでのハイブリッド型の実施によ	**【年度計画 51】** 同左	**【年度計画 51】** 同左	**【年度計画 51】** 同左	**【年度計画 51】** 同左

中　期　目　標	中　期　計　画	年　度　計　画				
		令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度
	り、より参加しやすい環境を整備する。 **「評価指標」** ・公開講座の開催数及び参加者数、「感染制御実践看護学講座」及び「感染制御学企業人支援実践講座」等の受講者数 **【計画 52】（学長戦略本部、各事務部）** 本学を卒業した医療人等の生涯学習の場づくりを支援するため、「ポータルサイト」を開設し、学部卒業生・大学院修了生等が、オンライン上で情報交換等が行えるよう体制を整備するとともに、看護職に対する生涯学習支援講座を開設し、継続教育の機会を提供する。 **「計画達成のための方策」** 「一歩先を歩む医療人のポータルサイト（仮称）」を開設し、学部卒業生・大学院修了生等が、オンライン上で研修案内や情報交換が行えるよう体制を整備するとともに、看護職に対する生涯学習支援講座を開設する。 **「評価指標」** ・「ポータルサイト」の設置状況及び看護職に対する生涯学習支援講座の開催数及び参加者数 **【計画 53】（各事務部、学生支援センター）** 医療系の大学で学ぶ学生として社会貢献・社会活動に関する意識の涵養及び学習意欲の向上を図	り、より参加しやすい環境を整備する。 **「評価指標」** ・公開講座の開催数及び参加者数、「感染制御実践看護学講座」及び「感染制御学企業人支援実践講座」等の受講者数 **【年度計画 52】** 「一歩先を歩む医療人のポータルサイト（仮称）」を開設し、学部卒業生・大学院修了生等が、オンライン上で研修案内や情報交換が行えるよう体制を整備するとともに、看護職に対する生涯学習支援講座を開設する。 **「評価指標」** ・「ポータルサイト」の設置状況及び看護職に対する生涯学習支援講座の開催数及び参加者数	**「評価指標」** ・同左 **【年度計画 52】** 同左 **「評価指標」** ・同左	**「評価指標」** ・同左 **【年度計画 52】** 同左 **「評価指標」** ・同左	**「評価指標」** ・同左 **【年度計画 52】** 同左 **「評価指標」** ・同左	**「評価指標」** ・同左 **【年度計画 52】** 同左 **「評価指標」** ・同左

中　期　目　標	中　期　計　画	年　度　計　画				
		令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度
	るとともに、地域との交流を深め地域社会の発展に寄与するため、学生のボランティア活動への積極的な参加を奨励する。 **「計画達成のための方策」** 組織的なボランティア活動を展開するための中核となる支援体制や仕組みを整備する。 **「評価指標」** ・関係規程の整備及び支援体制の整備状況 **【計画 54】（学長戦略本部・総合研究所、研究協力部）** 教育・研究の充実・発展を図るため、産・学・官等との共同研究や受託研究の推進及び科学研究費等補助金の申請等により、外部資金を確保する。 **「計画達成のための方策」** 「学長戦略本部」を中核として、共同研究や受託研究のニーズを発掘し、大学研究者が有する研究シーズとのマッチングを支援するなど、支援体制を強化する。 **「評価指標」** ・共同研究、受託研究の実施件数及び科学研究費等補助金等の申請件数及び採択件数 **【計画 55】【計画 32 の再掲】（国際交流センター、研究協力部、各事務部）** 学生・教員に係る海外派遣・海外研修等を実施するとともに、オンラインを活用した海外大学等との交流を拡大する。また、海外か	**【年度計画 53】** 組織的なボランティア活動を展開するための中核となる支援体制や仕組みを整備する。 **「評価指標」** ・関係規程の整備及び支援体制の整備状況 **【年度計画 54】** 「学長戦略本部」を中核として、共同研究や受託研究のニーズを発掘し、大学研究者が有する研究シーズとのマッチングを支援するなど、支援体制を強化する。 **「評価指標」** ・共同研究、受託研究の実施件数及び科学研究費等補助金等の申請件数及び採択件数	**【年度計画 53】** 同左 **「評価指標」** ・同左 **【年度計画 54】** 同左 **「評価指標」** ・同左	**【年度計画 53】** 同左 **「評価指標」** ・同左 **【年度計画 54】** 同左 **「評価指標」** ・同左	**【年度計画 53】** 同左 **「評価指標」** ・同左 **【年度計画 54】** 同左 **「評価指標」** ・同左	**【年度計画 53】** 同左 **「評価指標」** ・同左 **【年度計画 54】** 同左 **「評価指標」** ・同左

中　期　目　標	中　期　計　画	年　度　計　画				
		令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度
	らの留学生･研究生等の受入れを推進し、大学の国際化を進め、国際的視野を持つ医療人の育成に努め､地域貢献及び地域の国際化に寄与する。 **「計画達成のための方策」** 1.学生・教職員の海外派遣・海外研修等の実施及び海外からの留学生等の受入れを積極的に行うため､海外の大学や医療機関との交流締結を更に推進する。特に、国際交流センターでは従来から協力関係にあったハワイ大学とシャミナード大学との大学間提携を実現できるよう両大学に積極的に働きかける。 2.国際的な講演会の開催など積極的に推進する。 **「評価指標」** ・海外大学との交流締結数及び学生･教職員の海外派遣･海外研修等の実施及び海外からの留学生等の受入れ数､海外研修実施に伴う参加者の満足度 ・国際的な講演会等の開催状況	**【年度計画 55】** 1.従来から協力関係にあったハワイ大学とシャミナード大学との大学間の提携を行う。 2.国際的な講演会の開催など積極的に推進する。 **「評価指標」** ・海外大学との交流締結数及び学生・教職員の海外派遣・海外研修等の実施及び海外からの留学生等の受入れ数 ・国際的な講演会等の開催状況	**【年度計画 55】** 1.大学間連携を行っているグリフィス大学との提携を更新する。さらにハワイ大学、シャミナード大学との大学間提携を進めるとともに両大学との研修内容の充実を図る。 2.同左 **「評価指標」** ・海外大学との交流締結数及び学生･教職員の海外派遣･海外研修等の実施及び海外からの留学生等の受入れ数、海外研修実施に伴う参加者の満足度 ・国際的な講演会等の開催状況	**【年度計画 55】** 1.大学間提携大学との連携関係をさらに深めるために、協力的なプロジェクトについて提携大学と検討し、提携内容をさらに充実させる。 2.同左 **「評価指標」** ・海外大学との交流締結数及び学生・教職員の海外派遣・海外研修等の実施及び海外からの留学生等の受入れ数、海外研修実施に伴う参加者の満足度及び協力的なプロジェクトの実施状況 ・国際的な講演会等の開催状況	**【年度計画 55】** 1.同左 2.同左 **「評価指標」** ・同左	**【年度計画 55】** 1.同左 2.同左 **「評価指標」** ・同左
	○医療保健学部看護学科 **【計画 56-1】㋐** 地域貢献事業の展開及び地域活動を通して学ぶプログラムを実施する。 **「計画達成のための方策」** 1.令和５年まで年間９回（大学体育館５回、八潮４回）の健康づくり事業を継続実施する。 2.看護の統合実習において、地	**【年度計画 56-1】** 1.令和５年まで年間９回（大学体育館５回、八潮４回）の健康づくり事業を継続実施する。 2.看護の統合実習において、地	**【年度計画 56-1】** 1.令和５年までは、年間５回（大学体育館５回）の健康づくり事業を継続実施する。 2.看護の統合実習において、地	**【年度計画 56-1】** 1.看護の統合実習において、地域の子育て支援事業に参加する 2.地域ボランティアについて、学生に参加を呼びかける。	**【年度計画 56-1】** 同左	**【年度計画 56-1】** 同左

中　期　目　標	中　期　計　画	年　度　計　画				
		令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度
	域の子育て支援事業に参加する 3.地域ボランティアについて、学生に参加を呼びかける。 **「評価指標」** ・地域保健活動事業「健康づくりの会」の実施継続（年９回（五反田５回、八潮４回）） ・地域の子育て支援事業との協働（実習を通して）の継続（年20名の学生実習） **【計画56-2】**㋐ 日本バングラデシュ友好病院（ＪＢＦＨ）及び日本バングラデシュ友好看護師養成学校（ＪＢＦＮＩ）における指導者層を対象とする研修を実施する。 **「計画達成のための方策」** 日本バングラデシュ友好病院（ＪＢＦＨ）及び日本バングラデシュ友好看護師養成学校（ＪＢＦＮＩ）における指導者層を対象とする研修について、当初の計画を見直し現実可能な方策を検討し、令和５年度に現地スタッフに対する研修を何らかの形で実施する。 **「評価指標」** ・研修の実施状況 **【計画56-3】** 全国・東京都・品川区等の各自治体や地域組織・住民と連携協働し、保健・健康づくりに関連する地域貢献活動を展開し、また、学	域の子育て支援事業に参加する 3.地域ボランティアについて、学生に参加を呼びかける。 **「評価指標」** ・地域保健活動事業「健康づくりの会」の実施継続（年９回（五反田５回、八潮４回）） ・地域の子育て支援事業との協働（実習を通して）の継続（年20名の学生実習） **【年度計画56-2】** 1.海外渡航状況、現地の状況に関する情報収集の実施。 2.研修方法に関する検討。 3.資金に関する情報収集、補助事業への申請準備。 **「評価指標」** ・研修の実施状況	域の子育て支援事業に参加する 3.地域ボランティアについて、学生に参加を呼びかける。 4.地域健康づくり研究・教育センターを設立し活動を開始する。 **「評価指標」** ・地域保健活動事業「健康づくりの会」の実施継続（年５回・五反田体育館） ・地域の子育て支援事業との協働（実習を通して）の継続（年19名の学生実習） **【年度計画56-2】** 1.実施可能な方法の検討。 **「評価指標」** ・研究計画の立案	**「評価指標」** ・地域の子育て支援事業との協働（実習を通して）の継続（年19名の学生実習） **【年度計画56-2】** 1.　研修の実施 （令和６年度で活動終了） **「評価指標」** ・令和５年度の研究計画立案時に参加人数の見通しを立てる。	**「評価指標」** ・同左 **【年度計画56-2】** ― **「評価指標」** ―	**「評価指標」** ・同左 **【年度計画56-2】** ― **「評価指標」** ―

中　期　目　標	中　期　計　画	年　度　計　画				
		令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度
	内外における保健･健康づくりに関する研究･教育の拠点となることを目指す。 **「計画達成のための方策」** 地域健康づくり研究･教育センターを立ち上げ始動する。 1.品川区との連携 ・健康大学しながわにおける運営･評価･イベントへの学生派遣。 ・品川区大崎第一地域センター町会・自治会　地域絆づくり運営・協力 ・品川区立第三日野小学校との連携(生活科　ボランティア等) 2.東五反田倶楽部･NTT 関東病院地域連携室等､地域との連携業務 ・東五反田ファーム･エイド　あいおい夏祭、ジャムづくり 3.外部委員･事務局　住民とともに活動する保健師の会　年間事業　（東京都委託事業）への学生・教員協力 ・青少年施設(中高生放課後施設)に若者を派遣し教育を行う「HIV 啓発拠点 4T」事業 ･池袋保健所に開設している｢エイズ知ろう館｣事業 ・若者が集う「AIDS フェスティバル」事業 ･HIV/AIDS･性感染症対策におけるサイト･SNS 運営等の「情報発信」事業 **「評価指標」** ・健康大学しながわ評価表の作成　2 回／年		**【年度計画 56-3】** 地域健康づくり研究・教育センターを立ち上げ始動する。 1.品川区との連携 ・健康大学しながわにおける運営・評価・イベントへの学生派遣。 ・品川区大崎第一地域センター町会・自治会　地域絆づくり運営・協力 ・品川区立第三日野小学校との連携(生活科　ボランティア等) 2.東五反田倶楽部･NTT 関東病院地域連携室等、地域との連携業務 ･東五反田ファーム･エイド　あいおい夏祭り、ジャムづくり 3.外部委員・事務局　住民とともに活動する保健師の会　年間事業　（東京都委託事業）への学生・教員協力 ・青少年施設(中高生放課後施設)に若者を派遣し教育を行う「HIV 啓発拠点 4T」事業 ･池袋保健所に開設している｢エイズ知ろう館｣事業 ・若者が集う「AIDS フェスティバル」事業 ･HIV/AIDS･性感染症対策におけるサイト･SNS 運営等の「情報発信」事業 **「評価指標」** ・健康大学しながわ評価表の作成　2 回／年	**【年度計画 56-3】** 同左 **「評価指標」** ・同左	**【年度計画 56-3】** 同左 **「評価指標」** ・同左	**【年度計画 56-3】** 同左 **「評価指標」** ・同左

中　期　目　標	中　期　計　画	年　度　計　画				
		令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度
	・品川区大崎第一地域センター連携　3回/年以上 ・品川区立第三日野小学校との連携　3回／年以上 ・東五反田ファーム・エイド　会議年6回　実施1回／年以上 ・住民とともに活動する保健師の会　年間事業への学生・教員協力 青少年施設　30回/年、エイズ知ろう館　30 回/年、若者が集う「AIDSフェスティバル」1回/年、サイト・SNS　更新1回/　2ヶ月 **○医療保健学部医療栄養学科** **【計画57-1】㋐** 地域の社会課題を解決するため、積極的に社会貢献活動を推進する。 **「計画達成のための方策」** 教員と学生が共同し、大学近郊でボランティア活動を行う。 **「評価指標」** ・実施テーマ数：6件/年 **【計画57-2】㋐** 日本バングラデシュ友好病院（ＪＢＦＨ）及び日本バングラデシュ友好看護師養成学校（ＪＢＦＮＩ）における指導者層を対象とする研修を実施する。	**【年度計画　57-1】** 1.食育や減塩の対策の具体的な展開について、見学もしくは体験を行う。管理栄養士をめざす本学科学生と住民の交流を進める。 2.特別研究費にて、コロナ禍の食生活調査を実施する。 **「評価指標」** ・食の自立と減塩対策の実践研究状況	・品川区大崎第一地域センター連携　3回/年以上 ・品川区立第三日野小学校との連携　3回／年以上 ・東五反田ファーム・エイド　会議年6回　実施1回／年以上 ・住民とともに活動する保健師の会　年間事業への学生・教員協力 青少年施設　30回/年、エイズ知ろう館　30 回/年、若者が集う「AIDSフェスティバル」1回/年、サイト・SNS　更新1回/　2ヶ月 **【年度計画　57-1】** 大学近郊でのボランティア活動を継続する。 **「評価指標」** ・実施テーマ数：6件/年	**【年度計画57-1】** 同左 **「評価指標」** ・同左	**【年度計画57-1】** 同左 **「評価指標」** ・同左	**【年度計画57-1】** 同左 **「評価指標」** ・同左

中　期　目　標	中　期　計　画	年　度　計　画				
		令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度
	「計画達成のための方策」 日本バングラデシュ友好病院（ＪＢＦＨ）及び日本バングラデシュ友好看護師養成学校（ＪＢＦＮＩ）における指導者層を対象とする研修について、当初の計画を見直し現実可能な方策を検討し、令和 5 年度に現地スタッフに対する研修を何らかの形で実施する。 **「評価指標」** ・研修の実施状況 **○医療保健学部医療情報学科** **【計画 58】**㋐ 令和 3 年度に締結した本学医療情報学科と秀傳医療グループとの協定にもとづき、協働で AIoT の医療応用に関する国際論文の掲載又は知財権の取得を行い、その成果を学生にも還元する。 **「計画達成のための方策」** 本学医療情報学科と秀傳医療グループとの協定にもとづき、協働で AIoT の医療応用に関する国際論文の掲載又は知財権の取得を行い、その成果を学生にも還元する。 **「評価指標」** ・海外における短期研修の訪問件数・参加者数：３件、６名 ・海外からの短期研修等の受入件数・来訪者数：２件、約６０名 **○東が丘看護学部** **【計画 59-1】**㋐ 目黒区との共催で実施している	**【年度計画 57-2】** 1. 海外渡航状況、現地の状況に関する情報収集の実施。 2. 研修方法に関する検討。 3. 資金に関する情報収集、補助事業への申請準備。 **「評価指標」** ・研修の実施状況 **【年度計画 58】** 双方関係者向けのクローズドなオンライン勉強会を行う。その一部を学生にも授業の一部として還元する。 **「評価指標」** ・海外における短期研修の訪問件数・参加者数：３件、６名 ・海外からの短期研修等の受入件数・来訪者数：２件、約６０名	**【年度計画 57-2】** 1. 感染状況に応じて本邦研修もしくはオンライン研修の実施。 **「評価指標」** ・同左 **【年度計画 58】** 協定の１回目更新を行う。また、コロナの状況により、（感染が一段落している場合は）日台のいずれかが訪問して対面勉強会を行い、（感染が続いている場合は）公開形式のオンラインシンポジウムを行う。 **「評価指標」** ・同左 ・同左	**【年度計画 57-2】** 令和６年度で活動終了 **「評価指標」** ・同左 **【年度計画 58】** 共同研究計画の検討を行い、日本側、台湾側、いずれかの外部資金に応募する。 （感染が一段落している場合は）学生が台湾を訪問して施設見学する機会を設ける。 **「評価指標」** ・同左 ・同左	**【年度計画 57-2】** ― **「評価指標」** ― **【年度計画 58】** 研究経過に関する合同シンポジウムを行う。その一部を学生にも授業の一部として還元する。 **「評価指標」** ・同左 ・同左	**【年度計画 57-2】** ― **「評価指標** ― **【年度計画 58】** 研究成果に関する国際論文または日台双方での特許取得等を行う。 **「評価指標」** ・同左 ・同左

中　期　目　標	中　期　計　画	年　度　計　画				
		令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度
	ひがしが丘保健室の年間の総来場者数を増加させる。 **「計画達成のための方策」** 1.ひがしが丘保健室の開催。 2.ひがしが丘保健室便り（過去の参加者へのお便り）の発行。 3.出張型ひがしが丘保健室の開催。 **「評価指標」** ・ひがしが丘保健室の年 1 回開催 ・ひがしが丘保健室便り（過去の参加者へのお便り）の年４回の発行 ・出張型ひがしが丘保健室の年２回開催 ・ひがしが丘保健室来場者の参加した各コーナーの満足度の平均：95.0% **【計画 59-2】**㋐ 地域母子保健活動として、妊娠期からの切れ目のない母子への支援をさらに強化する。また、“まちの助産室”活動の評価として、データをまとめ、母子保健に関連する学会などにて発表を行い、地域母子保健事業と助産師教育へ役立てる。 **「計画達成のための方策」** 1.実施している“まちの助産室”を、妊娠期のパパママ教室、その後、産後・子育て期へと継続的に実施できる体制へと整備し、さらに、大学院教育との連携として、大学院生も参加する。	**【年度計画 59-1】** 1.ひがしが丘保健室便りの継続発行。 2.小規模出張型のひがしが丘保健室の開催。 **「評価指標」** ・ひがしが丘保健室便りの年４回の継続発行 ・小規模出張型のひがしが丘保健室の開催（感染状況を考慮して１回） **【年度計画 59-2】** 1.中学生に対する思春期性教育の実施を継続する。 2.まちの助産室：妊娠期パパママクラスの実施を継続する。 3.まちの助産室：産後クラスの実施を継続する。	**【年度計画 59-1】** 1.ひがしが丘保健室の大学での開催。 **「評価指標」** ・ひがしが丘保健室の大学での開催 ・ひがしが丘保健室来場者の参加した各コーナーの満足度の平均：85.0% **【年度計画 59-2】** 1.同左 2.同左 3.同左	**【年度計画 59-1】** 1.小規模出張型のひがしが丘保健室の開催。 2.ひがしが丘保健室の大学での開催。 3.中間の進捗状況確認と事業評価の実施。 **「評価指標」** ・小規模出張型のひがしが丘保健室の開催（年１回） ・ひがしが丘保健室の大学での開催 ・ひがしが丘保健室来場者の参加した各コーナーの満足度の平均：90.0% ・中間の進捗状況確認と事業評価状況 **【年度計画 59-2】** 1.同左 2.同左 3.同左	**【年度計画 59-1】** 1.出張型のひがしが丘保健室の開催。 2.ひがしが丘保健室の大学での開催。 **「評価指標」** ・出張型のひがしが丘保健室の開催（年１回） ・ひがしが丘保健室の大学での開催 ・ひがしが丘保健室来場者の参加した各コーナーの満足度の平均：90.0% **【年度計画 59-2】** 1.同左 2.同左 3.同左	**【年度計画 59-1】** 1.出張型のひがしが丘保健室の開催。 2.ひがしが丘保健室の大学での開催。 3.総合評価の実施。 **「評価指標」** ・出張型のひがしが丘保健室の開催（年１回） ・ひがしが丘保健室の大学での開催 ・ひがしが丘保健室来場者の参加した各コーナーの満足度の平均：95.0.0% ・総合評価の実施状況。 **【年度計画 59-2】** 1.同左 2.同左 3.同左

中　期　目　標	中　期　計　画	年　度　計　画				
		令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度
	2.　“まちの助産室”活動の評価として、データをまとめ、母子保健に関連する学会などにて発表を行い、地域母子保健事業と助産師教育へ役立てる。 **「評価指標」** ・中学生に対する思春期性教育の実施状況 ・まちの助産室：妊娠期パパママクラスの実施状況 ・まちの助産室：産後クラスの実施状況 ・関連学会での活動の公表状況 ・自治体との連携状況 **【計画 59-3】** ㋐ 大学の国際化を進め地域の国際化に寄与する。 **「計画達成のための方策」** 1.学生・教員に係る海外派遣・海外研修等を実施する。 2.海外からの留学生・研究生等の受入れ、海外講師による講演会を積極的に推進する。 3.海外の看護系大学と学術交流を推進する。 **「評価指標」** ・学生・教員に係る海外派遣・海外研修等の実施状況 ・海外からの留学生・研究生等の受入れ、海外講師による講演会の実施状況	4.活動を関連学会で公表し、教育に役立てる。 **「評価指標」** ・中学生に対する思春期性教育の実施状況 ・まちの助産室：妊娠期パパママクラスの実施状況 ・まちの助産室：産後クラスの実施状況 ・関連学会での活動の公表状況 ・自治体との連携状況 **【年度計画 59-3】** 1.全学委員会と連携し、学生の海外研修の参加募集・PR を積極的に行う。 2.現地開催・オンラインの双方に学生が円滑に参加できるよう支援する。 3.海外からの講師の招聘による講演会はＦＤ委員会等と連携し開催する。 4.オンライン海外研修の評価の学会公表により、多文化共存の研鑽に役立てる。 **「評価指標」** ・学生・教員に係る海外派遣・海外研修等の実施状況 ・海外からの留学生・研究生等の受入れ、海外講師による講演会の実施状況	4.自治体と連携する。 **「評価指標」** ・同左 **【年度計画 59-3】** 同左 **「評価指標」** ・同左	4.自治体と連携し、参加者を増やして地域貢献につなげる。 **「評価指標」** ・同左 **【年度計画 59-3】** 同左 **「評価指標」** ・同左	4.大学院生が主体となる運営を設け、教育機会とする。 **「評価指標」** ・同左 **【年度計画 59-3】** 同左 **「評価指標」** ・同左	4.学生の地域貢献による学び、活動を学会等で公表する。 **「評価指標」** ・同左 **【年度計画 59-3】** 同左 **「評価指標」** ・同左

中　期　目　標	中　期　計　画	年　度　計　画				
		令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度
	・海外の看護系大学と学術交流の状況 **〇立川看護学部** **【計画 60】㋐** 国際交流研修の申し込み人数を一定数確保する。 **「計画達成のための方策」** 国際交流研修の申し込み人数を一定数確保するため、学年担任や全学生に対して積極的にＰＲを進めていくとともに、参加した学生の研修結果をメール配信するなど、学生が興味関心を引くような情報提供や研修参加者の声を伝えていく。 **「評価指標」** ・国際交流研修の申し込み状況 **〇千葉看護学部・看護学研究科** **【計画 61-1】㋐** 地域との協働･共生に関する理解を深める。 **「計画達成のための方策」** 1.　千葉看護学部における『地域連携・共生に関する活動方針』を作成し、活動方針に基づく活動が行われているかを評価する。 **［評価指標］** ・検討会開催回数（3 回/年）、検討会参加人数（5 人/回）、活動評価結果（1 回/年） 2. 学生が地域との協働･共生を学ぶ環境を支援する。	・海外の看護系大学と学術交流の状況 **【年度計画 60】** 国際交流研修の申し込み人数２人/年 または 2 人/回をめざす。 **「評価指標」** ・同左 **【年度計画 61-1】** 1.『地域連携・共生に関する活動方針』の作成検討委員会を開催し、活動方針について検討する。 **［評価指標］** ・検討会開催回数（3 回/年）、検討会参加人数（5 人/回）、活動評価結果（1 回/年） 2. 船橋市地域包括ケア推進課や社会福祉協議会で実施している	**【年度計画 60】** 国際交流研修の申し込み人数 2 人/年 または 2 人/回をめざす。 **「評価指標」** ・同左 **【年度計画 61-1】** 1.『地域連携･共生に関する活動方針』作成委員会を設置し FD 委員会と共同し地域連携活動の将来像を考える会を開催するとともに、地域交流イベントにおいて参加者から情報を収集する。 **［評価指標］** ・検討会開催回数（2 回/年）、検討会参加人数（5 人/回）、活動評価（1 回/年） 2. 前年度と同様	**【年度計画 60】** 国際交流研修の申し込み人数 4 名をめざす。 **「評価指標」** ・同左 **【年度計画 61-1】** 1.『地域連携・共生に関する活動方針』作成委員会において、活動方針を策定する。地域交流イベントにおいて発表ならびに参加者から情報を収集する。 **［評価指標］** ・同左 2. 前年度と同様	**【年度計画 60】** 国際交流研修の申し込み人数４名をめざす。 **「評価指標」** ・同左 **【年度計画 61-1】** 1. 活動方針にそって活動を行う。 **［評価指標］** ・同左 2. 前年度と同様	**【年度計画 60】** 国際交流研修の申し込み人数５名をめざす。 **「評価指標」** ・同左 **【年度計画 61-1】** 1. 前年度と同様 **［評価指標］** ・同左 2. 前年度と同様

中　期　目　標	中　期　計　画	年　度　計　画				
		令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度
		事業やボランティア案内などの情報提供を行う。				
	［評価指標］ ・ボランティア等の活動に関する情報提供回数（4 回/年）、各活動の参加人数（5 人/回）、活動評価（1 回/年）	［評価指標］ ・ボランティア等の活動に関する情報提供回数（4 回/年）、各活動の参加人数（5 人/回）、活動評価（1 回/年）	［評価指標］ ・同左	［評価指標］ ・同左	［評価指標］ ・同左	［評価指標］ ・同左
	3.地域貢献及び地域に本学を理解してもらうために地域交流イベントを開催する。	3.a. 前年度の振り返りを反映し、船橋市の地域住民・行政・保健福祉機関等と大学がより交流できるイベントを計画・実施・評価する。 b. 船橋市地域包括ケア推進課や社会福祉協議会のメンバーと情報交換を行う。	3.前年度と同様	3.前年度と同様	3.前年度と同様	3.前年度と同様
	［評価指標］ ・地域交流イベント参加人数（100 人）、参加学生数（100 人）、参加教員数（20 人）、参加者の満足度（満足度 70%以上）	［評価指標］ ・地域交流イベント参加人数（100 人）、参加学生数（100 人）、参加教員数（20 人）、参加者の満足度（満足度 70%以上）	［評価指標］ ・同左	［評価指標］ ・同左	［評価指標］ ・同左	［評価指標］ ・同左
	4.学部及び教員が地域のリソースとして活用される仕組みを整え、活用が促進される。	4.a. 教員がリソースとして地域で活用される仕組みを検討する。 b. 学生募集部・事務部と協働し、高校訪問に模擬授業等のニーズを把握し、適切な教員を派遣する。	4.a. 令和４年度に検討する仕組みに則り、教員がリソースとして地域で活用されることを促す。 b. 前年度と同様	4.a. 前年度の評価に基づき、教員がリソースとして地域で活用されることを促す。 b. 前年度と同様	4.前年度と同様	4.前年度と同様
	［評価指標］ ・高校からの模擬授業等の依頼件数（3 件以上/年）、地域からの講師依頼件数（1 件/年）、ＪＣＨＯや関連施設からの講師依頼件数（1 件/年）、勉強会等の実施回数（1 回/年）、各参加者の満足度（70%以上）	「評価指標］ ・高校からの模擬授業等の依頼件数（3 件以上/年）、地域からの講師依頼件数（1 件/年）、ＪＣＨＯや関連施設からの講師依頼件数（1 件/年）、勉強会等の実施回数（1 回/年）、各参加者の満足度（70%以上）	「評価指標］ ・同左	「評価指標］ ・同左	「評価指標］ ・同左	「評価指標］ ・同左

中　期　目　標	中　期　計　画	年　度　計　画				
		令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度
	【計画 61-2】㋐ 学際的な共同研究や海外研修等を促進し、成果を発表する。 **「計画達成のための方策」** 1.複数領域、学外者及び学際的な共同研究への参加を促進し、成果を発表する **［評価指標］** ・複数領域、学外者及び学際的な共同研究件数、発表件数 2.海外研修や学外研修への参加を促進し、その成果について共有する。 **［評価指標］** ・研修参加者（教員１名以上/各回海外研修）、研修内容とその評価（参加教員数/ＦＤ報告会）、成果共有による評価 **【計画 61-3】**㋐ 千葉看護学研究科として住民のニーズに応える保健医療の連携に貢献する。 **「計画達成のための方策」** 地域交流イベントにおいて、学生を主体とする企画を実施し、主として西船橋地区住民のニーズに応える保健医療の連携に貢献する。 **［評価指標］** 専門職からなる情報交換会の開催数、活動報告発表数	**【年度計画 61-2】** 1.年度末の学部活動報告会等で情報共有を行う。 **［評価指標］** ・複数領域、学外者及び学際的な共同研究件数、発表件数 2.a.本学主催の海外研修の参加を推奨する。国際交流委員会が把握するイベントや単発の研修会等の情報発信を行う。 b.年度末の学部活動報告会で情報共有を行う。 **［評価指標］** ・研修参加者（教員１名以上/各回海外研修）、研修内容とその評価（参加教員数/ＦＤ報告会）、成果共有による評価 **【年度計画 61-3】** 専門職からなる情報交換の会を開催し、ニーズの把握をはかる。 成果を活動報告として紀要等に一つ以上発表する。 **［評価指標］** 専門職からなる情報交換会の開催数、活動報告発表数	**【年度計画 61-2】** 1.前年度と同様 **［評価指標］** ・同左 2.前年度と同様 **［評価指標］** ・同左 **【年度計画 61-3】** 専門職からなる情報交換の回を継続し、ニーズの把握とともに活動成果を検討する。 成果を活動報告として紀要等に発表する。 **［評価指標］** ・同左	**【年度計画 61-2】** 1.前年度と同様 **［評価指標］** ・同左 2.前年度と同様 **［評価指標］** ・同左 **【年度計画 61-3】** 前年に分析した企画について地域住民を巻き込んだ企画を実施する。 成果を活動報告として紀要等に一つ以上発表する。 **［評価指標］** ・同左	**【年度計画 61-2】** 1.前年度と同様 **［評価指標］** ・同左 2.前年度と同様 **［評価指標］** ・同左 **【年度計画 61-3】** 前年度の企画を継続する。 成果を活動報告として紀要等に一つ以上発表する。 **［評価指標］** ・同左	**【年度計画 61-2】** 1.前年度と同様 **［評価指標］** ・同左 2.前年度と同様 **［評価指標］** ・同左 **【年度計画 61-3】** 前年度の企画を継続する。 成果を活動報告として紀要等に一つ以上発表する。 **［評価指標］** ・同左

中　期　目　標	中　期　計　画	年　度　計　画				
		令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度
	【計画 61-4】㋐ 千葉看護学研究科の教職員の教育力を開発する。 **「計画達成のための方策」** 日々の教育活動に関する情報共有を行うとともに、課題を整理し、多文化共存を視野に入れた研究指導を含めた教育力、大学院での活動を通しての地域貢献力について、研修を実施することで、その向上を図る。 **［評価指標］** 大学院担当教員を対象とした多文化共存をめざした検討会等の開催回数、地域貢献力に関する報告の数	**【年度計画 61-4】** 大学院担当教員・職員を対象とした情報交換・研修会・授業参観を、年２回開催する。うち１回は他研究科との合同研修とする。主たるテーマは情報共有とする。 **［評価指標］** 大学院担当教員を対象とした多文化共存をめざした検討会等の開催回数、地域貢献力に関する報告の数	**【年度計画 61-4】** 研究科FDとして多文化共存についての勉強会を開催する。 **［評価指標］** ・同左	**【年度計画 61-4】** 前年度に準ずる。主たるテーマは、研究成果から見いだされた地域貢献とその発展①とする。 **［評価指標］** ・同左	**【年度計画 61-4】** 前年度に準ずる。主たるテーマは、研究成果から見いだされた地域貢献とその発展②とする。 **［評価指標］** ・同左	**【年度計画 61-4】** 前年度に準ずる。主たるテーマは、前年度までの活用により見いだされた課題に応じるものとする。 **［評価指標］** ・同左
	〇和歌山看護学部・看護学研究科 **【計画 62-1】**㋐ 臨地実習での多職種連携場面での学びの促進を図るとともに、多職種との交流によりチーム医療を実践できる医療人を育成する。 **「計画達成のための方策」** 1. 学内教育においては臨地からの多職種の教育参加により、臨地での意図的な多職種連携の体験する機会をつくる。 2. 多職種・他大学学生とチーム医療・他職種連携の体験を共有する機会を設ける。 **［評価指標］** ・近隣大学との連携状況、多職種連携状況、実習での体験状況、演習での実施状況	**【年度計画 62-1】** 1. チーム医療・多職種連携に関して実習計画に反映し、実施する。 2. 近隣大学との教育連携を呼びかける。 3. 可能な領域でチーム医療・多職種連携に関する体験の機会を設ける。 **［評価指標］** ・近隣大学との連携状況、多職種連携状況、実習での体験状況、演習での実施状況	**【年度計画 62-1】** 同左 **［評価指標］** ・同左	**【年度計画 62-1】** 同左 **［評価指標］** ・同左	**【年度計画 62-1】** 同左 **［評価指標］** ・同左	**【年度計画 62-1】** 同左 **［評価指標］** ・同左

中　期　目　標	中　期　計　画	年　度　計　画				
		令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度
	【計画 62-2】㋐ 地域の教育機関、保健医療福祉施設、自治体等との共同体制の下、医療・福祉・保健面における社会貢献を積極的に推進する。 **「計画達成のための方策」** 1.本学部の社会貢献の実践・可能性を発信し、異分野の大学との共同研鑽を行うとともに地域のニーズに応じた社会貢献を実践する。 2.コンソーシアム和歌山の教員及び学生の共同研究に参画する。 **［評価指標］** ・情報発信と社会貢献の実践数、ＩＣＴを活用した会議数、コンソーシアム和歌山の共同研究採択状況 **○助産学専攻科** **【計画 63】**㋐ キャンパス教育環境向上プロジェクトを推進する。 **「計画達成のための方策」** 1.学生が地域貢献できる学修環境の実現。 2.連携・共生の在り方を学ぶ。 3.大学キャンパス内の地域活動の貢献とともに、活動状況の広報を行い、さらなる拡大を目指し整備する。 4.医療機関にはできない訪問型のきめ細やかなサービスの提	**【年度計画 62-2】** 1.本学部の活動を発信する。 2.ＩＣＴを活用した会議の効果的な活用を行う。 3.コンソーシアム和歌山の教員及び学生の共同研究に応募し、１件以上採択を得る。 **［評価指標］** ・情報発信と社会貢献の実践数、ＩＣＴを活用した会議数、コンソーシアム和歌山の共同研究採択状況 **【年度計画 63】** 事業継続のため、地域のニーズに応えることのできる継続従事者となる人材育成を育成する。 1.働きやすい職場となるため従事者の待遇改善。 2.従事者が働く場の安全の確保と心の安寧を維持する。 3.日帰り型、訪問型、電話訪問・電話相談の検討と通所型、	**【年度計画 62-2】** 1.同左 2.同左 3.同左 4.県看護協会の委員会活動、研修会講師等で積極的に支援する。 5.市と共催の公開講座の定期的開催を継続する。 6.県・市・地域からのボランティア要請に協力する。 **［評価指標］** ・同左 ・委員会数、研修会講師受諾数、公開講座開催有無、ボランティア参加数 **【年度計画 63】** 活動の継続と拡大を図る。 1.活動の広報：学会や市民講座・交流集会などでの広報活動を行う。 2.母子支援に関する論文投稿を行う。 3.日帰り型、訪問型、電話訪問・電話相談の検討と通所型、外来機能などへの拡大を検討す	**【年度計画 62-2】** 同左 **［評価指標］** ・同左 **【年度計画 63】** 活動の継続と拡大を図る。 1.活動の広報：学会や市民講座・交流集会などでの広報活動を行う。 2.母子支援に関する論文投稿を行う。 3.日帰り型、訪問型、電話訪問・電話相談の検討と通所型、外来機能などへの拡大を検討する。	**【年度計画 62-2】** 同左 **［評価指標］** ・同左 **【年度計画 63】** 日帰り型、訪問型、電話訪問・電話相談の検討と通所型など、外来機能の活用を図る。	**【年度計画 62-2】** 同左 **［評価指標］** ・同左 **【年度計画 63】** 日帰り型、訪問型、電話訪問・電話相談の検討と通所型など、外来機能の活用を図る。

中　期　目　標	中　期　計　画	年　度　計　画				
		令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度
	供、地域的なニーズにも沿った対応ができる体制の構築を整える。 **「評価指標」** ・地域母子支援の助産師活動への参加機会の確保　2～3 回／年 **○和歌山助産学専攻科** **【計画 64】**㋐ 和歌山県の抱えるローカル化の問題を解決するために「遠隔診療技術の基礎」を選択科目としたカリキュラム編成を行い、遠隔授業で、僻地医療の問題を解決するための基礎力を養成する。 **「計画達成のための方策」** 和歌山県の抱えるローカル化の問題を解決するために「遠隔診療技術の基礎」を選択科目としたカリキュラム編成を行い、医療情報学科の教授を講師に迎え、あらゆるＩＣＴを駆使し遠隔授業で、僻地医療の問題を解決するための基礎力を養成する。 **「評価指標」** ・「遠隔診療技術の基礎」の履修又は聴講状況 **○感染制御学教育研究センター** **【計画 65】**㋐ 「感染制御実践看護学講座」及び「感染制御学企業人支援講座」を継続する。 **「計画達成のための方策」** 「感染制御実践看護学講座」及び「感染制御学企業人支援講座」を、社会貢献のひとつとして、ニ	外来機能などへの拡大を検討する。 **「評価指標」** ・地域母子支援の助産師活動への参加機会の確保　2～3 回／年 **【年度計画 64】** ガイダンスで「遠隔診療技術の基礎」の選択の必要性を説明し、学生全員が履修又は聴講する。 **「評価指標」** ・同左 **【年度計画 65】** 「感染制御実践看護学講座」及び「感染制御学企業人支援講座」を、社会貢献のひとつとして、ニ	る。 **「評価指標」** ・同左 **【年度計画 64】** 同左 **「評価指標」** ・同左 **【年度計画 65】** 同左	**「評価指標」** ・同左 **【年度計画 64】** 同左 **「評価指標」** ・同左 **【年度計画 65】** 同左	**「評価指標」** ・同左 **【年度計画 64】** 同左 **「評価指標」** ・同左 **【年度計画 65】** 同左	**「評価指標」** ・同左 **【年度計画 64】** 同左 **「評価指標」** ・同左 **【年度計画 65】** 同左	**「評価指標」** ・同左 **【年度計画 64】** 同左 **「評価指標」** ・同左 **【年度計画 65】** 同左

中　期　目　標	中　期　計　画	年　度　計　画				
		令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度
	ーズのある限り継続していく。 **「評価指標」** ・「感染制御実践看護学講座」及び「感染制御学企業人支援講座」の開催状況及び受講者数 **○産後ケア研究センター** **【計画 66】㋐** 大学キャンパス内外の地域活動に貢献するとともに、活動状況の広報を行い、さらなる拡大を目指し整備するとともに、医療機関にはできない訪問型のきめ細やかなサービスの提供、地域的なニーズにも沿った対応ができる体制の構築を整える。 **「計画達成のための方策」** 1.産前産後ケア事業〔助産師による専門的支援の実施（訪問型）〕の推進。 2.品川区役所や産科医療機関との連携強化事業の強化（情報交換など）を図る。 **「評価指標」** ・日帰り型　190 件／年→280 件／年への増加 ・訪問型　200 件／年→280 件／年への増加	ーズのある限り継続していく。 **「評価指標」** ・「感染制御実践看護学講座」及び「感染制御学企業人支援講座」の開催状況及び受講者数 **【年度計画 66】** 事業継続のため、地域のニーズに応えることのできる継続従事者となる人材を育成する。 1.働きやすい職場となるため従事者の待遇改善。 2.従事者が働く場の安全の確保と心の安寧を維持する。 **「評価指標」** ・日帰り型　190 件／年→280 件／年への増加 ・訪問型　200 件／年→280 件／年への増加	**「評価指標」** ・同左 **【年度計画 66】** 活動の継続と拡大を図る。 1.活動の広報：学会や市民講座・交流集会などでの広報活動を行う。 2.母子支援に関する論文投稿を行う。 **「評価指標」** ・同左	**「評価指標」** ・同左 **【年度計画 66】** 活動の継続と拡大を図る。 1.活動の広報：学会や市民講座・交流集会などでの広報活動を行う。 2.母子支援に関する論文投稿を行う。 **「評価指標」** ・同左	**「評価指標」** ・同左 **【年度計画 66】** 日帰り型、訪問型、電話訪問・電話相談の検討と通所型など、外来機能の活用を図る。 **「評価指標」** ・同左	**「評価指標」** ・同左 **【年度計画 66】** 日帰り型、訪問型、電話訪問・電話相談の検討と通所型など、外来機能の活用を図る。 **「評価指標」** ・同左

東京医療保健大学　第３期中期目標・計画（令和４年度～令和８年度）

中　期　目　標	中　期　計　画	年　度　計　画				
		令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度
10. 大学運営・財務 **(1)「大学運営」** (1)本学の理念・目的並びにビジョンを実現し、教育研究活動等を円滑に遂行するため、所要の規程等を整備し運用するとともに、全教職員が意識を共有し本学の将来を見据えた中期計画等を策定し、実行する。また、中期計画等の策定を通じて、さらなるガバナンス機能の向上を目指すとともに、広く社会に対して本学の教育研究活動等の取組について周知を図る。	**10. 大学運営・財務** **(1)「大学運営」** **【計画67】（企画部）** 令和4年度を初年度とする第3期中期目標・計画及び現行「アクションプラン」を着実に推進しつつ、令和9年度を初年度とする第4期中期目標・計画及び次期「アクションプラン」を計画的に策定する。 **「計画達成のための方策」** 第3期中期目標・計画及び現行「アクションプラン」を着実に推進しつつ、第4期中期目標・計画及び次期「アクションプラン」を策定するための体制を整備し、計画的に策定作業を進める。 **「評価指標」** ・第３期中期目標・計画及び現行「アクションプラン」の推進状況及び第４期中期目標・計画及び次期「アクションプラン」の策定作業状況 **【計画 68】（企画部）** 本学園のガバナンスの取組について、社会に対し説明責任を果たすため、ガバナンス・コードを明示し、その遵守に取り組むとともに、毎年度適合状況を点検し、その結果をホームページにおいて公表する。 **「計画達成のための方策」** ガバナンス・コードを明示し、そ	**【年度計画 67】** 第3期中期目標・計画及び現行「アクションプラン」を着実に推進する。 **「評価指標」** ・第３期中期目標・計画及び現行「アクションプラン」の推進状況 **【年度計画 68】** ガバナンス・コードを明示し、そ	**【年度計画 67】** 同左 **「評価指標」** ・同左 **【年度計画 68】** 同左	**【年度計画 67】** 同左 **「評価指標」** ・同左 **【年度計画 68】** 同左	**【年度計画 67】** 第3期中期目標・計画及び現行「アクションプラン」を着実に推進しつつ、第4期中期目標・計画及び次期「アクションプラン」を策定するための体制を整備し、計画的に策定作業を進める。 **「評価指標」** ・第３期中期目標・計画及び現行「アクションプラン」の推進状況及び第４期中期目標・計画及び次期「アクションプラン」の策定作業状況 **【年度計画 68】** 同左	**【年度計画 67】** 第3期中期目標・計画及び現行「アクションプラン」を着実に推進しつつ、第4期中期目標・計画及び次期「アクションプラン」の策定作業を進め完成させる。 **「評価指標」** ・同左 **【年度計画 68】** 同左

中　期　目　標	中　期　計　画	年　度　計　画				
		令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度
	の遵守に取り組むとともに、毎年度適合状況を点検し、その結果をホームページにおいて公表する。 **「評価指標」** ・ガバナンス・コードの点検及び公表状況 **【計画 69】（総務人事部）** 大学経営において重要な政策を策定、管理する人材の育成や登用を計画的に推進する。 **「計画達成のための方策」** 理事や学長などの大学経営者は、各種セミナー等に参加し、更なる経営者マインドの醸成を図るとともに、大学の将来を担う幹部候補生に対し、重要な大学経営業務を担わせるなどにより経験値を高めていくなど、人材養成を推進する。 **「評価指標」** ・大学経営者の各種セミナー等の参加状況及び学長補佐等の登用状況 **【計画 70】（学長戦略本部）** 学長を中心とする大学運営組織を基盤として、ガバナンス機能を強化する。特に、理事会・評議員会、大学経営会議、外部評価委員会等の学外委員、有識者の意見やニーズを適切に反映するとともに、組織横断的かつ柔軟な大学運営を行うための体制整備を行う。 **「計画達成のための方策」** 学長を補佐し、大学の重要課題への対応方策の企画、立案、調整及	の遵守に取り組むとともに、毎年度適合状況を点検し、その結果をホームページにおいて公表する。 **「評価指標」** ・ガバナンス・コードの点検及び公表状況 **【年度計画 69】** 理事や学長などの大学経営者は、各種セミナー等に参加し、更なる経営者マインドの醸成を図るとともに、大学の将来を担う幹部候補生に対し、重要な大学経営業務を担わせるなどにより経験値を高めていくなど、人材養成を推進する。 **「評価指標」** ・大学経営者の各種セミナー等の参加状況及び学長補佐等の登用状況 **【年度計画 70】** 学長を補佐し、大学の重要課題への対応方策の企画、立案、調整及	**「評価指標」** ・同左 **【年度計画 69】** 同左 **「評価指標」** ・同左 **【年度計画 70】** 同左	**「評価指標」** ・同左 **【年度計画 69】** 同左 **「評価指標」** ・同左 **【年度計画 70】** 同左	**「評価指標」** ・同左 **【年度計画 69】** 同左 **「評価指標」** ・同左 **【年度計画 70】** 同左	**「評価指標」** ・同左 **【年度計画 69】** 同左 **「評価指標」** ・同左 **【年度計画 70】** 同左

中　期　目　標	中　期　計　画	年　度　計　画				
		令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度
	び推進に関する校務を担う「学長戦略本部」を設置し、学長補佐等として優秀な人材を適切に配置するとともに、大学の重要課題である全学的な教学マネジメントシステムの改善、ＤＸの推進等を図る。 **「評価指標」** ・学長補佐等の配置状況及び重要課題等への取組状況	び推進に関する校務を担う「学長戦略本部」を設置し、学長補佐等として優秀な人材を適切に配置するとともに、大学の重要課題である全学的な教学マネジメントシステムの改善、ＤＸの推進等を図る。 **「評価指標」** ・学長補佐等の配置状況及び重要課題等への取組状況	**「評価指標」** ・同左	**「評価指標」** ・同左	**「評価指標」** ・同左	**「評価指標」** ・同左
	【計画 71】(企画部) 本学の各種情報を様々なステークホルダーに広く国内外へ発信し、大学の理解を深めるとともに、大学としての説明責任を果たすため、外国語版を含めたウェブサイトの内容を更に改善・充実させる。 **「計画達成のための方策」** 様々なステークホルダーに大学の情報を発信し、大学の説明責任を果たすため、英語版を含む大学ホームページの内容を更に改善・充実させる。 **「評価指標」** ・ホームページの更新状況	**【年度計画 71】** 教育活動に関する情報や財務に関する情報等について、学生や学費負担者、入学希望者等の直接の関係者に対する説明責任を果たすため、適切に情報の公表を進める。 **「評価指標」** ・ホームページの更新状況	**【年度計画 71】** 同左 **「評価指標」** ・同左	**【年度計画 71】** 同左 **「評価指標」** ・同左	**【年度計画 71】** 同左 **「評価指標」** ・同左	**【年度計画 71】** 同左 **「評価指標」** ・同左
(2)法令遵守を徹底し、社会からの高い信頼を確保する。特に、研究活動における不正行為、研究費の不正使用の防止体制を強化し研究倫理教育も含め、研究活動に対する高い信認を確保するとともに、情報セキュリティの基本方針に沿った情報の利用管理を徹	**【計画 72】**(企画部・内部監査室) 法令遵守による社会の高い信頼を確保するため、内部統制を機能させ、教育・研究、社会貢献、大学運営等のＰＤＣＡサイクルを徹底するとともに、内部統制の取組について業務監査を実施する。 **「計画達成のための方策」**	**【年度計画 72】**	**【年度計画 72】**	**【年度計画 72】**	**【年度計画 72】**	**【年度計画 72】**

中　期　目　標	中　期　計　画	年　度　計　画				
		令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度
底する。	監事監査がより円滑に行えるよう監事監査マニュアル等を策定すること等により、監査環境を整備するとともに、監事は毎年度監事監査計画や監査報告書を作成し、その結果を報告する。また、内部監査室体制を強化し、毎年度計画的に内部監査業務を実施し報告する。 **「評価指標」** ・監事による監事監査計画や監事報告書の作成・報告状況及び、内部監査室による内部監査計画や内部監査報告書の作成･報告状況 **【計画 73】（研究協力部）** 適正な研究活動を実施するため、研究活動の保持･推進に向けた体制の整備・検証を行うとともに、不正行為の未然防止を図るため、研究倫理教育を実施し、研究倫理の意識の向上と浸透を図る。 **「計画達成のための方策」** 1. 本部及び各部局において、それぞれ研究者等に対する研究倫理教育を計画的に実施する。 2. 不正根絶に向けた意識の向上と浸透を目的とした啓発活動を継続的に実施する。 **「評価指標」** ・本部及び各部局における研究倫理教育実施時のアンケート調査の分析結果状況 **【計画 74】（研究協力部）** 公的研究費の不正使用を防止す	監事監査マニュアル等に基づき、監事による監事監査計画や監事報告書を作成し、その結果を学内会議に報告する。また、内部監査室による内部監査計画や内部監査報告書を作成し、その結果を学内会議に報告する。 **「評価指標」** ・監事による監事監査計画や監事報告書の作成・報告状況及び、内部監査室による内部監査計画や内部監査報告書の作成・報告状況 **【年度計画 73】** 1. 本部及び各部局において、それぞれ研究者等に対する研究倫理教育を計画的に実施する。 2. 不正根絶に向けた意識の向上と浸透を目的とした啓発活動を継続的に実施する。 **「評価指標」** ・倫理教育実施時のアンケート調査の分析結果状況	同左 **「評価指標」** ・同左 **【年度計画 73】** 1. 同左 2. 同左 **「評価指標」** ・同左	同左 **「評価指標」** ・同左 **【年度計画 73】** 1. 同左 2. 同左 **「評価指標」** ・同左	同左 **「評価指標」** ・同左 **【年度計画 73】** 1. 同左 2. 同左 **「評価指標」** ・同左	同左 **「評価指標」** ・同左 **【年度計画 73】** 1. 同左 2. 同左 **「評価指標」** ・同左

中　期　目　標	中　期　計　画	年　度　計　画				
		令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度
	るため、公的研究費等の適正な管理及び運営を行う。 **「計画達成のための方策」** 不正使用防止対策の実施状況の検証、コンプライアンス教育及び不正使用防止対策のモニタリングを通じて、公的研究費等の適正な管理及び運営を行う。 **「評価指標」** ・不正使用防止対策の実施状況の検証、不正使用防止対策のモニタリングの実施状況、公的研究費等の適正な管理及び運営の実施状況、コンプライアンス教育の実施状況、誓約書の提出状況 **【計画 75】（総務人事部）** 個人情報を含めた情報資産の適正かつ円滑な運営のため、情報セキュリティに関する学生・教職員の意識改革のための研修会等を実施するとともに、各種ソウトウェアの適正な利用等を含む情報資産の管理状況の検証を行う。 **「計画達成のための方策」** 情報セキュリティに関する学生・教職員の意識改革のための研修会等を実施するとともに、各種ソウトウェアの適正な利用等を含む情報資産の管理状況の検証を行う。 **「評価指標」** ・情報セキュリティに関する学生・教職員の研修会等の実施状況及び情報資産の管理状況	**【年度計画 74】** 不正使用防止対策の実施状況の検証、コンプライアンス教育及び不正使用防止対策のモニタリングを通じて、公的研究費等の適正な管理及び運営を行う。 **「評価指標」** ・不正使用防止対策の実施状況の検証、不正使用防止対策のモニタリングの実施状況、公的研究費等の適正な管理及び運営の実施状況、コンプライアンス教育の実施状況、誓約書の提出状況 **【年度計画 75】** 情報セキュリティに関する学生・教職員の意識改革のための研修会等を実施するとともに、各種ソウトウェアの適正な利用等を含む情報資産の管理状況の検証を行う。 **「評価指標」** ・情報セキュリティに関する学生・教職員の研修会等の実施状況及び情報資産の管理状況	**【年度計画 74】** 同左 **「評価指標」** ・同左 **【年度計画 75】** 同左 **「評価指標」** ・同左	**【年度計画 74】** 同左 **「評価指標」** ・同左 **【年度計画 75】** 同左 **「評価指標」** ・同左	**【年度計画 74】** 同左 **「評価指標」** ・同左 **【年度計画 75】** 同左 **「評価指標」** ・同左	**【年度計画 74】** 同左 **「評価指標」** ・同左 **【年度計画 75】** 同左 **「評価指標」** ・同左

中　期　目　標	中　期　計　画	年　度　計　画				
		令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度
(3)教育研究活動等の適切かつ効果的な運営を図るために必要となる事務職員等の知識・技能の習得及び更なる能力・資質の向上を図る。	**【計画 76】（総務人事部）** 年々高度化・複雑化する大学の教育研究活動等に適切に対応するため、教職協働による業務遂行は不可欠となっていることから、教員と事務職員等が協働して業務に当たっていけるよう、大学の教育研究活動等の適切かつ効果的な運営を図ることが出来る知識や技能を習得させ、更にその能力・資質を向上させるため、ＳＤ等の研修内容の充実を図る。また、事務職員等の適正な業績評価と処遇についての基準の設定について検討を行い、新たな人事評価制度を導入する。 **「計画達成のための方策」** 1. 教職協働のために事務職員等に習得させるべき知識・技能等を明確化した上で、それらを習得させるためのＳＤを計画的に実施する。 **「評価指標」** ・事務職員等に対するＳＤの実施状況 2. 事務職員等の適正な業績評価と処遇についての基準の設定について検討を行い、新たな人事評価制度を導入する。 する。 **「評価指標」** ・新たな人事評価制度の導入状況	**【年度計画 76】** 1. 教職協働のために事務職員等に習得させるべき知識・技能等を明確化した上で、それらを習得させるためのＳＤを計画的に実施する。 **「評価指標」** ・事務職員等に対するＳＤの実施状況 2. 事務職員等の適正な業績評価と処遇についての基準の設定について検討を行い、新たな人事評価制度を導入する。 する。 **「評価指標」** ・新たな人事評価制度の導入状況	**【年度計画 76】** 1. 同左 **「評価指標」** ・同左 2. 同左 **「評価指標」** ・同左	**【年度計画 76】** 1. 同左 **「評価指標」** ・同左 2. 同左 **「評価指標」** ・同左	**【年度計画 76】** 1. 同左 **「評価指標」** ・同左 2. 同左 **「評価指標」** ・同左	**【年度計画 76】** 1. 同左 **「評価指標」** ・同左 2. 同左 **「評価指標」** ・同左
(4)教職員の働き方改革を推進し、勤務時間管理の適正化・業務	**【計画 77】（総務人事部）** 教職員のワーク・ライフ・バラン					

中　期　目　標	中　期　計　画	年　度　計　画				
		令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度
の効率化を図る。	ス支援体制を充実し、職場ＤＸを推進し、効率化を図りながら、教職員の勤務時間管理の適正化を図るとともに、休暇の取得しやすい環境を整備する。 **「計画達成のための方策」** ・各部局において、教職員のワーク・ライフ・バランス支援体制を充実し、職場でのＤＸを推進し、業務の効率化を図りながら、教職員の超過勤務時間の縮減を図るとともに、休暇の取得日数の増加を図る。 **「評価指標」** ・職場でのＤＸの推進状況、教職員の超過勤務時間の状況及び休暇の取得日数の状況	**【年度計画 77】** ・各部局において、教職員のワーク・ライフ・バランス支援体制を充実し、職場でのＤＸを推進し、業務の効率化を図りながら、教職員の超過勤務時間の縮減を図るとともに、休暇の取得日数の増加を図る。 **「評価指標」** ・職場でのＤＸの推進状況、教職員の超過勤務時間の状況及び休暇の取得日数の状況	**【年度計画 77】** ・同左 **「評価指標」** ・同左	**【年度計画 77】** ・同左 **「評価指標」** ・同左	**【年度計画 77】** ・同左 **「評価指標」** ・同左	**【年度計画 77】** ・同左 **「評価指標」** ・同左
(5)安心して学べる場と安全な教育研究環境を提供する。	**【計画 78】(総務人事部・企画部)** コロナウイルス感染症対策をはじめとする様々なリスクに対する、全学的なリスクマネジメントの取組を推進し、学生・教職員にとって安全・安心なキャンパス、職場環境及び教育研究環境を整備する。 **「計画達成のための方策」** コロナウイルス感染症対策をはじめとする様々なリスクに対し、危機対策統括本部等において、適切に全学的なリスクマネジメントを行う。 **「評価指標」** ・危機対策統括本部等における全学的なリスクマネジメントの対応状況	**【年度計画 78】** コロナウイルス感染症対策をはじめとする様々なリスクに対し、危機対策統括本部等において、適切に全学的なリスクマネジメントを行う。 **「評価指標」** ・危機対策統括本部等における全学的なリスクマネジメントの対応状況	**【年度計画 78】** 同左 **「評価指標」** ・同左	**【年度計画 78】** 同左 **「評価指標」** ・同左	**【年度計画 78】** 同左 **「評価指標」** ・同左	**【年度計画 78】** 同左 **「評価指標」** ・同左

中　期　目　標	中　期　計　画	年　度　計　画				
		令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度
	【計画 79】（総務人事部） 学生･教職員の健康を維持するため、生活習慣病対策、メンタルヘルスケア意識の向上のための取組を推進する。 **「計画達成のための方策」** 生活習慣病対策､ストレスチェック制度を利用したメンタルヘルス予防対策に取り組む。 **「評価指標」** ・生活習慣病対策、メンタルヘルス予防対策の取組状況	**【年度計画 79】** 生活習慣病対策、ストレスチェック制度を利用したメンタルヘルス予防対策に取り組む。 **「評価指標」** ・生活習慣病対策、メンタルヘルス予防対策の取組状況	**【年度計画 79】** 同左 **「評価指標」** ・同左	**【年度計画 79】** 同左 **「評価指標」** ・同左	**【年度計画 79】** 同左 **「評価指標」** ・同左	**【年度計画 79】** 同左 **「評価指標」** ・同左
	【計画 80】（総務人事部） 学生･教職員に対するパワーハラスメント､アカデミックハラスメント、セクシュアルハラスメント､その他ハラスメントのないキャンパスを目指して、研修・講演会等の取組を推進する。 **「計画達成のための方策」** ハラスメントのないキャンパスを目指し､ハラスメントに関する研修・講演会等の実施により、学生・教職員の意識啓発を行う。また､相談しやすい相談窓口の体制整備を図る。 **「評価指標」** ・ハラスメントに関する研修･講演会等の実施状況及びハラスメント事例の対応状況	**【年度計画 80】** ハラスメントのないキャンパスを目指し、ハラスメントに関する研修・講演会等の実施により、学生・教職員の意識啓発を行う。また、相談しやすい相談窓口の体制整備を図る。 **「評価指標」** ・ハラスメントに関する研修・講演会等の実施状況及びハラスメント事例の対応状況	**【年度計画 80】** 同左 **「評価指標」** ・同左	**【年度計画 80】** 同左 **「評価指標」** ・同左	**【年度計画 80】** 同左 **「評価指標」** ・同左	**【年度計画 80】** 同左 **「評価指標」** ・同左

中　期　目　標	中　期　計　画	年　度　計　画				
		令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度
(2)「財務」 (1)本学の理念・目的を達成し教育研究等を円滑に遂行するため、中・長期の財政計画に基づき、安定的な財務基盤の確立を図る。	**(2)「財務」** **【計画 81】(経理財務部、入試広報部)** 入学定員を充足し､学納金収入等の安定的な確保を図る **「計画達成のための方策」** 新学習指導要領に準じた出張講義の創出と高大接続関係強化を図るとともに､イベント運営方法を見直し、紹介パンフレットやＨＰ等の刷新による情報発信強化及び地域性を重視した高校訪問活動の強化を図る。 **「評価指標」** ・全学部･全学科の定員確保状況 **【計画 82】(経理財務部)** 私立大学等改革総合支援事業補助金等の獲得増に向け､大学のシーズを育てる等工夫をする **「計画達成のための方策」** 毎年提示される各選定項目の詳細検証と精査を行い､部長会等上部会議体を通じた各部連携により､全学一丸となった取組みを強化する。 **「評価指標」** ・タイプ１「『Society5.0』の実現等に向けた特色のある教育の展開」の申請と支援対象校としての確実な選定状況 **【計画 83】(経理財務部)** 教育研究遂行上必要経費は適切に措置するとともに､管理経費等の内容を精査し節減を図る。 **「計画達成のための方策」**	**【年度計画 81】** 新学習指導要領に準じた出張講義の創出と高大接続関係強化を図るとともに、イベント運営方法を見直し、紹介パンフレットやＨＰ等の刷新による情報発信強化及び地域性を重視した高校訪問活動の強化を図る。 **「評価指標」** ･全学部・全学科の定員確保状況 **【年度計画 82】** 毎年提示される各選定項目の詳細検証と精査を行い、部長会等上部会議体を通じた各部連携により、全学一丸となった取組みを強化する。 **「評価指標」** ・１「『Society5.0』の実現等に向けた特色のある教育の展開」の申請と支援対象校としての確実な選定状況 **【年度計画 83】**	**【年度計画 81】** 同左 **「評価指標」** ・同左 **【年度計画 82】** 同左 **「評価指標」** ・同左 **【年度計画 83】**	**【年度計画 81】** 同左 **「評価指標」** ・同左 **【年度計画 82】** 同左 **「評価指標」** ・同左 **【年度計画 83】**	**【年度計画 81】** 同左 **「評価指標」** ･同左 **【年度計画 82】** 同左 **「評価指標」** ・同左 **【年度計画 83】**	**【年度計画 81】** 同左 **「評価指標」** ・同左 **【年度計画 82】** 同左 **「評価指標」** ・同左 **【年度計画 83】**

中　期　目　標	中　期　計　画	年　度　計　画				
		令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度
	稟議･経費申請内容の詳細チェックを行い、経費措置・経費利用に関し全体への啓発を実践し､経費の質を追求する。 **「評価指標」** ・経費に係る各財務比率の推移検証(目途値達成)	稟議・経費申請内容の詳細チェックを行い、経費措置・経費利用に関し全体への啓発を実践し、経費の質を追求する。 **「評価指標」** ・経費に係る各財務比率の推移検証(目途値達成) ・人件費率上限 60% ・教育研究比率 30%超 ・管理経費比率上限 10%	同左 **「評価指標」** ・同左	同左 **「評価指標」** ・同左	同左 **「評価指標」** ・同左	同左 **「評価指標」** ・同左
(2)財務内容の明確化・透明化を図り､学内外への説明責任を果たす。	**【計画 84】(経理財務部)** 財務内容の精緻な検証と厳格な監査実施､それらに基づく対外公表を実施する **「計画達成のための方策」** 財務比率指標に基づき､毎年度検証を実施するとともに､監査法人及び監事監査の定期実施を行う。 **「評価指標」** ・財務諸表の公開 ・監査報告書の公表	**【年度計画 84】** 財務比率指標に基づき、　毎年度検証を実施するとともに、監査法人及び監事監査の定期実施を行う。 **「評価指標」** ・財務諸表の公開 ・監査報告書の公表	**【年度計画 84】** 同左 **「評価指標」** ・同左	**【年度計画 84】** 同左 **「評価指標」** ・同左	**【年度計画 84】** 同左 **「評価指標」** ・同左	**【年度計画 84】** 同左 **「評価指標」** ・同左